
三題噺さんまい

星野 雫(Elwing)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺さんまい

【Nコード】

N2622M

【作者名】

星野 雫 (Elwing)

【あらすじ】

三題噺スイッチというページでもらえるお題で三題噺を書いて行こうというものです。第90話までは、<http://sodah.hp.infoseek.co.jp/sandai.html>のページで貰えるお題で書いてましたけど、ある日、突然そのページが無くなってしまって、探しなおして、第91話以降はhttp://www.ktrmagician.com/cgi-bin/sandai_banashi.cgiからお題を貰っています。

私自身が貰ったお題以外にも、最初の数話は抹茶小豆さんがやってたお題も載せて見ました。（やっぱり、一度見たお題は、自分でも何かを作りたくて…）一日一題、と行けばいいですが、時として間が開くかも知れません。各話200文字にしようと思います。つまり「ジャスト200文字の連作」です。そして、基本的にはコメディ路線で行こうと思っています。

それでも、時として、ふらっと甘いお話を作っちゃっています。結構「なんじゃこれは？」言いたくなるようなものも多いかも知れませんが、そんなお話にはビシビシご指摘を、そして、感想等いただける大変幸せです。

よろしくお願いいたします。

Wikiで仕入れた蒔蓄について追記しておきます。

三題噺（さんだいばなし。三題話、三題咄とも書くそうです）とは、落語の形態の一つで、寄席で演じる際に観客に適当な言葉・題目を出させ、そうして出された題目3つを折り込んで即興で演じる落語のことだそうです。

元来、トリを取れるような真打ちだけがやったもので、客席から3つ「お題」を出してもらい即席で演じたということです。さらに、出して貰う「題」にも決まりがあって、「人の名前」「品物」「場所」の3つで、どれかを「サゲ（落ち）」に使うという決まりだった様です。

（これは、ほぼWikiからの引用です）

煙突、唐辛子、男

江戸っ子ってのは、粹な生き物だ。

男の癖に甘いものが好きだなんて言ったらなめられる。

ピリツと辛いものを好む男が尊敬されるってもんだ。

だから、うどんでも蕎麦でも、必ず唐辛子をふりかけ、ズツとかつこむ。

そして、銭湯。

夕暮れ時、煙突から煙が立ち昇る頃、手ぬぐい片手に下駄を履いて風呂に行く。

もちろん、お湯は熱々だ。

お湯から出たら体重計に乗り、最後はコーヒー牛乳で決まりだ。

うーん。この甘さがたまらないよね。

煙突、唐辛子、男（後書き）

唐辛子をどう使うか、で悩みました。抹茶さんが既に、作られていて、その銭湯にちょっと引っ張られたかも知れませんか。うーん。

新聞、タコ、王子

立派な国王を育てる為、今日も教育係は懸命に働いていた。

「どうぞ新聞をお読みください」

「どうして私が？」

「立派な国王になる為です」

「私は国王にはなりません」

「何を仰いますか！ その様なわがままは許されませんぞ」
「…」

教育係は一日中つきつきり。食事の時も一緒。

「イカはお嫌いですか？」

「私はタコの方が好きです」

「国王は好き嫌いをしてはなりません」

「何度言ったら判るのかな。 私は王女。 王子はとなりです」

アレ？

新聞、タコ、王子（後書き）

タコがちょっと強引かなあ？新聞もなんだか……。まあ、全体の様子としては、まあまあ、な気はしてるのですが、やはり、お題の絡みが弱い感じがします。

薪、太陽、結婚式

それは太陽が輝く夏の日だった。

晴れ渡る青空の下、ガーデンチャペルで私たちは結婚式を挙げた。みんなの祝福を受け、私たちは幸せいっぱいだった。

その後の披露宴は、一風変わっていてキャンプファイヤーだった。そのキャンプファイヤーは一晩中続いた。二次会も三次会もなかった。

私たちは飲み、食べ、そして歌って踊った。

あくる朝、私たちの家は跡形もなかった。

昨夜、薪だと思って燃やしたのは私たちの新居だった。

ガチヨーン

薪、太陽、結婚式（後書き）

えへへ。これは、以前、抹茶さんの活動報告に落書きしたものです。それを200文字になる様に調整しました。最後のガチヨーンは文字数合わせの感じが…。

畑、種、神

神様の種つてのをジャパネットタカタで買った。

これはいい物を手に入れた！　そう思い、もちろん畑にまいた。
そのまま順調に育てば楽だけど。

だが、自然の猛威はすさまじく、日照り、大雨、カラス……。散々な目にあつた。

それでも、この種が芽を出せば、そして実を付ければ！
そう考え頑張つた。

とにかく一生懸命に世話をした。

そして、とうとう花が咲き、実が生つた。

だが、世の中つて思う様にはいかない。

実つたのは、貧乏神だつた。

畑、種、神（後書き）

これも、以前、抹茶さんの活動報告のコメントを汚したものの焼き直しです。神様の種にするか、畑にするか、で種にしました。畑は通販で買えないので。^^；

鏡、鷹、男

今日はピーカンに晴れで絶好の狩日和だ。僕は鷹を狩に来ていた。どうしてって、この間、彼女が言ってたんだ。

「鷹ってすごいよね！ 捕まえる様な男の人に憧れちゃう！」
判りやすくいいでしょ？

でも、どうやって捕まえるかって？

この鏡で太陽光を「ピカッ」と反射させて目潰しをすれば鷹が落ちる。

どう？簡単でしょ？

ほら、言ってる傍から鷹が飛んできた。見ててね？

ピカッ

ちよっとずれたかな？

おかしいな。飛行機が落ちちゃった。

鏡、鷹、男（後書き）

鏡の使いみちに悩みました。後は『男』の使い方…。『おとこ』
って読ませるのには『漢』ってのもありますよね。そっちだったら
別の使い方かなあ。あ、どっちかっていうと、第一話の江戸っ子は
『漢』ですかねえ？ちよつと甘党だったけどね。

弁当、日向、魔法

今、私の目の前に弁当が置かれていた。食べたい…。

とても、とてもお腹が空いていたから。

けど、怪しい。

毒入りの可能性が高い。だが、魔法遣いの私は簡単には畏にはまらない。

私は魔法を使って、丹念にその弁当を調べた。
すぐに食べたいのを我慢して、十分に調べた。

結果、毒が仕掛けられている可能性は無いと判断した。
「いただきます！」

三十分後、私は食中毒で緊急入院した。

夏の日向に何時間もさらされた弁当は腐っていた。

弁当、日向、魔法（後書き）

このお題からは、私が『三題噺スイッチ』から直接もらったお題になります。魔法の使い方がどうでもいい使い方になってるかなあ？
まあ、何とか！

眼鏡、アリ、肉

僕はオタクだ。

オタクって言うと、眼鏡をかけ、太ってるイメージがある様だ。

けど、僕の視力は1.5だし、あまり肉を食べないせいか痩せ気味だ。

そのせいか、僕が自分の事を『オタク』だと自己紹介すると、みんな驚く。

で、何のオタクか？って言うと、その時によるけど、今はアリだ。アリって言うのは実に面白い生き物だ。

まず、土の中に住んでいる。

そして鋭い爪で穴を掘り進む。
主にミミズを食べる。

え？ それはモグラ？ うそ…。

眼鏡、アリ、肉（後書き）

アリと肉が中々繋がりませんでした。今でも、その二つが繋がってる訳じゃないですけど、それでも、お話としては何とかつながったかな。オタクが登場するまでは、お題が絡まず、その後も、オチが中々出てきませんでした。ちょっと強引かな？とは思いますが、よろしく願います。

合図、島、心臓

この島の秘密は、国際救助隊の秘密基地って事だ。
隊員は世界各地からの合図で救助に出掛けていく。

そして、救助した人達を連れ帰ってきて、島の病院に収容する。
小児科から癌治療まで、先進の病院だ。心臓移植だって出来る。

だが、秘密の島では保険がきかない。

「お客さん。この薬いくらだと思ってるの？」

「で、でも、頂かないと死んでしまいます」

「そうだね。じゃ、ここにサインしてね」

「オニ……」

救助隊の経営はとても順調だ。

合図、島、心臓（後書き）

国際救助隊。サンダーバーズ、アーゴー！ちゃんちゃらちゃん
懐かしいです。南の島に住む大富豪が、様々なピンチに駆けつける
正義のヒーロー集団。カッコよかったなあ…。これは、そのサンダ
ーバードとは関係はありません。何となく、国際救助隊って名前は
使っちゃいましたけど…。うーん、これからの医療、どうなるのか
なあ…。

弁当、喋る鳥、叩く

弁当を食べていると、鳥が寄って来た。

「なんだ、腹でも減ってるのか？」

そう思い、卵焼きを投げてやった。鳥はテテテと近付いてついはむと

「ペペペ 超甘いじゃないか！」

そう言った。

鳥のくせに贅沢な。そう思った。

けど… あれ？ あの鳥しゃべった？ 喋る鳥？
パツと手を伸ばして鳥を捕まえる。

「離せよ」

そう言いながら、羽や足で僕の手を叩く。まだ喋ってる。

「今夜は鶏肉だ！」

「え… せめてサーカスに売ってよ」

やっぱり贅沢だ。

弁当、喋る鳥、叩く（後書き）

喋る鳥、生意気ですねえ。でも、やっぱり卵焼きは、葱入りがおいしいですよ？まあ、たまには砂糖入りの、あまーいのもいいけど…。さて、この後の喋る鳥の運命はどうなったんでしょうね？意外と、この男の人と一緒に住んで、卵焼きの焼き方に文句をつける、そんな生活になったんじゃないか？なんて『想像』しています。

工場、刺、小さな

私は下町の工場に勤めている。

どうと言う事の無い、ごく普通の町工場だと思った。

けど、最近まで知らなかったのだが、ここで作っている小さな部品はすごいらしい。

その事を知ったのは、テレビがこの工場の事の特集したからだった。その放送以来、社長はいつもニコニコしている。今にも浮かび上がリそうだ。

「風船みたい」密かにそう思った。

パンツ

と音がして振り向くと、社長が居なかった。

ふと見ると、社長の机に刺が生えていた。

工場、刺、小さな（後書き）

パンツと破裂するのは、工場の方が良かったかなあ？最初はそんな話にしようと思ったんですけど、小さな、使いどころに困って、日本の下町の工場って結構すごい製品を作ってるんだよってテレビを（何かで見た気がします）思い出して、それだ。ってしたら、破裂するのは得意満面の社長になってしまいました…。

本、煙、脂肪

一生懸命に火熾しを続けた甲斐があり、煙に続いて、小さな火が熾った。

その火を使って、僕たちは料理を始めた。

ウサギの肉から脂肪がしたたり、ジュウジュウと音を立てた。自然とお腹がなった。

以前は、僕の生活とは暖かな部屋で本を読むことだった。こんな生活を始めるとは、夢にも思わなかった。

けど、後悔はしていない。
生きる実感を味わっている。

となりでは逞しくも可愛い妻がもりもりと食べている。
僕は自然と笑顔になった。

本、煙、脂肪（後書き）

うーん。これは、書き始めてすぐに、コメディにするのを諦めてしまいました。イメージは森薫先生の『乙嫁語り』に引っ張られてい
ると思ってます。『逞しくも可愛い妻』はもちろんアミルのイメー
ジ。『僕』はスミスさんが2/3で、残りがやはりカルルクですね。
以前は想像すらしていなかった生活。生きていく事自体が大変な事。
ある意味、死は日常に隣り合わせ。そんな生活の中でこそきらめく
命と想いを鮮明に感じる。ってイメージかな？

家畜小屋、木のうろ、馬飼

僕は馬飼だ。

お世話しているのは、お姫様の馬だ。ほら、あの立派な栗毛の馬がそうだ。

お姫様がお出かけの時は、僕が馬を引いて歩く。

でも、実はそれだけじゃない。

僕とお姫様はお互いに好きあってるんだ。

時として、この木のうろに手紙を潜ませて、想いを伝えあってるんだ。

実は、これからお姫様がやってくる事になってる。

「あ、姫様！」

こんな家畜小屋でも、とてもきれいだ。

けど、お姫様の言葉は…

「ああ！ 私のハイセイコー！」

家畜小屋、木のうろ、馬飼（後書き）

このお題は、馬飼って何？？って処から始まりました。まあ、結局は字のまんま、馬の世話をする人、という事らしいですが…。お嬢様と、召使の恋！許されない恋に燃え上がる二人の心！「お嬢様！愛してます！」「私もよ、ハイセイコー！」あれ？ナンチャッテ。

鍋、谷、天上界

僕たちのサークルの新人歓迎会は、泊まり込みでの闇鍋大会だ。

当然、味は最低だ。いや、味以前に本当に食べ物なのか？ 食べても大丈夫なんだろうか？

今年も、鍋はほとんど手付かずで残った。

例年同様、残った鍋を近くの谷に捨てに行った。

どういう訳か、そこには神様たちが待ち構えていた。彼らは争う様に、鍋をあつという間に食べてしまうと、少し不満そうに

「今年は意外と平凡だったね」

天上界の美食家たちはかなりの悪食だった。

鍋、谷、天上界（後書き）

鍋、と言えば闇鍋かな？と考えると、谷は残り物を捨てに行く、で簡単に繋がるかな、と思いました。けど、天上界ってどうしよう？時として、至高の天上の味になる事がある、って事にしようかなあ？とも思いましたけど、それでは落ちにつながらないので…。まあ、ゲテモノ好きがいる、という事で…。

置物、暗闇、殴る

暗闇には何かがいる。

それが何かは分からない。けど絶対に何かがいる。

それは、幼い頃からの確信だった。

その、正体の分からない何か、が怖かった。

睨み付ける。怒鳴りつける。もしくは殴る。

そんな事は無駄だと判ってる。

だから、置物のように固まって、じっとしているしかない。
そうして、やり過ごすしかなかった。

けど、もうやり過ごせない。

そばにいる。

近づいてくる気配が分かる。
僕は動けない。

「ねえ、あなた…」

ほらいた

置物、暗闇、殴る（後書き）

これも、どうしたらいいのかさっぱり判らずに、ただとにかく、暗闇に何かがいるんだ。それを殴るんだ。と思いながら書き始めました。けど、いつの間にか暗闇にいるものを殴るのは止めになり、あれ？なんでこんな落ちに？ブラックのつもりがピンク？あれれ？？

城、音、語る

聞きなれない音に振り返った瞬間、信じられないものを見た。
音の正体は、城が歩く音だった。

城が歩いていていた。

そして、どうやら僕を追いかけてくる。

僕は一目散に逃げ始めた。

走りながら必死に考えた。僕は何かしただろうか？

自分で語るのも何だが、そんな覚えはなかった。

けど、みんなが指差していた。

追いかけてくる城と、僕も。

歩く城だけじゃなく、僕もそんなに珍しいのか？

え？ 僕が誰かって？

僕は金の鯨だけど、何か問題でも？

城、音、語る（後書き）

えー、歩く城、イメージとしてはハウルですね。少なくとも最初は…。「語る」が弱いかなあ、とは思いましたが、他も思いつかず、仕方が無いって感じです。あと、追いかける僕、どうして追いかけるんだろう？それは、最初は考えてませんでした。そして、結局、僕は金の鯨、って事に。だから、お城は名古屋城！ ひゃー大変。

砂糖、洪水、盗む

私は、じつと師匠の手元を見つめていた。

どうしてって、もちろん、師匠の技を盗むため。

この世界では、師匠は手取り、足取りは教えてくれない。
ただ、目の前でやってみせるだけ。

初めは、一生懸命に覚えたはずの事も、いざ自分でやろうとすると
その記憶は洪水にあったかの様に消え去り、何も出来なかった。

なるほど、砂糖を入れるタイミングは今なのね。

と言う事は、上から三段目のあれが砂糖だ。

つまり、あれがサトウと読むのね

砂糖、洪水、盗む（後書き）

うーん。洪水が微妙な感じ…。一生懸命に師匠の技を受け継ごうと、がんばる弟子。一生懸命に師匠の手元を見て、その技を…。でも、この弟子が見ていたのは手元だけじゃなかった。脳みそが洪水になるこの弟子は、調味料のラベルが読めないのです！ナンチャッテ…。

港、モグラ、料理人

今日、この国の港には料理人が大勢到着した。
なぜか？と言えば、この国で料理コンテストが開催されるのだ。
しかも、優勝すると国王より褒美がもらえる。

そんな料理人の中の一人が俺だ。
俺の作る料理は調理方法は普通だが、食材がちよっと違う。
食材はモグラだ。

まず俺は最高のモグラを捕まえる事に専念した。

そしてコンテスト当日。

俺が作った、最高のモグラの丸焼きを見て、皆が息を呑んだ。

「王様！」

国王はモグラだったらしい。

港、モグラ、料理人（後書き）

さあ、国王を料理してしまった彼はどうなったんでしょねえ…。それにしても、彼は国王を一体どこで捕まえたのやら…。判らないことだらけですが、まあ、ファンタジーって事で！ファンタジーなモグラの丸焼き！（うう、超意味不明）

盃、雨、叫ぶ

静まり返った部屋の中、男たちが集まっていた。

「時間だ」

リーダーらしき男の言葉に、全員が一斉に立ち上がり、気合を入れ始めた。

「行くぞ！」

「やるぞ！」

「おー！」

男たちが口々に叫ぶ。

盃が配られ、男たちはそれを一気にあおると、そのまま床に叩きつけた。

かなりの覚悟が必要らしい。

男たちは雄叫びを上げ、雨の中をバシャバシャと走り出していった。

一人だけ残った男がぽつり、と言った。

「靴下、濡れると気持ち悪いんだよな」

盃、雨、叫ぶ（後書き）

雨をどうしようかな、と悩んで、雨の中で叫ぶかなあ？とも思いましたけど、それも何だかありきたりだなあ、と嫌いました。そして、盃と叫ぶを使った後、この後はどうなるんだろう？なんて思いながら書いている内にふと思った事が『濡れた靴下って気持ち悪いよね』でした。

オルガン、蜂、魚屋

僕は魚屋だ。それはずっと変わらない。

向いの楽器屋では、幼馴染がオルガンの先生をしている。

たまたま家が近く、同い年だった事もあるだろう。

近所の公園や、ちょっと遠くの花畑。

よく二人で走り回った。

蜂に追われた事もあったけど、楽しかった。

魚の捌き方は知ってるが、音楽ってのはてんで分からない。
けど、彼女のオルガンは好きだ。

これまでは楽器屋まで聞きに行った。

けど今度、僕たちの部屋にオルガンを置く事にしたんだ。

オルガン、蜂、魚屋（後書き）

これはコメディになるかなあ？と思いながら書き始めたら、やつぱりコメディにはなりませんでした。幼馴染の二人は、お互いの目指すものは違っけれど、それでも、お互いを応援することが出来る。そして二人でいると嬉しい。だから、これからも一緒にいる事に決めた。ちよつと蜂が強引だったかなあ？ まあ、ほのぼの、という事で。

ストーブ、光、夢

私には夢があつた。

それはささやかな夢、暖かな家庭がほしい。

灯油の切れたストーブは、火が消えていた。

ほのかに光が差込んでいるけど、部屋は寒かった。

ちらりと、となりの、まるで熊の様な何かを見る。

「はあ」

私はため息をつくと炬燵から這いだし、ストーブからタンクを取り出した。

その時

「貸しな」

突然、熊はそう言つと、タンクを片手に、ゆっくりと外に出て行った。

一瞬触れた手の温もりに、私は夢が叶っている事を思った。

ストーブ、光、夢（後書き）

これ、コメディに出来るかなあ、難しいなあ、なんて思いながら書いたら、やっぱりコメディになりました…。冬のコタツは中々出たくないですよねえ、何か用事があっても、出来るだけコタツから出たくない、そんな時に、その嫌な用事を代わってくれる、とっても些細な事ですけど、でも、嬉しいなって。

ストーブ、光、夢 - その二

私の夢は、暖かな家庭だった。

さつき、ストーブの灯油が切れてるのに気が付いた時、私が灯油を補給しようとした。

けど、夫はそんな私に気が付き、寒い外まで行ってくれた。

その時、夫は照れくさそうだったけど、私には光輝いて見えた。

夫は私を大事にしてくれる。

そんな優しさを感じ、私の夢は叶っている事を実感していた。

けど…。

今、私には新たな夢がある。

次のボーナスでは、ストーブがほしい。

私たちのストーブは壊れていた。

ストーブ、光、夢 - その二（後書き）

ほのぼのが二連続になったまま、というのも…、と思って、強引にもう一つ作りました。（まあ、別に構わないっていえば、そうなんですけど、一応、コメディ主体にしようと考えているので、なんとかその方向に！）で、登場キャラ、状況はそのまま、その直後を取り上げてみました。ちよつとキレがイマイチかなあ…。

道、灰、偽もの

交差点には出会いがある。

道と道との交わりは、出会いもあり、数多くのロマンスも生まれた。
はずだ。

だが、僕が出会ったのはロマンスとは程遠かった。
神様を名乗る老人と口論になった。

「わしは本物じゃ！」

「証拠は？」

「偽ものを、灰に変える力を与えよう」

その力は確かに本物だった。
多くのものが触れた瞬間に灰になった。

「最近、偽ものが多いの……。嘆かわしい事じゃ」

そう言う老人と握手した瞬間、彼も灰になってしまった。

道、灰、偽もの（後書き）

これも、どうしよう…。そう思いながら、とりあえず、交差点でぶつかるところからお話が始まる、それだけ考えて書き始めました。なんとか形にはなったかと思いますが…。でも『偽もの』っていうのは何でしょうねえ？そして『本物』っていうのも…。

まあ神様の偽ものは多そうですね。

戸、鯨、息子

チャイムの音に玄関の戸を開けると、目の前に不思議な生き物がいた。

大きな身体で、全体に濡れた感じの皮膚で、手足は無くひれがついていた。

それは鯨だった。

「え？」

潮を吹く鯨を見ながら思った。

どうして鯨が？

けど、その鯨が言うには

「先日、息子さんにお世話になりました、そのご恩返しにうかがいました」

「それはそれは…、では、こちらに」

そう言い、その鯨を案内する。

「では、まずは、全身にこの塩をつけて頂けますか？」

戸、鯨、息子（後書き）

ええと、注文の多い料理店ですね…。鯨、昔は普通に食べてたけど、最近は少ないですね。鯨に乗って息子を捜しに行こうかな、とも思ってたんですけど、戸の使いみちが思いつかず、かなり苦し紛れになっ
てしまいました…。

弁当、砂漠、料理人

私は食にうるさい。

家にいる時はもちろん、出掛けていても、たとえ旅をしている時でも。

今は砂漠を旅している所だ。

それでも、食事の為に十分な食材を持ち、料理人も連れている。

「そろそろ昼食ね」

料理人たちがせっせと料理を作り、やがてテーブルに料理が並べられる。

ナプキンの包装をほどき、小粋な金属ケースの蓋を開ける。

「白身魚のフライに、トッピングはおかかと海苔でございます」

今日のメニューは私の好物、海苔弁当だ。

弁当、砂漠、料理人（後書き）

弁当は三回目だし、料理人も二回目だなあ…。ちよつとお題が被るなあ…。でも、お話自体は比較的自然にまとまったかな？なんて思ってます。まあ「結局弁当かよ！」って事で…。でも、お弁当って冷めてるところがまたよかったですししません？作りたてのお弁当って、ちよつとイメージがちがうかなあ？なんてね。

影、怒る、缶

昔からゆずれない事がある。それはサケ缶の骨だ。

煮とろけた骨が口の中でボロツと崩れる食感がたまらない。

骨を食べられないと、ものすごい勢いで怒るので、その骨は私のものだった。

夫とも、この骨を巡っては喧嘩をした。

バカみたいって言うかも知れないけど、食べ物の恨みはオソロシイのだ。

今、夫とは協定を結び、骨は半分ずつ分け合っていた。

が、小さな影がせまり、骨が掠め取られた…。

最強の敵、それは私たちの息子だった。

影、怒る、缶（後書き）

みなさんは、サケ缶の骨って好きじゃないです？うちでは、やつぱり争いになります。ボロツと崩れる瞬間の食感がいいですよねえ？ぐしゃぐしゃと身を崩して、先に骨だけ食べちゃうのは反則！ちゃんと回りも食べて、そして出てきた骨を「パク」とするのがサイコ！。

うーん。あああ、サケ缶、欲しくなってきた…。

胡麻、肉、杓文字

今日は早起きをした。

杓文字でほくほくのご飯をとりだし、一つ、また一つ、とおにぎりを作る。

人気の鮭ワカメ、外せない梅干、そして、押さえの胡麻塩。

おかずは定番は卵焼き、がつつり食べる子供向けには肉だ。
鶏肉の唐揚げを山ほど。

最後は、出来上がったバスケットを布巾で包み完成だ。

その頃になって、やっと皆起きてくる。

私の苦勞も知らないで、いい気なもんね。

けど、開口一番、息子は言った。

「あれ？ 運動会は来週だけど？」

胡麻、肉、杓文字（後書き）

食べ物ネタが続きます。運動会のお弁当と言えば、おにぎりですよ！そして、しなっとなった海苔がまたたまらない。うーんイイ！そして、おかずの定番は唐揚げですよ！ハイハイハイ、そこ、反論は聞きません！ほーほほほ！（狂った？）

いや、でも、やっぱり海苔弁も捨てがたいかなあ？？

とうもろこし、汗、風呂敷

僕は畑の真ん中で、とうもろこしを刈っていた。

汗が噴出したけど、一生懸命に仕事するのは気持ち良かった。

やがて、僕が持ってきた風呂敷は一杯になり、僕は風呂敷を担ぎ、歩きだした。

慎重に歩き、畑から道に出る。目の前に僕のバイクがあった。
そのままバイクに跨がりエンジンをかけた。

その時、目の前に男が現れたが、一気に加速し男を振り切った。

背後で男が叫んでいた。

「どろぼー！」

仕事は、最後まで気を抜いてはいけない。

とうもろこし、汗、風呂敷（後書き）

あはは、これ、最初は泥棒の話じゃないつもりだったんだけどなあ
…。けど、どう落とそうか、そう思って書いてるうちに、風呂敷で
とうもろこしを包むなんて、きつと泥棒！なんて思いついて、そう
いう事にしました。いやー、人の畑でとうもろこしを盗みながら
い汗掻くなんて、心臓に毛が生えてますね！

薮、姫、肖像

弟が訳の分からない事を言い出した。

「ねー、肖像写真、撮らせてよ」

肖像なのに、もっとニコニコして、などと変な事を言う。

お姫様なんだから、ヘラヘラ笑ってたらバカみたいじゃない。

何か企んでるに違いない。

こっそり弟を尾行したら、薮の奥に入っていた。

そこでは、隣国の王子達が集まって、こそこそ話し合っていた。

「うわ、おまえの妹かわいいな」

「水着の写真ないのかよ」

エロガキどもが天誅を受けたのは言うまでもない。

薮、姫、肖像（後書き）

最初、ラストは「このエロ親父！」って台詞のつもりだったんですけど…。だとすると、そんな事をするのは王様で、とすると、お姫様の写真を、つまり自分の娘の写真をそんな風な場所に持ち出すかなあ？なんて考えてしまつて、王様は王子様になりました。まあ、姉と弟ならありかなあ、なんて…。

ちよつとスムーズさに欠けたかなあ、まあ、でも、こんなもんでし
ようか…。

霞、王子、夜店

この街では、今週末に七夕祭りが行われる。

夜店はたくさん出るだろうし、パレードもあるはず。

最後に行ったのはいつだろう？　もしかしたら、中学生以来？
そんな霞の向こうの様な、遙かな昔だったろうか？
でも覚えてる。

あの日、悪戯仲間だったあいつと私は、飾りに悪戯しすぎて怒られた。
でも楽しかった。

あの日の出会いは偶然だった。

でも、今日は待ち合わせてる。

私の王子様になってしまったあいつと。

だから、今日も楽しいはず。

霞、王子、夜店（後書き）

ちよつと半端なお話になってしまったかなあ、コメディにはならなくて、幼馴染は悪戯仲間だった。その昔、七夕祭りで偶然に出会って、勢いで悪戯した。あの時は本当にただの悪戯仲間、悪友だった。けど、久しぶりに出会ったあいつは男だった。そして、私は女なんだ。そう気が付いてしまった。

そんな二人がちよつとした共通の思い出のイベント、地元の七夕祭りに行く。そんなお話です。って説明しないとわからないですよねぇ…。うーん。まだまだです…。

落果、嘶家、靴

嘶家になりたい。一生懸命に練習するけど、中々上達しない。

「おめえ、このままだと落果するぞ」

落果。それは元々は成熟前の果物が樹から落ちてしまう事だ。けど、ここでは別の意味で、デビューする前に部屋から出されてしまう事だ。

今、私はその危機にある。

ガラスの靴なんかない。だから、自分の力で頑張らなきゃ。

「よ！ 玄さん！」

「何が玄さんだ！ がっぷり四つに組め！」

四つに？

「ここ、嘶家養成講座じゃ？」

「それは隣だ！」

落果、噺家、靴（後書き）

えー、噺家になりたくて、地方から出てきた。そして、入門して必死に修行するけれど、何だかうまく行かない。それでも、頑張ろう。そう決意したけれど…。入門したのは噺家の師匠ではなく、相撲部屋の親方だった…。うーん。訳判らないですねえ…。

油菜、金持ち、計算機

計算機っていうのは実にデリケートだ。

ちよっとおかしなソフトを入れると、途端に動きがおかしくなる。

そうなってしまうと、金持ちなら専門家に頼んで修理できるだろうけど。

俺には油菜の様にだらだらと油汗を垂れ流して見ているしかできない。

あ、また動きがおかしくなった。

どうして？ あー！ もう訳わかんない！ 勘弁して！

やめた！ 俺、もう計算機なんて知らない！

あら、ダメでしょゲーッくん。

早くウィンドウズのバグを取ってね？

油菜、金持ち、計算機（後書き）

あはは。ウィンドウズ、まあ、大体動いてるから良いんですけど。
でも、何だか時々おかしいよねえ？子供が色々なソフトをインター
ネットからダウンロードしてインストールしちゃうから、訳わかん
なくなっただ事もあったけど…。さあ、ゲーツくん、なんとかしてー
！

夏、夢、網

夏が来て、先輩と海水浴に来た。

砂浜を歩いてくと、砂の上に網が広げてあった。

その網目は結構大きくて、細身の人なら通り抜けそうだった。
お約束だから…、そう思いながら、先輩に言った。

「こんな大きな網、先輩だと引つ掛かる様な凸凹がないですね」

「そ、そんなことないもんっ 相変わらず、尊敬の念がたりない
！」

尊敬の念はあったし、他の想いもあった。

それに、夢だつて。

先輩と二人きりで海に来る、それも大きな夢だった。

夏、夢、網（後書き）

はい。困った時の文学少女だのみです…。そして、あの二人の鉄板ネタです。やつぱり、キャラが定まってる、展開が楽です。ちゃちゃっと書いて、字数調整すれば出来上がるから…。自分のキャラとして、そういうコンビを作つとかないといけないなあ…。

それにしても、これ、文学少女を読んでないと、分からない？まあ、理解は出来るかもしれないけど、それが単にあの二人にとつてはじやれる為のネタにすぎない、ってところが重要なんだけどなあ…。

あはは、ぐちぐち書きました。要は、三題噺、むずかしー。整いません…。散らかりっぱなし…。って感じです。（あ、何だか、後書きの方が字数が多いですね）

氷、軍人、はたき

私はこの基地の司令官だ。

最近経費節減で、清掃業者もともに雇えないから、基地司令の私まで掃除だ。

どんな事でも、命令とあれば実行する。

それが軍人だ。

だから、掃除が命令ならば、掃除を間違はなく行っのが、私の使命だ。

と言ってもねえ、あー疲れた。はい、後はあんたやってはい、これがはたき。

私にアイステー持ってきて！ 氷をたっぷりね。

なにつったってんの？ はやく！
って、あんた見ない顔だね、誰？

え？ 司令長官？

氷、軍人、はたき（後書き）

掃除だって、立派な仕事ですよ！ 自分の机くらい、自分で掃除してね！なんちゃって。それにしても、最近、はたき、使わないですねえ。家ではウェーブですね。シュシュってね。

えーと、自衛隊で一番偉い人は？幕僚長？総理大臣が最終的に命令するんだったかな？でも、テンポとして、そのどっちも合わないなあ、と思つて、司令長官つて言葉を持ってきてしまいました。…。

あはは、テキトー。

沃地、盗む、南瓜

この辺は、あの川が作る大きな沃地になってて、色々な野菜が採れる。

有名なのは、スイカ、レンコン、南瓜だ。

それだけに、警備を強化しないと盗まれてしまう事がある。

今日も見回りだ。怪しいやつがいないか、よそ者がいないか。

ああ、もう最高気温38度とか言ってるのに。

やってらんない。

ヤメヤメ、泥棒だつて休業だよ。

さあ、スイカでも食べよう。

え？ どこかつて？

誰かが川で冷やしてるのを、ちよいと盗むんだ。

んー、んまい！

沃地、盗む、南瓜（後書き）

書き始めはどうしようか分からなくて、ただ肥沃な土地で、野菜泥棒が出るから、警備しなきゃって話を書いていたんですけど、もう、最近、暑くて、暑くて…。急にスイカが食べたくまりました。で、まあ、コメディとしては、の一捻りかな？というオチのつもりです。

木の実、黄泉の国、幻燈

今年は、あの人の一回忌。法事にはみんなが集まってくれた。

「まだつらいだろう」

みんなが私を慰め、励ましてくれる。

けど、実は私はそれどころじゃない。すごいものを手に入れたから。

なんと、黄泉の国と会話できる幻燈だ。

今日も栃の実、銀杏、色々な木の実を用意した。
どれも、あの人が大好きだったものだ。

「よー、ばあさん。元気かい」

「ん？ 何だ、栃の実か。わしはマスクメロンがいいのお」

うーん、すっかり贅沢になってる。

木の実、黄泉の国、幻燈（後書き）

幻燈ってなんだっけ……。つてぐぐつたら、Wikipediaでは北冬書房の発行する不定期の漫画評論雑誌……。なんてのや、あとはその名前を一部に使ったHPばかりが引っ掛かって、あれ？と思っ
てしまいました。それで、うーん。でも、幻を移す機械に違いない
！と決め付けて、じゃあ、あの世の様子がわかる機械という事にし
よう！としました。木の実、使い道にすごく困りました。リスじゃ
ないんだから……。なんて思いながら、なんとか……。です。

雷、見えない、文字

雷の光に、文字の様なものが浮かぶ。

ミミズが這った様なこの筆跡は、あいつに間違いない。
が、問題は「来て」以外は全く読めない事だ。
こんな天気だが、行くしかない。

到着すると、目の前にあいつがいた。

「来た！」

笑顔で叫び、さらに言葉を続けた。

「じゃ、お願い」

何を？ 話が見えない。

「えー、書いたでしょ？『プロポーズして欲しいから来て』って」

頭を抱えたが、やっと言った。

「結婚してくれ。だが、字は丁寧に書いてくれ」

雷、見えない、文字（後書き）

この彼女、この大胆さは一体何なんでしょうね？ プロポーズしに
来い、だなんて…。そして、そんな突然の事にも動じないで、はっ
きりとプロポーズしてしまう、この彼って…？ んー。自分で書い
といて、意味不明です。でも、きつとお互いに大好きなんですよ
ね。

それにしても、字はきれいに書きましようねえ、私も他人の事はい
えませんが…。

秋風、下男、天井

最近、秋風が堪える様になってきた。

体が弱ってきたのだろうか？ それとも、もう冬が近いのだろうか？

下男を呼んで、修理させるべきだろうか？

いや、気のせいだ。そもそも、この家は隙間風などが吹き込むようなボロじゃない。

なんと言っても、私が自ら設計し、建築の指揮もとったのだから。

壁と柱の間、ドアや窓の継ぎ目、隙間など無い。

隙間風などとてもない。

ふと、天井を見上げる。

藁葺きの隙間から見える太陽がまぶしかった。

秋風、下男、天井（後書き）

いやー、意外なところに盲点が！ でも、本当のわらぶきの屋根では、雨も通らないし、こんな風に太陽が見えたりはしないはずですけど…。それに、換気ていどの空気の通りはあるでしょうけど、隙間風、というレベルの事はないでしょうけどね…。でも、落ちがちょっとわかりにくいかなあ…。

秋、看護師、蓮根

秋の頃は月見。そして続いて冬はクリスマスやお正月。
憂鬱な季節だ。

え？ どうして？

私は看護師だ。それも救急病院の。

おせち料理を何度病院で食べた事か…。

病院でぱりぱり食べるおせちの蓮根。わびしいよ？

いや、蓮根は好きだけどね？

みんなしてお正月気分で酔っ払って、はい、救急病院。

あー、もー。勘弁して欲しいよね？

ね！ そのあんたも、そう思うでしょ？

ほら、ほらー。ご一緒に！

まったく、素面でなんかやってらんないよ！

秋、看護師、蓮根（後書き）

あはは。酔っ払いの看護師です。一応、酔っ払ってるのは非番の時だつて事で。そして、それはもちろん、病院じゃなくて、近くの居酒屋とかです。そして、ぐだぐだ文句を言ってます。文句たらたらず。まあ、でも、それでも、彼は病院を逃げ出さない。つて事で！

沢、大臣、桶

今日、久しぶりに故郷の沢を訪れた。

昔はこの沢でよく遊んだ。

桶に果物を入れてきて、この沢で冷やし、食べた。

今、この下流にダムを作る計画が進行中で、完成すれば、この沢はダム湖に沈む。

私はその計画を担当する大臣だ。

その時、子供が何人か沢に降りてきた。

今でもここは子供の遊び場なんだな…。知らなかった…。

だから計画は中止、は単純だ。

だが、きちんと一から考え直してみよう。

沢で遊ぶ子供達を見ながら、そう考えた。

沢、大臣、桶（後書き）

何でか、こんな話になってしまいました。うーん。ダム、本当に必要なら作るべき。でも、こういうのって、最初に計画を立てた時から状況が変わってるのに計画だけはそのまま、何て事もあるんじゃないかな。きちんと見直して、そしてやはり必要だ、っていうなら、きちんと作りましょう。いらぬなら、きっぱり止めましょう。うーん。今日は何だかエラソーです。えっへん。

夏、母、消しゴム

何かが足りない。

そして、どうも母の態度がおかしい。何かを隠してる。

「ねえ」

「な、なんだい??」

ほら。ちよつと声をかけただけで、すごくうるたえてる。絶対に何かをしでかしてる。

「なにを隠してるの?」

と、うるたえた母が何かを落とした。とっさに拾う。

「消しゴム?」

「ごめん!」

「うっかり、カレンダーに消しゴムかけたら、夏が消えちゃったの!」

それで、春の次が秋だったんだ! これだから魔法遣いは始末におえない。

夏、母、消しゴム（後書き）

夏を普通に使えば、もうちょっと簡単だったかなあ、とは思いましたけど。でも、そのまま使うと何だか楽な感じがして、捻ろう。そう決めました。何とか一捻りの使い方かなあ、とは思いますが、でも、妙なお話で、お話としてのまとまりがイマイチかも知れませんが、それにしても、はた迷惑な魔法使いです。とはいえ、うーん。まだまだです。

海、幽霊、紐

俺は心底困っていた。

「だから！ やめろ！ やめてくれ！」

「だって、あなたと一緒に海に行くのが夢だったのよ？」

彼女がそんな事を言いながら、俺のほうに向かってウィンクする。
カワイー。

おっといかんいかん。 惑わされちゃいけない。

「ほらー、ほらー」

ここぞとばかりに、彼女が迫ってくる。

俺は鼻血が出そうになり、慌てて逃げ出す。

必死に欲望と戦う。

これは洒落にならない。

このままでは、紐パンツの幽霊に悩殺されてしまう！

海、幽霊、紐（後書き）

紐、使い方に困りました。で、苦し紛れの使い方に……。一緒に海に行くのが夢だった、そんな事言うなんて、幽霊の癖にちょっと可愛いですね。でも、彼の方は、この幽霊の事をどう思ってるんでしょう？あまり本気で嫌がってる訳じゃない感じだし、幽霊の彼女も、その口ぶりからは元は恋人なのかなあ？何てもしますけど……。深く考えると訳が判らなくなるので止めておきます。（なんて、自分のキャラなのにねえ？）

火事、見習い、紋

私たちは見習いの精霊だ。

きちんと修行して、試練をくぐり抜ければ、晴れて一人前になれる。神様の許、私たちは一生懸命に修行した。

今日、無事に修行を終え、私たちは神様から精霊の紋をもらえる。

「おまえは水の精霊だ。水を司り、世界を潤すように」

「きみは火の精霊だ。世界を暖めるように。が、火事には気を付けなさい」

そして、いよいよ私の番。

「きみは、物語の精霊だ。人々に夢を与え、豊かな世界を創るように」

「はい！」

火事、見習い、紋（後書き）

最初は、消防士の見習い？とも思いましたけど、それじゃ芸が無いなあ、と考えました。魔法使いだと、このラストには出来なくて、精霊になりました。妖精でも一緒ですね。さあ、物語の精霊は、今、どこにいるんでしょう？

はい、ここにいます。ナンチャッテ。

地震、盗賊、枕

アリババにしろ、アラジンにしろ、盗賊って言うのは、洞穴に盗んだお宝を隠すものだ。

だから、地震情報はチェックを欠かせない。

どこかで地震があつたと聞く度に、その地方の山の中に隠したお宝は埋まってやしないか？

心配で仕方が無い。

心配ばかりしていても仕方がないので、お宝が埋まってないか見に行くことにした。

着いてみると、お宝はひと欠片も無かつた。 どうやら盗まれたらしい。

「良かつた…。 これで枕を高くして眠れる」

地震、盗賊、枕（後書き）

もう、物持ちは心配で心配で、夜も眠れません。無くなってしまう
ば心配の必要はありませんから！いやー安心安心。ナンチャッテ。

今度は盗んだほうが心配してるでしょうか？

盗んだお宝、ただ隠しておくだけじゃつまらないですよねえ？ 売
り払うのか、時として眺めて楽しむのか、たーだ置いておくなんて
モッタイナイですねえ。

ジャングル、羊飼、小刀

俺はジャングルの王様だ。

小刀を持ってジャングルの中を走り回り、木の実や果実を採って食べる。

どんな猛獣にだって負けた事はない。

その生活に不満があった訳じゃない。

けど、悩みぬいた末、俺はジャングルの生活を捨てた。

どうして？

羊飼いの娘に恋したから。

あの子にジャングルでの生活は無理だから。

俺はジャングルの王様だった。

「あなた！　夕方までに、毛刈りやってね！」

今は、牧場で羊飼いだ。　これも悪くない。

「はいよー」

ジャングル、羊飼、小刀（後書き）

ジャングルと羊飼いの関係に悩みました。ジャングルの奥地に伝説の羊飼いが！なんて書き始めて、何度か挫折して、次はコンクリートジャングルは！？と思いましたが、これは一つもお話になりませんでした…。結局、コメディ路線を諦めて、ちよっとほのぼのに…。

虎、与太郎、包帯

生まれ変わったら、今度は虎になりたい。

そして、早く生まれ変わりたい。僕はそう思い続けた。

僕はとろくて、怪我すると包帯どころか絆創膏すらうまく貼れない。だから、幼稚園の頃についたあだ名は「与太郎」だ。

でもとにかく、一生懸命に、真面目に生きて来た。幸い、そんな僕に好感を持ってくれた女性がいた。彼女といると二人とも笑顔になれた。

人生って長いようで短い。

そろそろ、生まれ変わる時だ。

今度も与太郎になりたい。

虎、与太郎、包帯（後書き）

あはは。コメディーになるかなあ、と最初は思ってたんですけど、ありませんでした。結局、ほのぼのになってしまいました。まあ、人生、一生懸命に、真面目に生きるのが一番！って事で！そんな人生に悔いは無い。生まれ変わっても悔いの無い人生を！って事で！

川、占い師、風呂場

今日、僕はかなり緊張している。
占い師に言われた。

「今日は、水に気をつけなさい」

橋を渡る時は川を見下ろしてビクビクした。

ホテルに帰ってやっと一安心した。

風呂場でも溺れない様に、シャワーを浴びる時も注意した。
ずっと緊張してた。

寝る前に、緊張してのどがカラカラで、蛇口からコップに水を注いで飲んだ。

冷たい水がおいしかった。

翌朝、僕は高熱を出した。

この国の水道水は煮沸しないと飲んではいけないのを忘れていた。

川、占い師、風呂場（後書き）

ちよつとテンポが良くないかなあ……。何だか、ほのぼのが連続したので、なんとしてもコメディーを！と意気込んだのですが、ちよつとテンポが良くない感じが……。やっぱり、川も風呂場もかなりおざなりかなあ、っていうかお題が全部おざなりな感じが！！はう……。

火事、家主、照る照る坊主

本格的な夏が始まった。

暑い上に、雨が降らずに乾燥した天気が続いている。

私在家主をやっている木造のアパートなんか、もちよつと暑くなれば火がつきそうな感じた。

大した収入じゃないけど、燃えたら困る。

けど、本当に困る？

アパートの火災保険を確認した。

うん。火事で燃える分には保険はおりる。

私は照る照る坊主を作り始めた。

「雨なんか降るな！ もつと暑くなれ！」

その時、私自身がそのアパートに住んでるって事は忘れてた。

火事、家主、照る照る坊主（後書き）

おバカな家主が、保険金ほしさに、アパートが火事になる事を望むけど、直接火をつけるほどには度胸がない…。でもねえ、さすがに、暑いだけで火事にはならないですよねえ？何かしらの不注意が重なるとあ！つとい間かもしれないかもしれませんけど…。

でも、自分も住んでるのに、一生懸命なにやってるんでしょよね？けど、抜けてますねえ。

湖、鳥飼い、眼鏡

私は森の中で、鳥たちと住んでいる。

朝は、枕の脇でさえずる小鳥の声で目覚め、昼は、近くの湖で水鳥たちと遊ぶ。

きっと、鳥飼いの人たちからすると、夢のような生活だろう。

鳥以外には、時として近くに住む男性がやってきた。

どの男性も、多分魅力的なのだろうけど…。でも、私の心には届かない。

ある日、見知らぬ男性が私の家を訪れた。

レンズ越しの知的な眼差し…。出会った瞬間、瞳にハートマーク。

そう。私は眼鏡属性だった。

湖、鳥飼い、眼鏡（後書き）

鳥とか、湖とか、もう完全にどっかいつちゃってますね…。うーん。お題が使えてない感じで、お題の使い方、って点ではイマイチ感が漂いまくり…。それに、お題を知っていると、オチのパターンも予測可能かもしれません。どうか途中で一辺眼鏡を使うべきだったかなあ？うーん。難しいです…。

洞窟、金色、人参

この地方には、昔から、ある言い伝えがあった。

「金色の人参を食べると不老不死になる」

金色の人参を見つけた、という話は聞いたことがない。

が、それでも、毎年、金色の人参を探しに行く者は後を絶たない。

俺も、そんな冒険心溢れる男の一人だ。

そして、ある洞窟で、金色に輝く人参を見つけた。

「これで俺は不老不死だ！」

迷わず人参を食べた。

確かに、俺は不老不死になった様だ。

だが代わりに、俺は金色の人参になってしまった。

洞窟、金色、人参（後書き）

不老不死、なったら何するのかなあ、三題噺書いても、書いても、永遠に書き続けるのかなあ？それは楽しいような、苦しいような…。まあ、でも、こういうおいしい話には何か裏がある、という事で。その裏を何にしようかなあ？と思ったんですけど、結局。安易に食べたら人参になってしまう、という事で…。

くさや、きのこ、やめて

くさやと言えば、魚の干物だ。

けど、今、私の目の前に出されたのはきのこだった。

きのこのくさや？

誰？こんなものを考えるのは！そして、本当に作っちゃうなんて！でも、味見する。そう約束しちゃったんだよね…。

やめておけばよかった。

でも、ホント、後悔先に立たず、だよね…。

仕方がない。目をつぶって、鼻をつまんで、一気に飲み込む。

ん？ もう一つもらえる？

やめておけば良かった。

きのこのくさや、やみつきになっちゃった。

くさや、きのこ、やめて（後書き）

Twitterの診断メーカのダイニングメッセージだったので、出てきました…。見た瞬間に三題噺？？と思ってしまったので、考えてみることにしました。やめて、の使い方をちょっとだけ工夫したつもりです。くさやのきのこはあまりにストレートかなあ、とは思いましたけど、まあ、他にも思いつかず、そうしちゃいました。

津波、割る、瓶

「雷」「津波」などのラベルが貼られた瓶が並んでいる。私は魔法使いで、瓶には魔力の素が入っているのだ。

ふと、覚えの無い瓶がある事に気がついた。ラベルは「」 怪しい。夫に違いない。

「あなた！ これ何！」

「えーと…。 その…」

全く要領を得ない事に苛立った私は、瓶を床に叩きつけて割る。その一部が私にかかった途端に、視界がピンク色になった。

「しまった…。 ほれ薬ね…」

これじゃ、今夜は夫の言い成りにされてしまうわ

津波、割る、瓶（後書き）

津波を普通に使いたくない、その思いだけで、とにかく、津波をどうしよう…。そう考えた結果が、魔法の技にすることでした。結局、その魔法は使いませんけど。でも、ラスト、うーん。なんだかなで、まだまだ…。うーん。可愛い魔女って事で！（え？）

噴火、弟子、養老院

僕は考古学者だ。

それも、ただの考古学者じゃない。インディージョーンズの弟子だ。世界中の遺跡を巡って、隠された秘密を調べている。

噴火している火山だって怖くない。そんなもんが怖いんだったら養老院に行っちゃえ！
ジョーンズ教授にもそう言われている。

今日も十分働いた。 憩いの我が家へ帰ろう。

「ただいまー」

「あなた！」

「これ！ 何ですか！」

なんと、僕の秘密を発掘した超特大火山が大噴火中だ。

この火山だけは怖い…。

噴火、弟子、養老院（後書き）

可愛い魔女の次は、恐妻家の考古学者です。でもでも、恐妻家っていうのは、奥さんを嫌いな訳じゃないんですよ？好きだからこそ、怖いんですよ。ね、ね？そうですよね？

けど、そんな風に奥さんのことを怖がるなんて、ちょっと可愛いかも？あはは。

雪崩、叩く、ダンス

僕は、ダンスを習う事にした。だって、カッコいいでしょ？
ダンス教室に通うお姉さんは関係ない。

靴で床を叩くタップダンスは無理だし、それじゃペアには… あれ？

と、とにかく、ワルツを始めた。

ワルツの競技会では、踊り始める位置がとても重要だ。

競技開始前には静かに、それでも雪崩をうって移動する。

今、競技会は遠い夢で、まだターンの練習だ。

けど、うまく出来ない。

「軸足を中心にくるっと回る！」

僕、幽霊なんですけど…。

雪崩、叩く、ダンス（後書き）

これも、単なるお話を作るなら「ダンスで床を叩くと雪崩が起きる」
でおしまいなんですけど、その延長じゃつまらない。そう思って、
何とか雪崩を別の形に。そう思いました。結果として、雪崩がなん
だか意味不明な使い方になってしまいました。

それにしても、この幽霊。惹かれた相手は人間？それとも、やっぱ
り幽霊だったりして！

星座、投げる、洗面器

星座がきれいな、星に手が届きそうなの、そんな日は…。
石を拾い夜空に向かって投げる。普通は何も起きない。

けどその日は、投げた石が「コンッ」と星に当たり、その星が落ちてきた。

僕は慌てたけど、何とか星を洗面器で受け止めた。

その星は、とてもきれいだった。
迷わず、その星を飲み込んだ。

それが魔法遣いになった夜…。

いや、僕はハウルじゃなかった。
僕は魔法遣いではなく、星になってしまった。

さあ、誰か石を投げないかな？

星座、投げる、洗面器（後書き）

イメージとしては、ハウルがカルシファーと出会った時のシーンな
んですけど、ハウルは石なんか投げてないし、ねえ？何ででしょ…。
まあ、星を飲み込んだら、星になっちゃう。そういう呪い、とい
う事で…。次の人に呪いを移すまでは、夜空で輝く星になってし
まいました。って我ながらよく分からない…。

火、消える、制服

私の心には消えることのない火が燃えている。

その炎が命じるままに私は、今日も彼に会いに行く。

誰が止めても無駄だった。 私たちは、もうお互いの虜だった。

今日もいつもの店で待ち合わせ。 ほら彼がやって来た。

私たちの視線が空中で絡み合い、お互いの全身を舐め回す。
既に、身も心も溶け出している。

二人でいつもの部屋に行き、私は制服を着替えた。

今日は白衣。 昨日はセーラー服だった。

私が鞭で打ち、彼が叫ぶ。

「女王さま！」

火、消える、制服（後書き）

ま、まあ、これは、いわゆる、そのSMの人ですね。実際のところがどんななのか知らないで、なんとなくの想像でのお話です。途中までは、そんな事は分らないように、とちよつと誤魔化しながら書いたつもりですけど…。ばれてるかなあ？やっぱ、火、と制服がこの方向にする決め手だったかなあ？それにしても、やっぱり、こういうの、書いてて恥ずかしいですね……。

茸、幽霊、コート

僕は茸農家だ。 茸を売って暮らしてる。

あの日、それはとても寒くて、僕はコートを着てマスクも着けていた。

大切な茸たちは、コートの中に持っていた。

みんな、何故か幽霊でも見るかの様な嫌悪の眼差しで僕を見ていた。

茸を買ってくれそんな奥さん達の前に行き、笑顔で言った。

「僕の茸を見て下さい」

そう言いながらコートを広げたら、叫び声があがった。

「キヤー！」 「変態！」

今、僕は留置場だ。

茸を売るのは犯罪なのでしょうか？

茸、幽霊、コート（後書き）

幽霊が難しかった…。今の使い方も、イマイチかなとは思いますが…。茸は売っても別に犯罪じゃないですね。けど…、ねえ？
この主人公にはあくまでオトボケで通してもらいましたけど、マスコを着けた人が、ニコニコ、もしくはニタニタ笑いながら、「僕の茸を…」なんて言いながら、コートの前を開けたら、やっぱり逃げますよねえ？ あははは。茸退散！ナンチャッテ

陸、嘘、定規

嘘か真実かを判別する確かな定規なんて存在しない。

どうして？

それは、真実が時と場合で違うから…。

私たち人間だってそう。

遠い昔、祖先が海から陸に上がり、進化を繰り返して人間になった？
それが真実？

それとも、最初から人間として生まれた？
これが真実？

決められないでしょ？

つまり、私とあなたの間では、何が嘘で何が真実か。
それを決めるのは私たちなの。

だから、ね？ この指輪、私、欲しかったんだもん！
それは私の真実よ？

陸、噓、定規（後書き）

結局、彼女は夫に内緒で指輪を買った事を言い訳してるんですね。進化論まで持ち出して、本当に欲しかったんだから、いいでしょ？ って言ってるんですね。いやあ、もう、きつと見事に論点がずれる氣もしますが…。まあ、それでも、きつとそんなことをするのはまれなんでしょうから、許して欲しいですよねえ？ でも、幾らの指輪だったのかなあ？

草むら、王子、俵

王子様とは幼馴染だ。

けど、私はお姫様じゃない、だからいつかは離れ離れになる。

だから、せめてそれまで…。

私たちは毎日一緒に草むらを走り回って遊んだ。

お互いの笑顔が嬉しかった。

その日は、荷車に積まれた俵に隠れて遊んでいた。

荷車が動き出した時、慌てて降りようとしたけど、王子が私を止めた。

やっと荷車から降りた所は知らない土地だった。

私たちは国を離れてしまった。

けど、私たちはもう離れない。それが嬉しかった。

草むら、王子、俵（後書き）

最初は、俵を作ってる王子様とそれを見ているお姫様、つてスタートで書き始めましたが、全然オチに結びつかず、俵の中に王子様を入れてみました。そして、一緒にお姫様も入れてみたんですけど、やはりオチが思いつかず、じゃあ、お姫様は止め！と仕切りなおして、幼馴染だけど、身分違いで、いずれは別れないといけない、けど、お互いにそれは嫌、そんな展開にしてみました。

火山、飛ぶ、母屋

情報によれば、この敵基地で、空飛ぶ機械が作られている。

命令を受け、その機械を破壊する為、俺は敵基地に潜入した。だが、機械らしきものは何一つ無かった。

何か情報が無いか、危険だけど、母屋に接近した。そして、部屋にいる将校の会話を聞いた。

「ここは火山の中で、何かを隠すのに最適だな」
「空飛ぶ機械を作るのに最適だ」

その話に思わず身を乗り出した…。 けど…

「だが、今、最高の秘密は、そんなものは無いって事だ」
え？

火山、飛ぶ、母屋（後書き）

母屋に集まっていたら、真下から火山が出てきて、母屋ごと吹き飛ばす、そんなお話はちょっとまとまりませんでした…。だからって、これは何？って感じですけど、せっかく、秘密情報として得た敵の新兵器を破壊しに行ったのに…。って事で…。いやー情報戦ですね！ナンチャッテ。

太陽、贈り物、はたき

ある日、郵便受けを開けると、はたきが入っていた。

同封の説明書によると。

『神様よりの贈り物。 万能はたき。 何でもはらえます!』

なんじゃコリヤ？

神様の贈り物？ 何が出来るっていうんだ？

試しにその辺を払ってみると、見事に埃が払える。

面白くなり、外に出て道を払う。

一振りで車が消え、次には道が消えてしまった。

驚き、間違って空を払ったら、今度は太陽が消えてしまった。

そして僕は、すっかり自分自身をはらってしまった。

太陽、贈り物、はたき（後書き）

神様のはたき、払ったものはどうなるんでしょう？ はたきにくっ付く？ どっかに飛ばされてしまう？ いえいえ、実ははたきを持っていた方が異世界に飛ばされるんですよ…。なんちゃって。最後、自分をはらってしまって、どうなったのかなあ？どっちにしろ、異世界にとばされそうですね…。

藪、笑う、銅鑼

「この藪が！」

特大の銅鑼声が、その主が、そう叫びながら階段を追いかけてくる。

「藪ってなによ？　そもそも私は医者じゃないわ？」

そう言いながら、スピードをさらに上げ、階段を駆け上がる。

屋上に出て「どうしよう？」そう考えていたが、銅鑼声の主はすぐに追いついてきた。

「もう逃がさないぞ」

そう言い、恐ろしくも可愛く笑う。

「さあ、ちゃんと貼れ」

「文句言っくらいなら自分でやってよ！　指先に絆創膏貼るの、難しいのよ？」

藪、笑う、銅鑼（後書き）

結局、この二人は仲がいいんですね。銅鑼、鳴らす事にしようか、どうしよう、どんな使い道が？なんてぐぐってたら、銅鑼声ってのがひっかって、あ、それでも良いんだ！って思ったら、こんなジャレアイが思いついてしまいました…。

夕、宝物、ベランダ

この家のベランダには宝物があるの。
それが何か？ 分かるかしら？

今日も夕暮れの時間。

ほら、ここから見える夕の空はとてもきれいでしょ？

え？ その夕空が宝物なのかって？

ええ、もちろんそれも大切よ？

でも、ちょっと違うのよね…。

「おーい」

あら、主人が呼んでるわ。

「おーい、おまえ…。 あ、またこんな所にいたな？」

「お、夕焼け、きれいだな」

二人で一緒に夕焼けを見る。

この、ゆったりとした二人の時間、この瞬間が宝物なの。

夕、宝物、ペランダ（後書き）

ペランダから二人できれいな景色を眺める、その穏やかな笑顔が、ほっとした、優しい時間を共有できる、そんな場所、一瞬現実が遠のいて、二人だけの夢の時間に入り込んでしまう。そんな宝物のよきな時間が持てる。って言うのは素敵だな。って言う事で。なんか、こういうお話って、意外と照れますね。アセアセ。

春、貧乏、胡瓜

この春から、ちょっとだけ生活が変わった。

夜はまともに眠れないし、色々な出費もかさむようになった。

まあ、貧乏って言うとはどじゃないけど。

え、愚痴を言いながらニヤツクんじゃ無いつて？

仕方が無いじゃないか、ほらほら見てよ。

可愛いでしょ？ 三ヶ月の息子と奥さん。

どっちの方が可愛いかって？

そりゃー、奥さんだよ。

プルル！

おっと、噂をすれば…。

「あなた！ 早く胡瓜買ってきて！」

うーん。 可愛いけどちょっと怖い、かな？

春、貧乏、胡瓜（後書き）

あはは。怖いのは、好きだからですよ？なんて、思いながら書きました。コメディというちょっと違うタッチで、ラブコメという範疇なら入るかな？くらいでしょう…。でも、三ヶ月の子供、うーん、可愛いけど悪魔ですよ。こっちの都合なんてお構い無しですからね、エエ。あはは、なんの話でしょう。

荒れ地、一年、印章

今はまだ山奥の荒れ地だけど、一年もすれば、このすぐ近くに国道が通る。

そう言われて、この土地を買って、早、二十年。

未だに、一番近いのは自動車がすれ違う事も出来ない砂利道だ。

気の毒に、騙されたのね、って？

いやいや、あの書類に印章をついた瞬間、それは未だに勝利の瞬間だ。

何でって？

俺達は、悪の秘密結社だ。

目の前が国道なんかじゃ、見つかったちゃうでしょ？

バラバラバラ…。

警察のヘリだ！　しまった！

逃げ道がない…。

荒れ地、一年、印章（後書き）

いずれ近くに国道が通って便利になる、そんな売り文句が本当になつたら困ったんでしょうか？まあ、いつまで経っても、不便な場所のままのはず、その予想は見事にあたるけど…、でも、間拔けな悪の秘密結社ってことで…。それにしても、この秘密結社、何をしていたんでしょうね…。『悪の秘密結社』を名乗っただけじゃ、警察も捕まえにはこないですよ。

甜菜（てんさい）、菓子屋、カメラ

家は菓子屋だ。

新しい事に挑戦する為、砂糖の代わりに甜菜糖を使う事にした。購入した甜菜糖は、区別の為か、今までとは袋が違う様だった。

今日は、新しい菓子が完成し、発表の日だ。

新しい菓子が店頭に並び、マスコミがカメラを向ける。

けど、違和感がこみ上げる…。 何かが変だ…。
振り返り、よく見ると、未開封の甜菜糖に、空っぽの塩の袋…。
「げ！」

お菓子を食べたレポーターの顔が歪んでいく…。

その日、菓子屋は閉店となった。

甜菜（てんさい）、菓子屋、カメラ（後書き）

甜菜って何？から始まりました。どうもサトウダイコンとも呼ばれる、砂糖の原料の一つの様でした。一般的な砂糖はさとうきびからで、その砂糖よりは、オリゴ糖が多いらしいです。

お話としては、恐ろしく間抜けな誰かが、砂糖と間違えて塩を使ってお菓子を作ってしまった。それを取材に来たレポーターが食べて、評判がガタ落ち、というお話でした…。

いやー、それにしても、途中で味見はしなかったのでしょうかねえ？（なんて自分で言ったらいけないですね）

山、見えない、表具屋

今日も、表具屋が激しい売込みだ。

買う気はない、何度言っても頓着しない。

恐ろしい形相で睨んでやっても、まるで私など見えないかの様だ。

「この屏風、時々、描かれた虎が出てくるんですよ」

「そんな危ないものいらん！」

「では、この掛け軸……」

そこには、リアルに山が描かれていた。

「いいな……」

山は大好きだった。

なので、その掛け軸は買ってしまった。

その山は、とてもリアルだった。

翌日、掛け軸の山は、轟音と共に噴火した。

山、見えない、表具屋（後書き）

えー、あまりにリアルな火山の絵が噴火した、という事で…。それにしても、これは、表具って何？から始まりました。ぐぐつたら、掛け軸とか屏風とかを表具って言うつて事で…。こんな難しい（私が見えないだけ？）言葉で三題噺、どうしよう…。と思いました。まあ、なるようになれ、と書きました。何回か書き直すうちに、何とか形にはなったでしょうか？ちなみに、書き終わってから、噴火じゃなくても、毎日山登りを楽しむ、ってオチもありかなあ？でも、ちよつとインパクトに欠けるかなあ？なんて思いました。

牛、歳の暮れ、屋根裏

今、この屋根裏では魔法使いの世界一を決める大会が開かれていた。みんな必死で戦っている。誰だって勝ちたい。いや、負けると大変だから…。

今年のルールはかなり危険だ。

戦いに敗れると牛にされ、一階に落とされる。そんなの嫌だろ？ だから、みんな必死だ。

歳の暮れもせまり、戦いもそろそろ大詰めだ。「モー」と鳴きながら、誰かが落ちていく。

やがて、牛丼の美味しそうな匂いが漂ってくる。

そう。ここは吉野家の屋根裏だった。

牛、歳の暮れ、屋根裏（後書き）

うーん。吉野家の屋根裏って何でしょうね…。最初は屋根裏に住む牛の話にしようと思ったはずでしたが…、いつの間にか牛にされる、というお話に…。まあ、どちらにしても、牛が美味しく食べられてしまう、というお話には違いありませんけど？　しかし、このルールでは、大会が終わると、世界一の魔法遣い以外は全員が牛丼ですね…。うう、コワ。

念のため…、吉野家さんが屋根裏から落ちてくる怪しい牛で牛丼を作っている噂は聞いたことはありません！　あはは！

枯れ木、女、花籠

花籠って何だか知ってるかい？

「いやねえ、竹とかで作る、お花を生ける籠でしょ？ 女をバカにしないで？」

あはは。馬鹿にしてなんかいないさ。でも、違うんだな…。

「じゃあ、なんだって言うのよ？ まさか、枯れ木でも生けるの？ それじゃ盆栽よ？」

違う違う。花籠ってのは、相撲協会の年寄名跡の一つで、今度、俺が16代目の花籠に決まったんだよ。

「あら。じゃあ、私、その花籠で咲く花になりたいな？」

え…。

先に言われちゃった。

枯れ木、女、花籠（後書き）

うーん。ちょっと意味不明？ お相撲さんが、仲のいい女の人と話
していて、二人とも想いあっているのに中々勇気が出せない、そん
な状態だったけど、彼の年寄襲名をきっかけに、想いを告白する。
そんな話になればいいなあ、と思いましたけど……。でも、何だか、
唐突な感じで、ちょっと雰囲気が出てないなあ……。と反省中。
花籠、現在は15代だったかな？ Wikiに出てました！

鉋脈、神、昆布

僕は、山で鉋脈を掘っている。

朝早くから夜遅くまで、一生懸命に働いている。けど、生活は楽じゃない。

妻は、そんな僕を心配してくれている。

だから、お弁当には色々な工夫があった。

「昆布はカルシウムがいっぱいあって、健康にいいのよ！」
今朝はそう言っていた。

そのお弁当を美味しく食べ、また一生懸命に働く。

お。何かが出てきた。今度は何だろう？

丁寧に土を払いのけた。

「ちえ、また貧乏神だ…」

そう。ここは神様の鉋脈だ。

鉾脈、神、昆布（後書き）

恵比寿様を掘り当てれば、億万長者になれる！けど、出てくるのは貧乏神やら疫病神やら…。まあ、埋められてしまった神様なんだから、ろくなもんじゃないかも？（なんていったら罰が当たりますかね？）それでも、夫婦で一生懸命に生きている。そんな人でした。うーん。コメディなのか、ほのぼのなのか、イマイチはつきりしませんね…。

猫、汚す、弁当

お弁当を作っていると、近所の猫が寄ってくる。

「あんた達の好物なんて入ってないから！ あっち行って！」
だからって、猫が言う事を聞く訳も無い。

「でも、このお弁当だけは邪魔しないで！」

そう。今日はデートなんだから。

相手は後輩だけど…。

べ、別に、いいでしょ？

え、先輩命令で誘ったんでしょ、って？

そんな、心を汚すような事はしなかったわ？

ちよつと、魔法を使っただけだね？

え、どんなって…。

「好き」って言うただけよ！！

猫、汚す、弁当（後書き）

あはは。これは、慌てて書いたんで、オチが全く分かりませんでした。っていうか、これ、落ちてる？ちよつと微妙…。デートに持っていくお弁当を、早起きして作ってる女の子。お弁当持ってたどこにいくんでしょうね？ 映画じゃないですね。遊園地？ どちらの公園かなあ？いいなあ…。ちよつと照れまくってるイメージで書きました。

光、赤ん坊、テープ

「はい。おみやげ」

母親が、その包みのテープを切り、中身を取り出した。

中から出てきたのは、一枚のディスクだ。

「何これ？」

「DVDよ？」

リビングを見回し、プレイヤを見つけると

「ほら、これで見るのよ」

電源を入れ、ディスクをセットする。

やがて、私の赤ん坊、母親にとっては初孫の顔が大写しになる。

「あなたそっくりね…」

いつか、私もこの子の子供を見て同じ事を言うのかな…。

光にあふれるリビングでそんな事を思った。

光、赤ん坊、テープ（後書き）

いやー、そうなんです。子供って、そっくりなんですよ！その昔（うう、今はもう、それなりにその昔、になつてしまいましたか…）子供が生まれた少し経った頃、両親に子供を見せに行った時なんですけど、とある写真を見せられて、なんと、どう見ても、私の子供が両親に抱かれてる写真。しかも、両親はそれなりに若い。「えー？」と言ったら、何の事は無い、私の子供だと思ったのは私自身だつて事でした。いやー、子供って親に似るんですねえ…。

島、幽霊、胡瓜

ここは東京だよ。

そう言っても、誰もが最初に言う言葉は

「嘘でしょ？」

だ。

まあ、それも仕方が無い、離れ小島とまでは行かないけど…。

それでも、南海の孤島、そう言われると否定は出来ない。

そう。ここは島だ。

家は、代々をこの島で暮らしてきた。この島に根付いた生活をして
いた。

職業は農業で、裏の畑で胡瓜を作っていた。

最近、その畑に幽霊が出るとの噂がたった。

やっと気付いてもらった！

一体、私は戸籍上は何歳なんだろう？

島、幽霊、胡瓜（後書き）

えー、最近、各地で明らかになっている。戸籍上…、って話。仕方が無い、そんな部分もあるんでしょう。それでも、何で放置してたの？と言いたくなるような事が多すぎるような気がします。報告する機会が無かったから…。そんな報道もありますが、本当にそんな理由なんでしょうか？本当にお役所って、そこまでバカなの？（処によるのかもしれないけど…）

ああ、愚痴ならいくらでも出てきますね。（ああ、年寄になったなあ…）

そうです。幽霊の使い方を考えていて、そんな事を思いました。

氾濫、家来、湯飲み

僕の家には湯飲みなんてない。

どうして？って、お茶を飲むことなんて無いからだ。

僕が強引にアタックしての恋愛結婚。僕は妻の家来みたいなものだ。

そして、奥さんはお茶なんかより断然ビールだ！

台所に氾濫するビール瓶を見れば分かるでしょ？

でも、僕にはとっておきの秘策があるんだ。

まず、コップにお茶のティーバックを入れる。そこにビールを！

これなら！

え？飲んでみろって？ 分かったよ。

じゃあ、正露丸を飲んでからでいい？

氾濫、家来、湯飲み（後書き）

うぐ。よく分からないお話になってしまいました…。ビールでお茶をいれたら、いったいどんなものになるんでしょう…。？何だか支離滅裂で、うつつん。はらほろひりはれ…。

薬草、死人、管楽器

管楽器の華と言えば、トランペットよね？

ぱらっぱっぱーら、ぱらっぱっぱっぱーら。

そう、この軽快なリズムが楽しいのよね。

たとえ死人でも踊りだしちゃうでしょ？

音楽ってさ、好きな人はホントーに好きだよね？

バカにつける薬はないって本当だよなって感じ。

だから、毎日毎日。

ぱらっぱっぱーら、ぱらっぱっぱっぱーら。

あーあ、でも、何だか気分がのらないなあ。

夏もそろそろ終わりだし。

そろそろ、お墓に帰らなきゃね。

薬草、死人、管楽器（後書き）

音楽好きの幽霊、という事で！ 幽霊かな？もしかしたら、ゾンビ？ 踊りだした死人だもんね…。 あはは、これも続けて意味不明だ
ああ。

虹、食べる、マヨネーズ

私は料理研究家。

最近、すごい噂を聞いたの。虹のマヨネーズ。

そのマヨネーズでサラダを食べると、おいしさのあまりに虹が見えるって話。

でね。実は今日、そのマヨネーズを手に入れたの。

見た目はありきたりね。七色のマヨネーズだったわ。

ちょっと、がっかりしたけど、気を取り直して、サラダにかけたの。

でも…。

虹どころか、お星様になるかと思ったわ？

赤は唐辛子、黄色は練り辛子、緑はわさび…。

マヨネーズなんて入ってない！

虹、食べる、マヨネーズ（後書き）

虹のマヨネーズ、ちょっと安易だったかなあ……。結局、マヨネーズなんか入ってない！って事だし！？ 七色の成分、全部は思いつきませんでした…。

秘、軍人、港

今日、私は上陸する。

上陸と言っても、普通に港に入るだけで、戦う訳じゃないけどね。

ん？ 変な事言ってるかしら？

これでも軍人だし、今、秘密の任務もあるから、ちょっと緊張してるのかも。

任務は、この毬の中にある、秘密の手紙を本国の司令に渡すこと。

まあ司令と言っても、私の幼馴染で、悪ガキだけどね？

あ、いたいた。

はい、これ。

あ、間違えた！ それは…！

ああ、にやけながら読んでる…。

私の最重要機密。 ラブレターを……。

秘、軍人、港（後書き）

そりゃー、ラブレターは最重要機密ですよねぇ？ うっかり渡す相手を間違えるなんて事はしないですよ？ まあ、渡す相手を間違えたわけじゃないけど、その時に渡すつもりじゃなかった、って事で焦ってるんですよ。あはは。ああ、苦しい…。

夢、王子、煙草

ねえ、煙草って体に悪いのよ？

「ああ、判ってるさ。けど…」

けどはナシ。止めなさい？

「まったく、王子様に命令するなんて、いい度胸だよな？」

ダメなものは、だーめ。

「はいはい」

それが小学生の頃なんだから、悪ガキよね。

けどずっと好きだった。

でも私は使用人…。夢は見ない様にしていた。

けど大逆転。私たちは、結婚することになったの。

実は…、彼はもう、隣国のお姫様では満足できなかったの。

ビシッ！

「女王様！」

ほらね？

夢、王子、煙草（後書き）

何だか、最初は別のお話を思いついた様な気がするんだけど…。あとで…、と思っっているうちに忘れちゃった…。王子様は夢。だったかな？ それとも夢の煙草？ まあ、結局、これは、夢は叶ったけど、でも、思ったのとは違った形だった。って事でしょうか？ ちよっと何かがずれてる気がしますけど^^；

太陽、曲芸師、ルーレット

私は曲芸師。

その日の曲芸に何をするのか、それはルーレットで決める。
ルーレットには色んな事が書いてある。

空中ブランコ、玉乗り……。とにかく、色々ある。

けど、実はどれも、ある法則があるのよ？

まあ、こんな曲芸ショーとしては、割と普通のことだから、とても自然なはず。

なにかって？

内緒よ？

それは、夜にやるって事。　ね？　普通でしょ？

でも、とても大切なことなの。

私は吸血鬼だから、太陽なんて見たら、灰になっちゃうもん。

太陽、曲芸師、ルーレット（後書き）

最初、太陽をどう使うのかなあ、と悩みました。けど、使い方を決めてみると、今度は、あとの二つがいい加減になってしまいました。…。何だか、構成がいまいちなあ？　そういえば、吸血鬼って、栄養バランスはどうするのかなあ？　うーん。それをネタに一本かけるかな？

台風、通勤電車、双子

僕たちは双子だ。

生れた時からずっと一緒に暮らしてきた。これからも一緒だろう。そう思ってた。

もちろん、結婚する、なんて事になれば話は別だろうけど。

けど、そんな事はまだ先のことだった。

今日も台風の中、二人でそろって通勤電車に乗り、一緒に会社に向かった。

けど、その台風はとんでもない威力で、ものすごい突風が吹き、電車は横転した。

その日から、僕たちは別々になる事はなくなった。

僕たちは双子の幽霊になったから。

台風、通勤電車、双子（後書き）

幽霊になっても双子。これは、ブラックジョークでしょうか？ホラ
ーではないですねえ。このお題は、三題嚙スイッチからではなくて、
日下さんから頂いたお題です。まずは、こんなのが思いつきまし
た。けど、これだけじゃ何か物足りないので、もう少し考えてみ
る事にしました。

台風、通勤電車、双子 その二

台風の為か、朝から天気が悪かった。

それでも、今日は外せない用事がある。

出社するのはいいが、途中、せめて座りたかった。

けど、おかしい事になっていた。

やって来た通勤電車には

『双子キャンペーン。双子の方に席をお譲り下さい』

なんて垂れ幕が掛かり、全ての座席は二人ずつ同じ顔をした人間で占領されていた。

ひとつ電車をやりすごしたが、次の電車は

『一人っ子キャンペーン』

だった。

「俺達、三つ子はどうすればいいんだ？」

台風、通勤電車、双子 その二（後書き）

もう一つ、どうしても通勤電車は乗るしかないかなあ？ あ、このお話では乗ってはいないですけど、基本的な使い方が一緒だなあ…。コメディーになってるでしょうか？ちょっとオチが説明不足な感じが拭えないかなあ？

台風、通勤電車、双子 その三（前書き）

台風、通勤電車、双子 その三

台風、通勤電車、双子 その三

駅に向かう途中、声をかけられた。

「望。おはよー」

私は恵美よ！ 双子だからって、皆で間違えないで！
満員の通勤電車を考えるだけで憂鬱なのに…。

その上、台風のせいかすごい風で、駅に着く頃には、もう髪はぼさぼさ…。

自分が誰なのか、分かる訳も無いって感じだった。

そこに、聞き慣れた声がした。

「恵美！ おはよー」

また！ だから私は！ …

あれ？ 合ってる？ 和也、どうしてあなたは、間違えないの？

「俺、おまえが好きだから」

え…

台風、通勤電車、双子 その三（後書き）

ちよつと恋愛噺に…。ちよつと、わざとらしくったかなあ？つていうか、台風も通勤電車も使い方がぐだぐだになつてきてるかも…。うーん。三題噺としては、どうなんだろう…。というか、そもそもお話として、尻切れトンボな感じもするし…。

ネズミ、職人、米屋

職人には大抵こだわりがある。

そのこだわりこそが、技を磨くために必要な要素なのかもしれない。

家は、代々の米屋で、お米に関係する色んな事の職人がいた。

お餅をつく職人。 お酒を造る職人。

他にも、お煎餅を作る職人など。

そんな中で異彩を放っているのは、ネズミだ。
ネズミのこだわりはすごいんだ。

決して隠れない。 堂々とみんなの前で食べる。
そして…

「やや塩辛い。 けど、概ね良い味だね」
思いつきり上から目線のコメントだ。

ネズミ、職人、米屋（後書き）

あれ？ネズミは職人？ただの偉そうな蒔蓄をたれる盗み食い野郎です。けど、そのコメントは結構あたるんです！！ だから、新しい何かを作ると、ネズミのコメント聞きに行くんです。「これ、おいしいですかね？」って……。ちょっと流石に変かなあ？

密林、母、手紙

私の家は密林の中だ。

移動は木から木に伝って行くしかなくて、交通の便はよくない。当然、近くにポストはなく、手紙も届きはしない。

けど、最近はとても便利になった。

なんと、インターネットが接続されたんだ。しかも最新の光インターネットだ。

手紙なんか来なくても、電子メールであつという間に連絡がとれる。それに携帯だつてバリ3だ。

けど、母は不満のようだった。

「PHSが圏外なの…」

母の携帯はちよつとタイプが違う…。

密林、母、手紙（後書き）

うはは。PHS、って言うか、WILLCOM、スマートフォンはWILLCOMからだった様な気がするなあ。W-ZERO3、欲しかったなあ。今となっては…。って感じもありますけどねえ。スマートフォン、ほしいなあ。ソフトキーってどうなのかなあ？文章を打つのに物足りなそうだなあ…。それが踏み切れない理由です…。

草地、逃げる、雑貨屋

僕は懸命に走っていた。

何かから逃げるために、捕まらないために…。

けど、逃げることで精一杯で、なぜ逃げているのか思い出せなかった。

もう足が動かない…。

立ち止まった僕の目前に、雑貨屋があった。

こんな草地の真ん中に店があるなんて変だな、とは思ったけど、無性にのどが渴いていたので、何か飲みたくて店に入った。

店番をしていたのは、なんと妻だった。
全てを思い出したが手遅れだった。

「あなた。アケミってだれなの！」

草地、逃げる、雑貨屋（後書き）

何から逃げてたんでしょうねえ、奥さんの追及から逃げようとしてたのかなあ？ふふふふ。逃がしませ〜んって感じ？あはは。

星影、間違える、踏み台

夜の高原を二人で歩いていた。

天体観測マニアの彼女は、様々な星や星座について蘊蓄を語り続けている。

間違える事など無い。まあ、間違えても僕には判らないけど。

近くの石を踏み台にちよつとした岩に上り、満天の星の光を浴びる。

普通だったら、様々なロマンティックな想像に胸をときめかせるだろう。

だが星影の中、振り向いた彼女は満面の笑みで宣告した。

「天体望遠鏡を買いな」

「だから、あなたのお小遣いはゼロ」

やはりか…。

星影、間違える、踏み台（後書き）

コメディになったかなあ？ 踏み台が不自然な感じが拭い切れませんが…。私の王道パターンとしては、これは告白シーンだよねえ、と思いましたけど、踏み台が使い難かったのと、何とか、別の形を…。と考えたのですが…。あまりに強引なオチに、あれ？って感じですよ。

焼け野原、校長、柱

この学校のスタートは焼け野原に並べた机と椅子だったそうだと。最初は、ボランティアだけで始めたと聞いている。

けど、いつの間にか、この辺の人間には無くてはならない物になった。

学校に通ってる頃、よく柱に落書きしてたな。
あ、これがそうだと。

昔はここで学んだ僕が、今はこの学校で教えていた。
そして、なんと新学期からは僕が校長になるんだ。

僕が誰で、何を教えているか、って？

僕はオワで、教えているのは『選挙と金』だ。

焼け野原、校長、柱（後書き）

むー。何でこんな事になったんでしょう？「焼け野原にかつての学校の柱が残っていた。その学校を再建して校長に……」なんて、方向で考えていて、でも、何だか当たり前でつまらないなあ、など思っているうちに、こんなラストに……。我ながら行き当たりばったりだなあ……。

小川、白、鍵

丘の上の木蓮。その白い花。それが何の記憶なのか？

全く判らなかつたけど、それが、優しく大切な何かだと感じていた。

だから、ずっと探していたが、とうとう見つけた。

小川の向こうの丘は記憶通りだった。

鍵が外れたかの様に、思い出がよみがえった。

けど、それは、取り戻せない事の確認になった…。

木蓮の下、愛する人に良く似た少女が答えた。

「お母さんのお墓なの…」

そして不思議そうに僕を見上げた。

「どうして泣いてるの？」

小川、白、鍵（後書き）

何かの都合で愛する人を置いて故郷を離れた彼。行った先で記憶を失い、戻るべき場所を見失ってしまった。けど、断片的に覚えている記憶を頼りに、あちこちを探し回った。そして、やっと見つけた場所。記憶の欠片と一致する風景。堰を切ったかの様に溢れる思い出。けど、既に愛する人は失われていた。それでも、自分と愛する人を受け継ぐ存在に出会えた。

つらいけど、新たな生きる理由を発見することが出来た。そんなつもりです。

虹、男、ヘルメット

私には夢があるの。

ある日、男の人が、そう、私の王子様が虹を渡って、私を迎えに来るの。

そして、私に愛の告白をするの。

え？寝言は寝て言えって？ まあ、確かに現実的じゃないわね？

でも、信じてる。

実はね、私の彼はマッドサイエンティストなの。

でね、最近、彼は渡れる虹、虹の橋を研究してるのよ？

だから、その研究が完成して、彼が迎えに来ないかなって。

あ、このヘルメットが何かって？

だって、彼の発明は失敗が多いから…。

虹、男、ヘルメット（後書き）

王子様はマッドサイエンティスト。うーん、ちょっとヘンテコリンな設定ですね。　いつか彼が人が歩いて渡れる虹を作り出す。そうしたら、まずは彼は私を迎えに来る。そんな事を夢見てる（？）女の子。けど、彼の発明は信用していない。きつと、これまでも散々酷い目に合わされたんですよ。だから、発明自体はどうでもいいけど、でも、そんな事に没頭している時の彼は、その事について熱く語る彼は、好きだなあ…。そんな感じです！あはは。

枯れ草、一人っ子、古着

古着って言うのも結構いいものだ。

遠慮しないでやりたい事が出来る。

泥んこまみれで遊んでもそんなに怒られないって気がする。

でも、僕は一人っ子だったから、お兄さんのお下がりがりなんてなかった。

だから、僕は普段は大人しくしていた。

外で遊んでも、水溜りに突っ込んだりはせずに、枯れ草の上で寝転がる程度だった。

古着みたいに遠慮がいらないっていいよね？

「誰が古着だつて！」

あはは。奥さんに聞こえちゃった。幼馴染なんだ！

枯れ草、一人っ子、古着（後書き）

お下がり、って初めからちよつとくたびれてて、少しくらい汚しても怒られないかな？なんて思いませんでしたか？これなら、ちよつと無茶してもいいかも？なんてね？

けど、ラストは突然の脈絡もない展開でした。遠慮がいない、真っ直ぐにぶつかり合う幼馴染同士の夫婦。きつと、喧嘩が絶えないんでしょうけど、それでも、決して離れる事はないんでしょうね？なんて思ってます。

闇、黒、醤油

出来た！ 僕は研究成果を手にキッチンに走りこむ。
そして妻に向かって、得意満面で自信作を披露した。

「出来たぞ！ 驚異の簡単調味料だ！」

「ふーん、ちょっと黒いのね」

「主に出汁だが、醤油もかなり入ってるからな」

「うどん用なの？」

「うむ。 だが、蕎麦でもOKだ！」

説明する前から使い方を理解してくれた妻に、僕は有頂天だった。
けど、次の言葉で闇の底に突き落とされた。

「これは、めんつゆね。 何年も前から売ってる物よ？」

闇、黒、醤油（後書き）

どれも黒いなあ、なんて思いながら考えました。でも、醤油だけは、こげ茶かなあ？ でも、見た目としては十分に真っ黒だし…。とにかく、周囲の事なんかまるで目に入らない人が、ふと思いついたことを一生懸命に追い求めて、出来た！と思ったなら、もう、とつくに一般にあるものだった。うーん、周りが見えてないって怖いですね…。

何ていうか、パターンとしては、王道の一つですね。むー、修行が足りない…。

アイス、炎上、人力車

お祭りのメインイベントは、アイス運搬レースだ。

歩きでも自転車でも、何でもいい。

とにかく、一時間の内にどれだけのアイスを神社まで運べるか？つて事だ。

夏だし、途中でアイスが溶けてしまう事もある。

それに、他人の自転車とかを炎上させたりする過激な奴もいるから要注意だ。

僕は人力車で出走したけど、結局リタイヤに終わった。

あんまり暑くて、途中でアイスを全部食べちゃったら、お腹がね…。

グルグル…。 う！ じゃまたね！

アイス、炎上、人力車（後書き）

炎上が苦しかったかなあ…。人力車もさして意味はないしねえ？

結局、アイスが全てな感じのお話かも…。ま、まあ、アイス食べ過ぎたらお腹壊しますよおってね！

く、くるしー。えっと、このお題からは『三題噺スイッチ』じゃなくて『三題噺お題作成』からの出題（？）です。ちよっと、出てくる言葉が変わってる感じがしますね。

上り棒、討伐、臨海学校

今年の臨海学校では思わぬ事態が待っていた。

近くの海岸が虫だらけで、僕達は『虫討伐』を頼まれたのだ。

何でこんなに…、なんて考える暇はなかった。

虫はいくら倒しても、まるで終わりが見えなかった。

砂浜に開いた穴にある、上り棒を登って虫が次々と出現していた。
元を断つ為、上り棒を滑り降りた。

なんと、そこに居たのはプログラマだった。

「バグがとれない！」

彼はそう言ったが、実は簡単だった。

「そこ、仕様が間違ってる」

上り棒、討伐、臨海学校（後書き）

これも、どうするのか分からずに、とりあえず臨海学校に行ったら、何かの討伐を頼まれた、って事で書き始めて、最初はくらげ、いやカメでは？いやいやタコにしよう、と変えながら、上り棒の先に居る、その異常発生の原因をどうしようか…。で、突然、こんなお話に…。

うーん、虫、バグ、くるしーかも…。しかも、仕様が間違ってる。とか、思いつきり楽屋落ちに近いかも…。

真実、アフリカ、排気ガス

アフリカってのは南の国だから暑いってイメージでしょ？
だから、南アフリカなんて言っと、すごく暑そうだね？
でも、実際はそんなに暑くないよね。

それにさ、東京っていうと、ビルばかりってイメージがあるでしょ？
でも、実際は公園とかが結構あって、割と緑があるんだよ？

ね？ イメージと、真実の間にはずいぶん隔たりがあるんだよ。

そう、排気ガスにだって、中にはクリーンなものも…。

「だからって、あなたのオナラは臭いわ！」

真実、アフリカ、排気ガス（後書き）

無茶な言い訳を必死に正当化しようとする彼でした。でも、イメージも何も、ねえ……？ クリーンなオラってあるのかなあ？ いや、想像したくない、そして何より、絶対に確かめたくないですねえ。

鑑識、カーニバル、うさぎ

今年もカーニバルは大盛況だ。

通りをパレードが練り歩き、みんな浮かれてる。

僕は彼女と一緒に来ていた。

彼女は警察の鑑識で、科学捜査の最先端よ？なんて自慢してる。

まあ、お祭りには関係ないけど。

今、屋台からは肉を焼くいい匂いが漂ってくる。
うさぎの肉が良いなあ。

あ、あった。ラッキー。

…あれ？　なんか違うような…。

「私が鑑識するわ」

彼女が色々と道具を取り出し…。

「さー。　当たるも当たらずも八卦…」

占いじゃねーか！

鑑識、カーニバル、うさぎ（後書き）

あはは。彼女、警察でも占いで鑑識してるんでしょうか？大変だあ！
あ、もちろん、本当の警察の人がそんな事をしている、なんて言ってる訳じゃないですよ？

うさぎ肉かあ、普通はお祭りの屋台には出てないですねえ？ 牛串とかはよく見ますけどね？あとは、唐揚げ、法兰克福ト、そしてやっぱり焼きそばで決まりですよね！

雪女、かごめかごめ、アニメ

ふと、かごめかごめをして遊んだ頃を思い出した。
あの頃は良かったな…。

「仕方ないでしょ？ 私は雪女、あんたは人間」

俺達、一緒には暮らせないのか？

「アニメじゃないのよ？ 無理ね」

けど、俺はおまえが好きだ。

雪女が真っ赤になって訴えた。

「私は『好き』なんて熱い気持ちを持ったら融けちゃうわ！」
なんで熱いって知ってるんだよ。

泣きながら彼女は言った。

「バカね…」

彼女は穏やかに微笑んだけど、それが最後の言葉だった。

雪女、かごめかごめ、アニメ（後書き）

うー。何でこんな話になっちゃったんだろう…。雪女の彼女は、もう随分と前から覚悟していたけれど、でも、その想いを認めざるを得なくなった瞬間。そして、自分だけの想いじゃなかった事を知って、想いと一緒に運命を受け入れた。雪女の設定（？）にそんなのがあるなんてのは聞いたことは無いですけど、書いているうちに、そうなってしまうみたいです…。

悲しいお話になってしまって、書きながら落ち込んでしまいましたけど、でも、お話としてはこうせざるを得ないなあ、なんて思ってしまった、そう書いてしまいました。

昔だったら、そんなお話はイヤー！で書かなかったかなあ？ むー！。

湯たんぽ、お化け屋敷、独奏

最近、お化け屋敷って流行らないよね？

どうしてだと思う？

きっとね、最近の子は、お化けを感じる心が無くなっちゃったんだ。

だって、あの縦笛の独奏を聞いても、顔色ひとつ変えないんだ。
ひゅるるゝって音で、昔はみんな震え上がったのに…。

だから、お化けはみんな寂しがってる。

そして、あつと言つ間に夏が過ぎた。

湯たんぽが恋しくなる季節になると、お化けは休業だ。

「お疲れ」

来年は、お化けを感じる子がいるといいなあ…。

湯たんぽ、お化け屋敷、独奏（後書き）

湯たんぽは困りました。だって、季節的にもお化けとは被らないなあ、と。独奏も使い方は悩みましたけど、まあなんとかまとめられたかな、と思います。文明が発達しすぎて、みんなそんな事ばかりに目が行って、自然が目に入らない。だから、お化けを感じる事も出来ない。実はそれは結構寂しい事かな、なんて事を思いながら書きました。

だ、だからって、お化けを見たい訳じゃないですよ！ お化けには出会わないに越した事はないです！（きつぱり！）

雨天中止、サックス、DVD

ね、サックスって良いと思わない？
僕は大好きだ。

自分で吹くのもいいけど、コンサートが大好きだ。
特に、野外のライブなんか最高だよね。

先週もそんなライブがあったんだ。
普通、野外ライブは雨天中止になる事が多いけど、そのライブは違
った。

雨の中、かまわず開催されて、ものすごく盛り上がった。
最高だった。

あの時のDVDを買ったんだ。

あの感動をもう一度…。

DVDプレイヤーは、と…。

雨天中止？ このプレイヤー、何もの？

雨天中止、サックス、DVD（後書き）

あはは。うーん、オチはちよつと意味不明？ 雨を物ともしない、そんなライブの記録DVDを見ようとしても、プレイヤーが雨では動かない？まあ、電化製品、水には弱いですけどねえ。DVD、野外で見ようとでもしたのでしょうか？

ガウン、炎、内憂外患

静かな夜だ…。

ゆったりとしたガウンを着て、穏やかに時間を過ごす、嫌な事を忘れることができる。

けど、現実から目を逸らしてはいけない。

今、私が経営する鉄道会社は、あちこちで炎が上がっている。
つまり、この会社は倒産寸前だ。

原因はよく判ってる。

周囲の好景気を実力と勘違いして、無茶な事業拡大をした結果だ。

まさに内憂外患だな。

いや、そんな生易しい状態じゃない。お終いだな…。

僕は静かにニューゲームを選択した。

ガウン、炎、内憂外患（後書き）

ゆったりとしたガウンを着て、グラスにはブランデー。そして、ネオンに輝く町を、その中心に立つマンションの最上階の自室から眺める。うーん、エクゼクティブの生活？（あはは、映画とかのイメージだけで、ゼンゼン自分では実感がなくて、意味不明ですが…）そして、事業に失敗して、会社は倒産寸前。夜逃げ、じゃなく、じゃ、最初から…。はい、ただのゲームでしたー。イメージとしての『A列車で行こう』というゲームです。難しくてねえ、鉄道会社のゲームのはずなのに、工場作ったり、ホテル建てたり、ゴルフ場、スキー場、スタジアム…。なーんてやってる内に、経営は行き詰まり、仕方が無い、やり直し、とニューゲーム…。って…。うーん、苦しい…。

内憂外患って…。難しい言葉ですねえ、でも、今の日本は正にそうかもーですけど…。

メインステージ、長居公園、猫だまし

今日、僕は立会いがある。立会いは初めてって訳じゃない。

けど、これまでとは違うんだ。

どんな技がいいか、昨夜から考え続けていた。

意表を突くには、猫だましも悪くない。けど、それは諸刃の剣だ。予測されていたら取り返しがつかない。

今日の試合場は、長居公園にある長居相撲場だ。

メインステージとは程遠いけど、僕の力士デビューだ。

僕は相撲で生きていく、その決意を込めた戦いをしたい。

そうだ。やはりがつぷり四つが良い。

メインステージ、長居公園、猫だまし（後書き）

このお題、何で特定の公園の名前が？とちょっと戸惑いました。どうやら、大阪の南の方にある、割と大きな公園ですね。植物園とか、競技場とかもあるみたいです。けど、そこに相撲場がある事、そして、猫だましという相撲の技がある事から、お話の方向が大体決まりました。なので、意外性はないですし、一直線なお話です。

まあ、そんなのもいいよね、という事で！

雪、マンガース、リストラ

長年勤めた警備会社をリストラされ、マンガースは路頭に迷っていた。

「最近、蛇も少なくて、どうしても君じゃなきゃって仕事が無くてね」

そう言われ、薄っぺらい退職金を渡された。

雪がちらつく中、呆然と町を見上げた。

その時、暗がりから声がした。

「旦那。あなたの経験、活かしてみませんか？」

半年後、コブラ出版から出た本は、蛇たちに飛ぶように売れ、ベストセラーになった。

タイトルは『マンガースから身を守る99の方法』

雪、マンガース、リストラ（後書き）

初めて？の動物もの（？）です！対へびの切り札として長年警備会社で働いていたマンガース。けど、不況のあおりでくびになってしまいました。そして、コブラの誘いで、作家になったんです！それもいきなりベストセラー！（んな訳ないって？あはは）マンガースの華麗な転身！

影絵、人肌、携帯番号

焦点が定まらない…。

この酒、熱燗だったはずなのに、今じゃせいぜい人肌だ。

ぐい。と杯を乾し、周囲を見回した。

誰も居ない…。よし、誰か呼ぼう。

架けなれた幼馴染の携帯番号を押した。

「わたしい。げんき？」

しばらく喋ったと思うけど、記憶にない。

けど、不思議と満足して電話を切った。

あれ？ 呼ぶんだっけ？

ま、いいや。

「おかんじょー」

店を出ると、影絵の様に人が立っていた。

「やつぱここか」

人肌の温もりが嬉しかった。

影絵、人肌、携帯番号（後書き）

なーんで、こんなにべろべろになるまで飲んでたんでしょうねえ？

まあ、何かやな事があったのかも知れませんが、この瞬間にはもう、過ぎた事になった。ふと気が付くと一人で飲んでいるのがつまんなくなつて、慣れた相手に電話をかけて無理矢理相手をさせて、で、適当に喋つて、きつと愚痴も言つて、でなんとなく満足して「さ、かーえろ」になった彼女。

それでも、やつぱり、ちよつとだけ一人で帰るのは寂しいかな、そう思ったら、店の前まで幼馴染が迎えに来ていた。そんな心遣いが、その暖かさが嬉しいな。と。

シルクロード、唐変木、水族館

「いい儲け話があるんだよ」

奴の話はろくな事じゃない。

「信用ならんな」

「まあまあ…。シルクロードに水族館を建てたら丸儲けだと思わんか？」

知らない内に、唐変木の度合いが上がった様だ。

「もちろん、水槽だけじゃない。イルカのショーだってやるぞ！」

「そして…」

奴の妄想は止まらない。

馬鹿馬鹿しいけど訊いてみた。

「で、お土産は？」

「それは、俺の書いた一大ファンタジー小説だ！」

そうだ。奴の唐変木は根っからだった。

シルクロード、唐変木、水族館（後書き）

シルクロードに水族館。儲かりますかねえ？ 色々と無理がある気はしますが、まあ、お話ですから！ そんなファンタジーな事を考えるのは、唐変木なファンタジー作家でした。ああ、なんだか、楽屋落ちだあ。 あ、でも、目的はお金儲けなんですよ？ うーん、でも、もしかしたら、自費出版で売れ残った小説を捌くためにこんな企画を？ あー怖い怖い…。

熱燗、シルクロード、蛸

シルクロードに蛸のお化けが出る。

最近帰ってきた友達が、そんな事を言い出した。

「あんな所に、蛸なんか居る訳無いだろう?」

そう言っても、弱々しく首をふる。

「だが、俺は見たんだ」

熱燗の酌をしながら彼をなだめた。

「まあ、飲めよ」

彼は杯をあり、先を続けた。

「くねくねして、足がたくさんある奴らが現れたんだ」

「奴らは牛や馬をさらうと、円盤で飛んで行ったんだ!」
俺は眩暈を感じた。

「それは蛸じゃない! 火星人だ!」

熱燗、シルクロード、蛸（後書き）

何だか、シルクロードが連続してました。まあ、前回もシルクロードは結構おざなりでしたけど、今回はおざなり度がアップしてる気がしますね…。蛸のお化けが出る。そして、蛸のお化けは牛や馬を連れ去る。UFOがやるのって、キャトルミューティレーションって言うんですけど。あれ、嫌ですねえ…。なんて言いながら使ってしまった…。

それにしても、やっぱり、火星人と言えば、蛸ですね？ね？

草餅、半熟、小学生

ねえ。草餅って知ってる？

あはは、バカにするんじゃないって？

まあ、そりゃそうだね。小学生だって知ってるよね。

そう、あの蓬を混ぜたお餅のこと。

一昔前は、おやつ定番だったわよね？

でも、最近は、おやつはチョコレートとかクッキーとか…。

中でも最近、プリンとか、半熟、つまりぷよぷよなのが流行ってるみたいよ？

他にも、半熟カステラとかもあるみたいよ。
ね、今度食べに行ってみない？

え？

そっという私が半熟？ 失礼ね！

草餅、半熟、小学生（後書き）

草餅って、最近食べてないなあ。懐かしい感じですよ。で、で、草餅って言うと、中に餡子が入っている、そう思いますよね？ 私もそのイメージです。確かに間違いじゃないみたいですけど、でも、本当は、餡子は『いれることが多い』であって、必須じゃないんですね。ただ、蓬を混ぜたお餅なんですね。その蓬だって、昔は『母子草』っていうのだったらしいです。

だから、今、一般的に草餅って言っているのは、蓬餅とも言っちゃいますね。

まあ、そんな事はともあれ、半熟、とろとろ、ぷよぷよ、うー。そのそんなにぷよぷよじゃないもん！って事で…。

完了、一富士二鷹三茄子、一目惚れ

メデタイ！ と言えば、昔から『一富士二鷹三茄子』だ。

けど、私の初恋が、その告白した結果が

「よろしく願います」

だった事は、それ以上だと思わない？

彼は、一目惚れしたよ。なんて、とんでもない事を言った。

あの恋を、良い経験になんてしなくなかった。

そう、『あの頃、確かに彼を好きだった』なんて完了形で語るのはいや。

『あの頃から彼を好き』現在進行形がイイ。

「おい。俺の下着、どこ？」

あー、もう！ このバカ茄子！

完了、一富士二鷹三茄子、一目惚れ（後書き）

完了がちよつと不自然かなあ……。あれ、普通は過去形って言いますよね……。でも、その初恋をきちんと育てて、色々なことを乗り越えての関係を作ってきた。きっかけは他愛もない事かもしれない。けど、積み重ねてきた時間は、共通の思い出は本物。

何にしても、違う人間が一緒にいるためには、それなりの努力が必要なんだろうね。そして、きつと、その努力に見合った喜びがあるはず。そう思います。

でも、このオチ、ちよつと飛びすぎかなあ？でもでも、きつと分かりますよね？状況設定、狭いですから！（あ、自爆？）

パフェ、ストライプ、同性愛

家に帰ると、黒・白・青のストライプの旗が掲げてあった。

また…。 何度言っても、勘違いは直らない様だ。
これは同性愛者のシンボルだ。 私は違うのに…。

「ああいらつく！ ここはやけ食いね」
スカートを翻し、近くの喫茶店に行った。

「ジャンボパフェ！ チョコとイチゴを一つずつ！」

やってきたパフェにむしゃぶりついた。

ひげにクリームが付くけど気にしない。
そして、周囲を一喝した。

「見てんじゃないわよ！ 私はただのオカマよ！」

パフェ、ストライプ、同性愛（後書き）

同性愛、どう使っただろう…。それを随分と悩みました。そして、訳も分からずに『同性愛 ストライプ』でぐぐって見たら、思わぬものを見つけて、そこに飛びついて、とりあえず、そのまま書き始めて、パフェはノリで使いました。むー。何だか訳分からないものになったかも…。

砦、戸籍、セレモニー

「おまえは俺達独身者の砦なんだ！」

そう言われても困るが、でも結婚出来ないカラダってのは確かだ。

遠い昔、想いを誓い合った女性がいた。

けど、昔の話だ。

この間、独身を祝うセレモニーだから来い、なんて言うから行ってみたら。

何の事は無い、ふられた奴を慰める飲み会だった。

いいよな。何度ふられたって、奴らには未来がある。

けど、俺には戸籍も未来もない。

どう言うことかって？

みんな気が付いてないけど、俺は亡霊だから。

皆、戸籍、セレモニー（後書き）

この彼、昔、将来を誓い合った彼女がいたけれど、それは結ばれぬ恋で、結ばれないままに、死んでしまった。そして、その事が未練でずっと漂っている亡霊。そして、何故か彼を仲間と勘違いしている人たちと友達づきあい（？）をしている。どこで知り合ったのか、とか細かい事（！？）は判りません！ けど、その友達が「あの子が好き」とか「告白した」「ふられた」なんて、それでも一生懸命に生きているのをほろ苦い思いで見つめてる。そんな感じです。うーん。なんで、そんなお話になったんだろう……。なぞだ……。

遭難、整形、税務官

僕は十年前に遭難した事になっている。
だから、整形もしてる。

その昔、税務官をしていて、ある組織の秘密を知り、追われていた。

戻ってくるべきではない。それは判っていた。
今さら…。

僕の感傷以外には何もないのだから…。

だから、彼女が新しい生活を始めている事を確認したら去ろう、永遠に。

そう考えていた。

虚ろな瞳の彼女と目が合った、その次の瞬間だった。
「あなた！」

今は二人で逃亡生活だ。
けど、彼女の瞳は輝いている。

遭難、整形、税務官（後書き）

うーん。ご都合主義の権化みたいなお話です。ある組織の秘密を知ってしまつて追われている彼は、彼女にも知らせることが出来ない内に逃亡せざるを得なかった。彼女を巻き込むことを考えれば、彼女に知らせることも出来なかった。そうして始まつた逃亡生活。死んだことになつてゐるはずだし、もう、戻つても見つからないかも…。そう思い、一瞬だけでいいから、彼女が無事なこと。自分以外の幸せを見つけて、新しい人生を始めている事を確認しよう。そうすれば、自分の想いは封印できる。そして、この街を訪れる事はもうないだろう。その決意をするため、そう考えて、彼女と暮らした街に舞い戻つた彼。そして、街中で偶然に出会つてしまふ。整形しているはずなのに、十年も経っているのに、一瞬で自分を見抜いた彼女。運命は優しく残酷だった。結局、彼女と一緒に街を去るしか出来なかった。お互いの存在を確認してしまった以上、もう離れる事は出来なかった。当てはないけど、でも、彼女と一緒にいる事が出来る、それは嬉しい。彼女もそう感じてくれている、それだけが拠所。

ああああ。こんな長つたらしい解説を書きたくなる200文字つて
いたい…。ぐあ！

匍匐前進、PSP、グミ

秋晴れの空が気持ちいい日だった。

「こんな日は、青空の下でPSPだよな」

なんて言ってたら背後から声がした。

「結局ゲームかよ」

振り返ると、匍匐前進しているバカがいた。

「ありゃ、バレタ」

そう言つと奴は立ち上がり、ポケットから箱を出した。
その箱を私に投げつけながら

「これ。 こないだ探してたろ」

「あ、レモングミ…」

覚えてたんだ…。 と、和んだ隙を突かれた。

「こら。 勝手にキスしないでよ」

声が上がると、気付かれた？

匍匐前進、PSP、グミ（後書き）

結局、仲のいい二人です。 どうして外に居たのか、どうしてPS
Pなのか？それは不明ですけど…。 何ていうか、今回は、お題の使
い方が非常に甘い気がしてます…。 それなりのお話にしようと思っ
て、お話の筋は何とかがつなげたかな？と思いつつも、元のお題が、
本当に単に言葉としてはめられてるだけで、どれも、意味が判らな
い…。

その内、また違う使い方を思いつくかなあ？ むー。

物見遊山、季節外れ、掌

たとえ季節外れだろうと、練習を怠ってはいけない。

そうは言っても、やはり氷の無い池ではスケートは出来ない。

だから、練習はいつも寒い。

寒いはずだけど、それでも、掌の汗は途切れない。

設定された課題にそって、正確に、寸分の狂い無く氷上を舞う為に練習する。

それはとても過酷な練習だ。

だから、物見遊山な気分で見学にくる人には腹が立った。

そう思ってた。けどそれは、余裕が無かったからだ。

楽しむ心は大事だね。

物見遊山、季節外れ、掌（後書き）

何事も初心を忘れないように、というか、やはり打ち込む為には、その理由が自分の中に必要かな、と。その理由を見失った状態で頑張ると、とっても辛い。だから、自分がどうして頑張っているのか、それを常に忘れないようにしたいな。割と難しいけど、でも、それが日々の頑張りを支えてくれるはず。そんな気持ちで書いてみました。

ミカエル、蚊取線香、スレート

今日は駅前のスーパーで特売。

あのスーパーは家から近くて、何でも売ってるから便利なんだ。夕食の材料を買いに行った。

玉ねぎ、ニンジン、その先を見ると、屋根瓦が売っていた。

『極上スレート。お買い得』

あ、そう言えば、瓦が一枚なかったかも、なんて思ってた一枚買った。その向こうに在ったのは、悪魔の蚊取線香。

さっそく点けてみる。

何かがミエル、そんな気がした。

「あ！ ミカエル様？」

やはり、力取線香！

「ダジャレかよ！」

ミカエル、蚊取線香、スレート（後書き）

あははは。超苦し紛れです。随分悩みましたけど、やはり書き始めないとどうにもならない、とスレートと蚊取線香はスーパーで買う事にして書き始めました。ミカエルは…。うーん、ここまでぐだぐだなのは初めてかも…。

スケート、浪人、再会

今年こそ！ そう考えて、必死に勉強してきた。

思えば去年は悲惨だった。

もう、大スケート大会だった。受ける大学、受ける大学、全て滑った。

だから、今年は第一志望の大学に合格するために。

そして、その大学に通う、幼馴染の彼に再会するために！

動機が不純？ 頑張るための理由はなんだっていいじゃない！

そして春。 見事に桜が咲いた。

念願の、彼と同じキャンパス。

けど、彼は私なんか眼中にない様だ。

恋愛は、まだ浪人中みたい…。

スケート、浪人、再会（後書き）

あはは。いやー、私も現役では全て落ちました。一浪して、やっと合格しました。まあ、一浪くらいなら、たくさんいますから！でも、好きな人は同じ大学には通ってませんでしたねえ、一年目は落ちちゃったし。二年目は、受かったけど、結局は他にいつちゃったしね。

え、その後は…。えへへ。ナイショ。

七草粥、冷静、マヨネーズ

今日は一月七日、朝食は七草粥の予定だ。

けど、朝起きると、冷蔵庫の中にはマヨネーズしかなかった。

落ち着いて…。まずは冷静にならなきゃ。

そうよ！買ってくればいいのよ！きっとコンビニで売ってるわ！

ひょええ！ お財布には十円しかないし！

「おはよー」

あなた、ごめんなさい…。七草が…。

「ん？ そこに出てるのは？」

あれ？ どうして？

「昨夜、今年は本格的に、とか言って、包丁で叩いてなかったっけ？」

うーん。大変よろしい。

七草粥、冷静、マヨネーズ（後書き）

ラストはブリジットジョーンズ風（？）のつもりです…。あはは、
訳判りませんね…。

で、書き終えてからふと思いついて、もう一つ作りました。

七草粥、冷静、マヨネーズ（不思議編）

どうして？ 昨日は確かにあったはずなのに…。

七草粥を作ろうと、冷蔵庫を開けたら、そこにはマヨネーズしかなかった。

私はお財布を引っ掴むと、慌てて買い物に出掛けた。

けど、どこにも七草は売ってなかった。

がつくりして、家に帰った。

どうしよう…。とにかく冷静にならなきゃ…。

もう一度冷蔵庫を良く見た。

ん？

なんだ！ オツケーじゃん！

私は予定通りに七草粥を作った。

なんと、冷蔵庫にあったのは、七草入りマヨネーズだった！

七草粥、冷静、マヨネーズ（不思議編）（後書き）

不思議編って、どれもこれも不思議はテンコ盛りですけど…。七草入りのマヨネーズなら！そう思いついて、一つでっち上げました。

そうそう、だって、スーパで見たんですよ。もちろん、七草入りじゃないですよ？ でも、ラー油入りマヨネーズってのが売ってたんですよ！ええ、ホントですよ！！ 嘘じゃないですよ！！（ちよっとオレンジ色が付いてた…。 手にとっては見ましたけど、買いませんでした…）

劉禅、クリック、矛

ね。劉禅って知ってるかい？
知らない？ でも大丈夫。

最近は便利だから、クリック一発で検索できる。

ほらこれだ。

『三国時代の蜀の第二代皇帝』
うん。その通り。

三国志では、評判はよくない人だね。
乱世に向いた人じゃないけど、むやみに剣や矛を構えればいいって
訳じゃない。

平和な時にこそ力量を発揮する人もいる。劉禅はそんな人だったん
だよ。

だから…。

ねえ、そろそろ仲直りしようよ。 夫婦喧嘩は犬も食わないって…。

「ふん！」

劉禪、クリック、矛（後書き）

また、『劉禪』なんて固有名詞が…。で、何それ？人の名前？なんて状態で、当然の様に、ぐぐりました。で、見つけたのが『三国時代の蜀の第二代皇帝』。へー。そうなんだ。で、何した人？と思っただけ、何かをしたって訳じゃなさそう。でも、この人が皇帝の間、国は安定していたみたい。じゃあ、暴君とか暗君とかじゃなかったんでしょうね。

で、ラストはちょっと強引に転換して、へんてこりんなオチに…。

ストレッチャー、興味本位、ゲームボーイ

あいた！

私は今、ストレッチャーの上で、身動きも出来ずに、その痛みを堪えていた。

きっと背骨が折れてる。それに脊髄が粉々になってる気がする。

どうしてこんな事になったのかって？

私にもよく判らないわ？

興味本位なのは確かだけど。でも、大した事じゃないわ？

だって、ゲームボーイを両手に持って、両足にDSを乗せて、逆立ちでWiiフィットをしただけなのよ？ ね？

うあ！ 背骨が碎ける！

え？ 碎けてるのは私の脳みそ？

失礼ね！

ストレッチャー、興味本位、ゲームボーイ（後書き）

えーと、具体的にどんな状態だったのか、それは私にもよく判りませんけど……。どうして、そんな事を思いついたんでしょうねえ？
謎ですねえ……。それにしても、誰が救急車を呼んでくれたんでしょうね？ いやー良かった良かった。

毒、スペイン、イギリス

無敵艦隊って知ってる？

そう。中世スペインの海軍ね。

当時のヨーロッパで、向かうところ敵無しって強さだったらしいわよ？

けど、永遠に無敵な訳はなくて、イギリス海軍の奇策の前に敗れたのよ。

あなたがこれまで無敗だったとしても、いつかは負ける時が来たはずよ。

誰のせいでもないわ、さ、ご飯を食べて、元気を出して。

どう？　少しは前向きになった？

「この味は毒だね」

どういう意味よ。

「君の料理以外は食べられなくなる」

バカ！

毒、スペイン、イギリス（後書き）

スペインとイギリスと言えば、無敵艦隊とそれを破った国、かなあ、と思いました。で、それをどうやって毒に？ 訳が分からなくなつて、カップルの話にしまいました。

怨恨、浪人、たまごつち

ピッピッ！

私のたまごつちは元気だ。

まだ浪人だけど、大学に受かったら一緒に行こうね。
そう声をかけ、私は部屋を出た。

頑張らなきゃ、そう、第一志望には彼がいるから…。

翌年、努力の甲斐あってか、私は第一志望に合格した。

けど、彼が殺された。

刑事さんは状況を見て「怨恨だな」そう言った。

私は部屋に帰り、たまごつちを問い詰めた。
「どうして！」

『おまえが悪い。俺からは逃げられない』

たまごつちから育った悪魔が嗤った。

怨恨、浪人、たまごっち（後書き）

怨恨は、そのままストレートに殺人事件に、けど、それをどうやってたまごっちに結びつけよう？最初はたまごっちに悪戯された恨み、なんて話を考えたんですけど、悪戯されたたまごっちが現場に残っている、って展開は不自然だなあ、と思っっているうちにこんな話に…。怨恨、というのは変な感じになりましたけど、たまごっちが化けました。うーん、これはホラーですよ？　こんなたまごっちは育てたくないなあ…。

最前線、竜、閑話休題

剣と魔法とドラゴンの戦い、ここは最前線。

ファンタジーだねって？ でも、私達には命懸けの現実よ。

ほら、目の前で敵の竜と味方の剣士が戦ってる。

閑話休題って、今はダメ！ 私の魔法で援護しなきゃ！

ふう…。何とか凌いだわね。

で、なに？

私の魔法はどんなものかって？

何でそんな事訊くの？ あなた誰？

あ！ スパイね？

ドカ！バキ！ えい！

危うく情報が漏れる処だったわ。

でも、なんか見た事がある人ね？

え？ 王様？

し、しーらないって。

最前線、竜、閑話休題（後書き）

剣と魔法とドラゴンの世界、ファンタジーの世界ですねえ。でも、そこに居る人たちにとっては、それは紛れも無い現実でしょう。そして、精一杯に生きているんだろ？なあ、そこで閑話休題、なんて言える人はきつと余裕があるんだろ？なあ、それとも、ちよっとずれてる？ とにかく、その場に居ても、あまり緊張しないひとだろうなあ、ならば、相対するのは「おっちょこちょい」だよ！ うーん。王様、思いつき蹴られたんでしょうか？ナニカを…。

神隠し、マフィン、毒電波

財団法人神隠しと毒電波公団。

この二つの組織は、古くから対立していた。

誰かが迷子になると、財団法人は公団を責める。

「毒電波で頭がおかしくなって身を投げたんだ」
公団も負けてはおらず、言い返す。

「そんな事はない、神隠しだ」

そうやって責め合い、対立してきた。

馬鹿みたいだ。

まあ、おかげで俺たちは楽だけどね。

「おじょうちゃん。おいしいマフィンだよ？ 欲しいかい？」

ほら、簡単について来る。

俺たちは、ひとさらいだ。

神隠し、マフィン、毒電波（後書き）

毎度の事ですが、訳が分からなくなった時の苦し紛れの作り方が炸裂しました。財団法人、公団、振興財団、などなど。をくつつけて、適当に登場させて、書きながら想像しました。まあ、今回は神隠し - <誘拐 - <人さらい、で、比較的まとまったかな？とは思いますが…。

でも、これは怖いですね…。この人さらい、さらった人はどうするんでしょうね？ばれてないって事は、身代金の要求とかもしてないんですよねえ？ どうかに奴隷として売り飛ばしてる？ それとも闇の臓器売買ネットワークが…。うー。それはさらに怖いかも…。

騎士、私、女子高生

今、目の前には一枚の紙が置かれていた。

表題は『進路希望調査』

そう、今は女子高生だけど、それも三月まで。

周囲は、当然進学すると考えている様だ。

自分で言つのも憚られるが、私は成績優秀なのだ。

けど、ここはやはり素直な希望を書きたかった。 なので

『聖騎士』

と書いた。

後日。案の定、担任に呼び出された。

「期待してるんだ！ 頼む！」

そう言いながら、先生は一枚の紙を差し出した。

『黒魔術大学入学願』

うーん。 どうしよう？

騎士、私、女子高生（後書き）

ツイッタの診断メーカ <http://shindanmaker.com/21593> で「[elwing | gray](http://shindanmaker.com/21593) 最新刊『騎士と私と女子高生』好評発売中」と出たのを頂きました。うーん。これじゃ、好評発売中にはなりそうにありませんねえ…。

畳、車線変更、ストップ

君は車線変更の正しいやり方を知っているかい？
もちろん、知ってるよね？　じゃ、やってみて。

そうそう。

まずはバックミラーで後ろを確認するんだね。

そして、次。

ウィンカーを出して、周囲に知らせる。
いいぞ。

それから？

うん。その通りだ！
顔を向け、車線が空いていることを、直接確認するんだ。

さあ、最後の仕上げだ。

おっとストップ！

ハンドルはまだ早い。

次は畳だ。　畳を忘れたら台無しだ。

畳の上に手を付いて「お邪魔します」だ。

畳、車線変更、ストップ（後書き）

畳がどうしても思いつかなくて…。畳の上に車線を引くとか、色々な事を考えました。結局は訳の分からない登場となりましたけど…。一体どこにあったんでしょ？ね？畳。

マフラー、大雨、緑茶

最近は涼しいね。

これまでは冷えた水出しの緑茶が美味しかったけど、もう、そろそろ湯飲みで熱々の新茶をいただきたい。そんな気分だね。

でも、まだコートやマフラーまではいらなかな？

あ、出掛けるの？

待ってよ。一緒に行くよ。

どこに行くの？

ああ…。

ごめんね…。

君の瞳から零れる涙の大雨を止める事も、ぬぐってあげる事も…。抱きしめる事も出来ない。

もう僕は、僕の墓前で泣き崩れる君を、ただ見守る事しか出来ないんだ…。

マフラー、大雨、緑茶（後書き）

これまた幽霊ネタですね。きっと、珍しく多くを語る必要はないかな？って感じですが。でも、大雨がちょっと不自然でしたね…。

筆箱、変態、アンフェア

今、この町は久しぶりに開催されるタイトル戦を前に沸き立っていた。

もちろん、争われているタイトルは変態王座だ。

馬鹿じゃないかって？

だが、この町では変態こそが聖なる存在であり、英雄だ。

優勝の賞品がまたふるってる。

なんと、筆箱一年分だ。

意味がわからないって？ 気にしたら負けだ、どうせ誰も気にしていない。

種目は色々だ。

が、キングオブ変態は、やはりにらめっこだ。

私の顔が面白すぎてアンフェア？

双子の癖に何をいう！

筆箱、変態、アンフェア（後書き）

筆箱が困りました…。もう、だから、気にしたら負けだ！って事で…。これはもう、開き直りですね…。そして、また（？）使ってしまいました。双子…。

調教、単刀直入、両手

目眩がしそうだった。

「ああら、あなた。私に調教してほしい？」

怪しい格好の妻が、妙なシナを作っていた。

「お、おまえ！ その格好はなんだ！」

妻は両手で私を抱きしめた。

「あら、体は単刀直入ねえ」

そ、それは日本語として間違ってる！ いやそっじゃなくて…。

ここは冷静に…。

きつといつもの事だ。

なら…。

「で、今度は何だ？」

「えへ」

妻が指差す先に、バラバラのホワイトジグソー。あと少しだったのに…。

ああ、目眩がする…。

調教、単刀直入、両手（後書き）

これは困り果てました。で、調教を最初に使ったら、何故だか、こんな方面に…。書いててチヨ―恥ずかしかったです。それにしてもオトボケの奥様ですね？ それにしても、体が単刀直入…。一体何の事でしょうねえ？ んー、何にしても、もう訳分らないから、とりあえず書きながら考えよう、なんて言っで、でも考えないで書くところな事に…。

たまゆら、windows、ストレッチャー

「たまゆらって知ってる？」

「知らないけど、調べられるよ」

「windowsなら判るの？」

「携帯でもOKだよ？ 検索するだけだから
で、ちよいとぐぐると…。」

「うーん。ドラマのタイトルみたいだね、でも、どうして？」

その時サイレンが聞こえ、見ると、口から泡を吹いた変な格好の
人が、ストレッチャーで運ばれて行った。

「あの人、たまゆら友の会の人…。」

ため息をつき、コメントした。

「何か知らないけど、止めるべきだろう」

たまゆら、windows、ストレッチャー（後書き）

ちよつと抜けた、というか人が好い感じの彼女が、たまゆら友の会、
というのに誘われて、で、ふと、そういえば『たまゆら』って何？
って思いました。なんてつもりでした。まあ、その会が怪しげな会、
というのは、そうしないと話が進まなかったからです。たまゆら、
つてむかししのNHKのドラマのタイトルみたいですね。それ以外
はぐぐっても出てこなくて、何だかちよつと訳が分かりませんでした…。

石けん、援助交際、羊

「僕と援助交際して下さい！」

頭を抱えながら、とりあえず確認する。

「え…と、援助するのは私？ それとも君？」

そもそも、今、デートのつもりだったけど、違うのだろうか？

「あ！ 両方です！」

「僕の牧場の羊を売るために、あなたの会社の石けんを使って洗うんです。そして、きれいな羊を売ったお金を山分けするんです！」

彼の頭の中は未だに理解しきれないけど、でも、好きなんだから仕方がない。

「じゃ、その後は政略結婚かしら？」

石けん、援助交際、羊（後書き）

これは、援助交際をどうしようかなあ、でプロットは特に思いつかなかったもので、とりあえず、真っ直ぐに援助交際を申し込むとばけた彼を設定して、もう後は好き放題にキャラに走ってもらいました。まあ、私の中のキャラは基本的にのんびりさんで、ほのぼのキャラなんで、こんな感じのお話になりました。

オレンジジュース、寺、鳥

「よし！」

遂に手に入れた。

この液体。色も味もオレンジジュースだ。

けど、実は超強力惚れ薬で「あなたを256倍好きになります。

（当社比）」だ。

僕はこの寺の住職だけど、普通の男なんだ。女の子と仲良くしたい。

使い方は簡単だ。目の前で飲んでもらえばいい。

飲めば、最初に見たものを256倍好きになる。

結構おいしいんだよ？ ゴクゴク。ほらね？

ん、鳥だ。すずめか？

「すずめ、ラブ！」

え！ 人間以外でも有効とは聞いてない！

オレンジジュース、寺、鳥（後書き）

オレンジジュース。どうしようかと…。それに寺って？ でも、惚れ薬ってした時点で、自分でもオチが透けて見えてしまいました…。せめて、途中のテンポで！と思って、256倍とか当社比とかをつけてはみましたが…。むー。

節分、ギフト券、除夜の鐘

この街の節分はお祭りだ。

もちろん、豆まきもするけれど、一番盛り上がるのは、豆飛ばしだ。これは、もう大人気の競技だ。

そして、優勝者にはプレゼントが！

ほら、今年も始まった。

みんなで鼻の穴に豆をつめて、鼻息で飛ばすんだ。バカバカしいって？ 当然だ！ バカバカしい方が盛り上がるし、楽しいじゃないか。

なんと今年は僕が優勝だ。 賞品はギフト券だ！

ドキドキしながら、封を切った。

え？ 一家に一台、除夜の鐘セット？

ゴーン！

節分、ギフト券、除夜の鐘（後書き）

節分で除夜の鐘を貰ってもねー。随分先ですよねー。って、そういう問題じゃない気はしますが…。それにしても、除夜の鐘、無茶振りですねー。あはは。

クリオネ、石原軍団、番所

撮影の合間、セツトの番所で休んでいた時だった。

「おまえ、クリオネみたいだな」

幼馴染のあいつに突然言われた。

石原軍団の一員のあいつは正直かつこいい。

「え？」

クリオネって、流水の天使とか呼ばれて、とってもかわいい感じだ。

思わず、頬が染まりそうになる。

けど、どうしてだろう？ あいつはニヤニヤしてる。

その時、そつと先輩が教えてくれた。

「クリオネって、ナメクジって意味もあるらしいよ」

ぐ。 帰ったら、お仕置きだ！

クリオネ、石原軍団、番所（後書き）

えー。私としては、非常にありがちですが…、はい。この二人、幼馴染のカップルで結婚してるという設定です。けど、番所って…。うーん。適当に使っちゃえ、と適当にお茶を濁しました…。

ヘッドフォン、絶壁、礼拝堂

俺は、伝説のヘッドフォンを探している。

それは極上の調べを奏でると言う。ぜひ欲しかった。

最近、この山奥の礼拝堂に伝説のヘッドフォンがある、という噂を聞いた。

絶壁を上り、川を渡り、噂の礼拝堂にたどり着いた。

中に入ると、いきなり神様が現れ、期待が膨らんだ。だが、現実は厳しい。

「金のヘッドフォンと、銀のヘッドフォンと、ダイヤのヘッドフォン。おまえの欲しいのはどれだね？」

ハズレだ。そんなものなら持っている。

ヘッドフォン、絶壁、礼拝堂（後書き）

とても苦し紛れな感じです。この人、ヘッドフォンマニア（って何それ？って感じですけど…）でしょうかね？ それにしても、金、銀、ダイヤのヘッドフォンを既に持っているなんて、どこで手に入れたのでしょうか？ むー。謎だ。

霊柩車、独立独歩、秋

「んー。 秋だね」

「当たり前でしょ。 もう十月よ」

「なんだい？ その言い方にはとげがあるなあ。 何が気に入らないのかな？」

「ふん。 訊かなくても判るでしょ？」

「会社の活動は独立独歩だし、時には、私用で使っても大丈夫さ」
「だからって、常識は必要よね？」

「でも、これを使わないと、俺たち、遅刻だぜ？」

「だからって…」

「俺も一緒だし、そもそも寝坊したのはお前だぞ」

「う…」。 けど、霊柩車で乗りつける花嫁って、どーよ」

霊柩車、独立独歩、秋（後書き）

えー。はい、その通りです（何が？）。この二人が新郎新婦です。その二人が結婚式の朝に寝坊して、式場まで急いでる。そんな設定です。それにしても、二人とも前日は会社にも泊まってんでしょかねえ？ 忙しそうですね。

音楽室、永代供養、傘

雨が降り出した。傘、持っていないよ。惨めだ。
今日もマツチは一箱だって売れなかったなあ。

シュポッ

火を点けると暖かいなあ…。

あ、暖炉のある暖かい部屋が見える気がする…。

音楽室かなあ、色んな人が楽しそうに楽器を鳴らしてるなあ。
いいなあ…。

あ、消えちゃった。

はあ、こんなに貧乏だと死ぬかな？

もし死んだら、身寄りはないし、永代供養してもらえるかな…。

無理か。

貧乏だし、きっと死なないし。

だって、僕は貧乏神だから。

音楽室、永代供養、傘（後書き）

マッチ売りの貧乏神です。どんなに寒くても、どんなに貧乏でも死にません。何と言っても神様ですから。けど、貧乏なのに変わりはありません。ある意味かわいそうですね。けど、最近の永代供養っていうのもちょっと寂しいですね。身寄りに墓を守ってもらえないから、お墓を管理する所にお墓を維持してもらっ、っていう事らしいですから…。

新撰組、大阪環状線、凱旋門

我々新撰組は、遠足中だ。

遠足と言っても、遊びじゃない。立派な移動訓練だ。

出発は西本願寺の屯所。目的地は凱旋門だ。

あまりに遠方なので移動手段は徒歩には限定しないって規則だった。

隊士は全員、意気揚々と出発したが、全員行方不明だ。

判ってるのは、

近藤隊長と土方副長は、大阪環状線で西郷隆盛と飲み比べの結果、急性アルコール中毒で入院。

沖田総司は吐血し、やはり入院。

そして、山南敬介は第十三代將軍になっちゃった。

新撰組、大阪環状線、凱旋門（後書き）

なんでこんな話に…。と我ながらびっくりしちゃう。いや、お話になつてないですね…。最後の、分かりますよね？ ええ、篤姫です。全く意味不明ですね…。

夏、キミ、吸血鬼狩

今年の夏休みは大変だった。

せっかくの家族旅行だったのに、楽しむことなんて出来なかった。まあ、旅行先での行事を調べてなかったのがいけないんだけど。

まさか、吸血鬼狩をしてとは思わなかったよ。

おかげで、にんにくやら、十字架やらを押し付けられるし……。死ぬかと思ったよ。

全く、まだあんな事やってたとは……。

え？ この現代に吸血鬼なんている訳がないだろうって？

キミ、それはどうかな？

僕のこの立派な犬歯はなんだと思う？

夏、キミ、吸血鬼狩（後書き）

このお題は、ツイッタの診断メーカでもらいました。

elwing | gray 最新刊『夏とキミと吸血鬼狩』重版出来！
って事でしたけど、いやあ、これじゃあ重版どころか、返本殺到！
って感じですかねえ。

Ｔバック、勝負服、不届き

私のとなりに不届き者がいる。

「ちょっと。どこ見てるのよ！」

となりにいるのに、私のことなど少しも見ない。

「あの子の服。すごいなあ」

私だって、今日は飛び切りの勝負服なのに…。

「もう！ 帰る！」

そう言い立ち上がると、慌てた様に私を引き止める。

「え。 どうして」

「他の子ばっか見て！ Ｔバックにでもすれば良かったの？」

けど、次の一言で彼を引っ叩きながらも、真っ赤になってしまった。

「おまえは服なんか無くても綺麗だ」

Ｔバック、勝負服、不届き（後書き）

こゝこれは、ねえ？　いくら見とれるのが服だけでも、きちんと彼女を見てあげなきゃねえ？　せつかくのデートで、他の子を見てたらダメですね！　彼氏失格ですね！

お題、プレイディア、日テレ

ある日の、日テレのプロデューサ会議であった。

「次のお題、何にする？」

「懐かしのゲーム機。なんてどうだ？」

「ファミコンか？」

「それも良いけど、もっとマニアックなのをやるつよ」

「PC-FXか？」

「甘いな、それ、随分メジャーだぞ？」

「じゃ、なんだよ」

「プレイディアだ！」

「それ持ってたぜ」

「俺も」「僕も」「私も」

「あれ、意外とメジャーなんだ？」

「じゃダメだ」

全員がマニアだって事には、誰も気が付かない様だ。

お題、プレイディア、日テレ（後書き）

プレイディアってお題をみた時は一瞬目が点になりました。「え？何それ？」って…。また、訳の判らない固有名詞を…。当然ぐぐりました。そして、見つけました。バンダイが出したゲーム機みたいですね。あまりメジャーにはなれなかった様です。それにしてもお題に『お題』ってどう言うこと？なんてのもありましたけど、今回はどう書き始めればいいのかを思いつかずに、随分と時間がかかりました…。

内需拡大、四阿（あずまや）、汽車

この庭園は、休日には家族連れが多数訪れる、憩いの場所だ。芝生の丘で子供たちが遊ぶ姿は、心を和ませるものがある。

そんな家族連れ相手のお店が繁盛してる。小さな内需拡大って感じかな。

で、実は、林の向こうの四阿が、一部で大人気だ。

そこから見えるローカル鉄道は、全国でも珍しい汽車が走るんだ。

そう、鉄道マニアが見逃す訳がない。

だから昔はフィルムもよく売れた。

けど、今はさっぱりだ。

だって、みんなデジカメだもの。

内需拡大、四阿（あずまや）、汽車（後書き）

四阿、『あずまや』だそうです。妙に難しいっていうか、普段見ない字だなあ、と思いました。これもぐぐって読みを調べました…。汽車と四阿は、割とすぐに絡め方を思いつきましたけど、内需拡大がねえ…。ちよつと苦し紛れですねえ。

お話としても、オチが弱い気がするし…。むー。

赤道、ロシアンティー、義母

ロシアンティーと言えば、熱々の紅茶にジャムを落としたもの。生まれてこれまで、ずっとそう思ってきた。

けど先日、夫の母親を訪ねた時

「ロシアンティーでも…」

そう言って義母が入れてくれた紅茶はレモンティーだった。

私の頭はハテナマークで一杯だった。

夫に聞いたところ、英国ではレモンティーもロシアンティーと言うらしい。

「へえ」

と、感心したけど、やっぱりアイスティーよね？

私たちは今、赤道直下の南国に赴任していた。

赤道、ロシアンティー、義母（後書き）

ロシアンティー、ロシアではジャムを落とさずに、ジャムをなめながら紅茶を飲む、というのが正しいようです。で、英国ではレモンティーもロシアンティーと言われます。当然、全部ぐった結果です。うーん。勉強になりました。

少女、魔王、哲学講座

今、魔王となる為の哲学講座が開催されている。
講師は当然、現役魔王だ。

「生贄は少女、中でも美少女が望ましい」
その言葉に一人の少女が質問する。

「なぜ少女なのですか？」

「昔からそう決まっておる」

「それは理由になりません。 私は、なぜ少女が有効なのか、その理由が知りたいのです」

魔王は忌々しげに少女を睨み付けたが、少女は折れなかった。

やがて深々とため息を突き、魔王は言った。
「だって、その方が気分が乗るじゃん」

少女、魔王、哲学講座（後書き）

elwing | gray 最新刊『少女と魔王と哲学講座』重版出来！
はい。これも診断メーカから頂いた御代です。哲学、魔王の哲学か、少女の哲学か…。少女の哲学っていうのもありかな、と思いましたけど、魔王の哲学にしました。結局、魔王の趣味、ということ…。（哲学じゃないじゃん！）

旅行、キャベツ、ラブコメ

コトン

と音がして、原稿がポストの中に落ちた。

何の原稿かって？ 「ラブコメ大賞」に応募する僕の小説だ。

一等は、なんと北海道旅行だ。

いやいや、旅行に目が眩んだ訳じゃない。

小説の内容は、少し抜けてる先輩が出会ったバタに、一緒に巻き込まれる後輩。

ラブコメの王道だ。

書きたかったんだ…、先輩に見てもらう為に。

結果は努力賞で商品はキャベツ一年分だった。

けど、先輩は大賞を取った。

タイトルは「抜けてる後輩」だった。

旅行、キャベツ、ラブコメ（後書き）

自分と先輩のことをモデルに小説を書いて投稿した彼。ラブコメの王道パターンで、なんとか努力賞をもらいます。（そんな章あるのかなあ？）けど、その大賞をとったのは、なんと先輩で、先輩視点での自分との関係のことだったって事で……。えー、はい、そのトオリです。私の王道パターンです。えっへん！

それにしても、使い道に困ったキャベツはまた賞品に化けました。一年分のキャベツって一体どういうことでしょう？

パン、白熊、雪見大福

雪の降る平原の真ん中で、真っ白な何かが蠢いている。

恐る恐る近付いてみると、なんとそれは白熊だった。

「やあ、白熊さん。何してるんだい？」

「ん？ デザートさ」

そう言い、手を差し出した。それは雪見大福の様だった。

「雪見大福？ そっちのは？」

「蒸しパンさ」

「真っ白で判らないよ」

「ははは」

ふと、妙な盛り上がりになった。

「それは？」

白熊さんがニタリと笑い、雪を払った。

「君のお父さんだよ」

それは白骨死体だった。

パン、白熊、雪見大福（後書き）

これはホラー？ちょっと違うような、でも珍しい動物ものですね。
白熊さん、お父さんを食べたデザートに雪見大福と蒸しパンを食べ
てたんですね。うわあ怖い。このあと、彼はどうなったんでしょう
ねえ…。

罵倒、ハグ、カチューシャ

「私、カチューシャが欲しいな」

「判った」

それは昨日のことだった。

思えばその時、彼の目は妙に輝いていた。

「お待たせ」

思いつきりハグされながら、彼が乗ってきた、無骨なトラックを
呆然と見ていた。

「君がこれを欲しがるなんて、僕は嬉しいよ」

「こ、これは、なに？」

恐る恐る訊き返した。

「なにつて、カチューシャだよ？ 自走式多連装ロケット砲」

もはや、武器マニアの彼を罵倒する気力も失い、私自身のうかつ
さを呪っていた。

罵倒、ハグ、カチューシャ（後書き）

カチューシャってヘアバンドだよ。と思いながらも、念のため、とぐぐって見たら、「へ？」って感じでした。最初に出てきたのが、「自走式多連装ロケットランチャー」でした。どうやら、ロシア軍の兵器の通称の様です。で、よし、ヘアバンドとロケット砲で話をしないかな（どんなん？）と思って、まあ、二人の勘違いについてお話だよ、と思いながら書きました。ハグと罵倒がちょっと変な感じかなあ…。

城、こぶ茶、アングル

「うん。いいねえ、その表情いただき」

そんなことを言いながら、カメラマンがシャッターを切る。

早く終わりたいが空気は読まねばならない。

「このアングル、何枚か欲しいな。湯飲み、もう少し上に」
無言で頷きながら、湯飲みを口にあてた。

全く、この惑星の住人は奇妙なことを考えるものだ。

こぶ茶のCM撮影にお城の天守閣、その屋根を使うなんて…。

だが、眺めは良い。それに達成感は癖になる。

そう。この惑星の夜明けは美しい。

城、こぶ茶、アンゲル（後書き）

はい。そうです。どうしてこうなったのか？ よく覚えてませんが、宇宙人ジョーンズです。最初は、モデルは女性のつもりで書き始めたのですが、気が付いたらジョーンズさんになってました…。なぞだ…。で、自棄になってCMに出てきた台詞を何箇所かにちりばめました。

口笛、入浴、長門

「ヒュー。 あの子可愛いじゃん」

口笛を吹き、悪友が歓声を上げた。

「ふうん」

またか、そう思いながら適当に相槌を打つ。

俺は長門ファンクラブ会長だ。他の女に興味などない。

奴の言葉を受け流して空を見上げ、長門を思った。

が、突然、聞き捨てならないことを言った。

「入浴用の長門が好きだったな」

「実は硬いのに、あの曲線がいいよな」

きよ、きよくせん！？ 思いきり奴を睨み付け…。

「日本帝国海軍 戦艦長門」

そのまま脱力した。

口笛、入浴、長門（後書き）

長門って…。ハルヒかなあ？ と思ってぐぐると、トップは戦艦長門でしたけど、やっぱり長門有希がたくさん出てきました。ので、やはり、これは宇宙人長門と戦艦長門だね、と思って書き始めました。鉄板としてはメガネなのかも知れませんが、うまく絡める事が出来なかったので、諦めました…。それにしても『入浴用の長門』って妙な表現ですね…。戦艦長門のプラモデルとかのつもりで書きましたけど、妙すぎる…。

一輪車、カチューシャ、明石焼

今日、このお店のランチは明石焼定食だった。
明石焼定食って何？

そんな疑問もあったけど、配達係の私には関係ないと思った。

けど、それは間違いだった。

この店には無茶なルールがあった。

「明石焼定食の出前は一輪車」

やっと出前から戻ると…。

「四食以上なのでカチューシャを付ける」

呆然と、でも言われるがままに出前に行った。

戻ると幼馴染の店主が私を見ていた。

「今度はなによ」

「俺への出前にはこの指輪を付けて？」

バカね。

一輪車、カチューシャ、明石焼（後書き）

うわ。またカチューシャだ……。これも結構、苦しみました。そして、定食にしまつて、出前の無茶振りルールとして無理矢理使いました。で、落とす方法がわからずに、エイヤっいつものネタに……。ちよつとワンパターンになつてゐるかなあ。

俺、君、やさしい日常

「やさしい日常？」

「何それ！ 似合わない！」

思いつきり言って、酒を呷る。

「失礼っすね…。俺って優しいんすよぉ？」

「そうかもね？ けど、誰にでも優しくすぎるのは罪よ？」

「あなたは特別ですよ！」

「ほら、またそんなこと言って。ホントに君はうまいわね」

心臓が跳びはねたのは内緒だ。

「嘘じゃないんすけどねえ…」

「そんなに酔った？ 奥さんに聞かれたら大変よ？ さ、帰りましょ」

切なさを抑え、想いを振り切る様に立ち上がった。

俺、君、やさしい日常（後書き）

さあ、次の診断メーカからのお題は「[elwing | gray 最新刊『俺と君とやさしい日常』好評発売中！](http://shindanamaker.com/21593) <http://shindanamaker.com/21593>」でした。

うーん。これは、今までとはちよつと違った感じのお話ですね？

伝えることが出来たでしょうか？ はい、この二人設定としては職場の同僚。私、というか彼女の方が先輩で、後輩の彼とは気の合う仲間。何かの仕事の一段落で、祝杯を挙げていたけど、彼が意味深なことを言うので、それ以上踏み込むと、自分が戻れなくなる、そう感じて踏みとどまる彼女。この二人、このあとはどうなるのかなあ？ 色々なパターンはあるでしょうね。

白馬の王子様、紹介、ホームレス

「誰かいいオトコ紹介してよ」

思わず愚痴がこぼれた。

別に高望みをするつもりはないけど。

一緒に居て楽しい、そして私をこの現状から救い出してくれる。
そんな彼氏が欲しかった。

「何言ってるのよ、あんたそんな暇ないでしょ？」

となりの子がさもつまらなそうに言い返した。

「別に白馬の王子様を期待してる訳じゃないけどねえ」

「はいはい。いいから手を止めない」

私たちはホームレスで、今はダンボールの家を作ってる最中だった。

白馬の王子様、紹介、ホームレス（後書き）

ホームレスの女の子たちでした。そろそろ寒いですよねえ。昔は新宿駅の地下道なんかにつこうたくさんダンボールのおうちが並んでましたけど…。ダンボールの継ぎ目にはちゃんとダンボールの切れ端は新聞紙をつめておかないと、風が通って寒いんですよ！

てんこ盛り、私、瞑想

バシッ

また打たれてしまった。けど、仕方がない。
別に喜んでる訳じゃないけど…

いや、やっぱり喜んでるのかな？
でも、マゾな訳じゃないよ？

どうしてって、今、私の頭の中はアイデアがてんこ盛りだったから…。

もう、全然瞑想できない…。

なぜ？

何にも思い付かないから、一旦頭を空にして、新たな気持ちでアイデアを練ろう。

そう思ったのに、座禅を始めた途端、次から次へとネタが浮かんできて、ちつとも頭が空にならない…。

てんこ盛り、私、瞑想（後書き）

ネタに詰まって、ちょっとリセットしよう、そう考えての座禅だったのに……。その途端に次から次へと……。ああ、メモリたいけどメモできない……。あああ！忘れちゃう！忘れないうちにメモしなきゃ！！！！　あああ、嬉しいけど悲しいよお！

まあ、座禅じゃなくても、みなさん、そんなことありません？？

おしゃかさま、五円玉、茶封筒

茶封筒を十個作ると五円玉を一つもらえる。

その程度のバイトだけど、でも、私にはそれしかなかった。

そうしてギリギリの家計をどうにか支えていた。

そのとき、玄関から呼び声がした。

「ごめんください」

行っで見ると、そこにはおしゃかさまが居た。何の用だろう？

「あなたの作った茶封筒がコンテストで優勝しました」

「え？ 封筒が？」

「茶封筒に書かれた二百文字小説がつけたんですよ」

え、じゃ、私が封筒に入れた長編ロマンは…。

おしゃかさま、五円玉、茶封筒（後書き）

うーん。おしゃかさまが意味不明です…。また作家ネタですね…。しかもかなりグダグダです。茶封筒貼りの内職をしながら、小説を書いて投稿した彼女。けど、投稿作は落選し、おまけで書いた二百文字が賞を…。うーん。人生何があるか判らない！（え？そんな話じゃない？っていうか、これはお話になってる？）

折れた剣、乾杯、三顧の礼

「まず乾杯から」

そう言い僕は盃を合わせた。

「で、何を企んでる？」

「この国を変えるんだ」

「ふん、やはりな。だが前回の結果は、あれだぞ？」

前回、英雄が使っていたが敗れ、折れた剣を指差した。

「あの時は策が足りなかった。だから今度は軍師を招いた」

「誰か来てくれるのか？」

「三顧の礼では無理だったが、最後には承服してくれた。それが

彼だ」

「ケロロ軍曹であります！」

僕は目眩を感じながら言った。

「帰っていいか？」

折れた剣、乾杯、三顧の礼（後書き）

ペコポン星を侵略するために、今日も軍曹はがんばっています！（かな？）ガン普拉を作りながら、日々しょーもない策を練っています。（しょーもない、じゃだめですね…）

うー。これはこれでグダグダですねー。意外に難しい…。

裸眼、トリアージ、ハンバーガー

私は目の前のことが判らなかった。

つい一時間前まで、一緒に笑顔でハンバーガーを食べていたのに…。

けど、無理していたのか、彼は貧血で倒れ病院に運び込まれた。

付けられたトリアージ・タグは黒色。

近視が酷く、裸眼でタグの文字は読めないけど、既に死んでるってことだ。

訳が判らなくて涙も出なかった。

けど、彼は突然起き上がった。

「あなた…。死んだんじゃないの！」

「俺、ゾンビだから」

嬉しくて、涙が止まらなかった。

裸眼、トリアージ、ハンバーガー（後書き）

うーん。ちょっと気が引けたんですけど、モンスターカップルに
てしまいました（推敲で消えちゃったけど、彼女の正体は吸血鬼で
す）最初はタグは黄色か緑色で、命に危険はない、って判定なのに
死んじゃった。医療ミス、って展開を考えたりもしたんですけど、
物語としてのオチがつかなくて、諦めました。

もうちょっと長編にすれば、そんな展開も可能かなあ、とも思いま
したけど、やはり、こんな半端な長さで人の死を扱うのはやはり躊
躇われて、えい、っと死んでるけど死んでない、ってことでゾンビ
のお話にしてみました。うは！スプラッタ！？　な展開にはな
ってませんけど…。

エッチ、土下座、福沢諭吉

待ち合わせの間、俺は妄想に耽っていた。

「エッチなこと考えてたでしょ」

気が付くと彼女がいた。 今、妄想の中で俺は彼女に……。 そんな俺は土下座するしかなかった。

「ごめん！ 考えてたっていうか、妄想してたっていうか……」
「なにそれ」

「今日は何でも奢るよ！ な？ ほら、福沢諭吉がこんなに！」
「調子いいんだから」

俺は必死で話題を変えようとした。
「な、どこ行く？」

「けど、彼女は悪戯っぽい笑みで言った。
「で、妄想だけなの？」」

エツチ、土下座、福沢諭吉（後書き）

あはあは。『エツチ』…。なんてストレートなお題なんでしょう？
土下座は割と素直に出ましたけど、福沢諭吉はどうしようか悩みました。『天はエツチの前に人を造らず、エツチの後に人を造る』ナンチャッテ。うは。こんなこと書くのって照れるなあ…。でも、この『天は人の上に…』って言葉、別に福沢諭吉の言葉じゃなさそうですね。福沢諭吉は単に引用したみたいですね。それにしても、このあと、この二人はどうしたんでしょうね…。彼、彼女を見てゴクンなんて生唾を飲み込んだら、ぜーったいに「あー。やっぱりエツチだー」って突っ込まれますね。もう決まりです。

橘、コンクリート、おたまじゃくし

コンクリートジャングルを離れ、山間の町に越した。

家の近くの水路ではおたまじゃくしが泳いでいた。
少し歩くと、葉が濃い緑の、小さな木があった。

「これなに？」

「橘だな。ミカンの親戚だよ」

「食べられる？」

「マーマレードにするのがいいかな？」

「私作る！」

「ママ、喜ぶぞ」

この町なら療養には最適のはずだ。

この子らの為にも負ける訳にはいかない。

「よし、ママのお見舞いに行こうか」

「うん！」

顔を上げて、歩き始めた。

橘、コンクリート、おたまじゃくし（後書き）

うーん。これ、イメージは『となりのトトロ』です。状況設定とかまるっきり違うかもしれませんが、そのイメージでお題にそって書いたつもりです。あのお母さん、どんな病気なのかな……。お父さん、必死に頑張ってるけど、奥さんが入院中っていうのは、辛いよね……。さあ、頑張れ！ みんなも待ってるんだから、必ず帰ってきてね！

戦争、スキンヘッド、あかおに

「戦争は起こしちゃいけない」

あかおにがそう言います。

「軍備が弱いと自分を守れないぞ？」

スキンヘッドはそう訊きます。

「話しあえば良いのです」

「話しても判らないときは？」

「それでも話すんです」

「話が通じなくても？」

「誠意を持って話せば、必ず通じます」

ぬらりひょんは、訳が判らないので訊いてみました。

「戦争は起きますか？」

「戦争は絶対に起こしちゃいけない」

あかおにもしスキンヘッドも、声をそろえて叫びました。

戦争、スキンヘッド、あかおに（後書き）

結局、みんな戦争なんてしたいとは思って無いけれど、でも、それをどうやって実現するのか、になると意見が食い違うのかな？ 理想は大事、でも理想だけを見てると、現実を乗り切れないかな、だからって、現実への対処ばかりを優先すると泥沼に……。理想をしっかりと見つめて現実への対処をしっかりと考えるってことでしょ
うか？ まあ、言うは易し、ですけどね。

その昔（どのくらい昔かは忘れました）何かのテレビで、アメリカ軍の人がインタビューに答えて言った言葉で「戦争は起こしちゃいけない。だが、もし起きたら負けてはいけない」って言うのがありました。この言葉の前半と後半のバランスが重要なのかな、なんて思いました。

ラッキー、判決、公園

グラブを持つと、ダッシュで公園に向かった。

「ラッキー！ 一番乗り！」

あの頃は、毎日草野球だった。あれから何年経つのだろう…。

今、僕はその公園を取り壊してマンションを建てようとしている。

周辺住民はこぞって反対で、裁判になった。

判決は住民の敗訴で、かつての草野球仲間にも罵られた。

だが、僕には計画があった。

今日、社内でやっと認可された僕の計画を披露するときが来た。

「1Fは初の草野球用ドームです。そして…」

ラッキー、判決、公園（後書き）

現実としてはどうなのか、そもそも日照権とかもあるんじゃない？ 救われるのは草野球だけ？　なんてことも考えましたけど、まあ、こんな発想もありかなあ、なんて無責任に思いました。1Fは高さ10メートルくらいの草野球用ドーム！　初の全天候型草野球場！　グラウンドはもちろん、芝なんかじゃありません。フツの地面です。毎日だれかがダイヤモンドをその辺の棒切れで描くんです。ああ、妄想は爆発するけれど、実現性は……。　あははは。すんごい無茶振り。

Twitter、マペット、古事記

「古事記にも僕たちは登場してるんだよ」

「え？ カエルクン、どういうこと？」

「つまりヤマタノオロチはウシクンで、僕が君を酒で酔わせて退治して、ステーキにして食べたってお話なんだよ」

「え、うそ！ でも、昔のことだし…」

「実はパペットマペットのIDを使って、Twitterで呟いたんだ」

「なにを？」

「ウシクンとても美味なう」

「うそ」

「すっごくたくさんの人にフォローされてるよ」

「だから、カンバイ！」

「やだー！」

Twitter、マペット、古事記（後書き）

パペットマペット、懐かしいですねえ。カエルって、まあ、肉食ではあるのかなあ？気の弱いウシクンは、いつも苛められましたね。

護送、mixiアプリ、明日

「おまえ、プログラム作れるよな？」

もう、記憶の彼方だった同級生からだった。

「mixiアプリを作る人間を探して。明日、話そう」
待合場所を指定し電話は切れた。

翌日会ったとき、奴は「mixiで人探しを手伝って欲しい」そう言った。

捜査だろうか？

そのまま護送され、とある一室に行った。

次々と特徴があげられた。

「可愛いのがいい」

「年上も好き」

「捜査じゃないのか？」

奴は泣きそうな顔で言った。

「彼女が欲しいんだ」

護送、mixiアプリ、明日（後書き）

mixiアプリってなんでしょう……。ゼンゼン知らないけど、とにかくネットのmixiの関係でプログラムに違いはない！ ネットで捜査、でどうだろう、と思って書き始めました。けど、普通の捜査ではオチがつかなかったので、個人的なことになってしまいました。

傘、牧場、神様

ここは神様牧場、様々な神様を育てている。
今日は雨の神様の出荷試験だ。

「おはよう、調子はどうだい？」

「ばっちりです」

この神様とは仲良しだった。傘が必要かな？

試験は雨をコントロールすることだ。

まあ、彼は申し分なく合格だった。

「合格だ」

「やった！」

突然、大雨が降りかかった。が、僕は傘をさしていた。

「悪戯はいけないな」

「えへへ」

やんちゃな神様を小突いた。

こいつともお別れか…。

そう考えると、少し寂しかった。

傘、牧場、神様（後書き）

神様牧場って一体……。それは神様を育てて、必要とする各地に送り出すんです！ 毛を刈ったり、乳絞りをする訳ではありません！（きつとね…） 牧場で育った神様は、一定の年齢を超えると、テストをして、合格したら各地に旅立ちます。合格の時がお別れのときます。 ちょっとやんちゃで、元気な雨の神様の誕生を喜びながらも、ちょっと寂しさを覚える彼でした。

なんちゃって、これは設定がソートーふっとんできますね。

女の子、命日、パート・シュクレ

今年もお祖父さんの命日が巡ってきた。

お祖父さんが死んだとき、私はほんの小さな女の子だったから覚えてないのだけど。

お祭り騒ぎが大好きだったお祖父さんの遺言で、命日はタルトのぶつけ合いだ。

それも、丁寧に焼き上げた自家製のパート・シュクレを使うタルトだ。

彼に話したとき「なんて勿体無いことをするんだ」そう言っていた。

けど、今年は彼の顔面にタルトをぶつけることに決めた。

それが我が家の伝統的な求婚方法だから。

女の子、命日、パート・シュクレ（後書き）

これ、まずパート・シュクレってなに？から始まりました。例によってぐぐったところ、タルトなどの生地のこと、と分かりました。そこで、なぜか思いついたのはパイ投げでした。で、タルト投げという意味不明の展開です。でも、なんと言っても、この家のタルト投げはぶつけ合い（愛）ですから！！ナンチャッテ！。

温泉、イヤリング、サイレン

私は冒険が大好きだ。 どんなことでも怯まない。

そんな私が彼と出会ったのは、とある温泉だった。
私たちは部族が違ったけど、すぐに感じあった。
間もなく、私たちは結婚を決めた。

挙式の日、私たちの結婚を祝う音楽は騒がしく、まるでサイレンのようだった。

結婚の証にと、イヤリングをもらった。
いえ、イヤリングだと思った…。

けど、耳に付けようとしたら、皆が首を振った。

皆は鼻に付けろと言う。

この冒険は好きになれるだろうか？

温泉、イアリング、サイレン（後書き）

うー。サイレンがイマイチかな……。部族が違つと、慣習とか美的感覚とか、違いますよね。彼女はその違いを乗り越える事ができるでしょうか???

貝塚、天気雨、合わせ鏡

貝塚から、また鏡が発掘された。

「前回の鏡と似てますね？」

「ああ」

「セツトなんでしょうか？」

「とすると、合わせ鏡をしたら何かが起きそうですね？」

「典型的なパターンだと、突然天気雨が降り始め、風が吹き、悪魔が出現するんだ」

「あはは。まさか！」

「じゃ、やってみるか？」

「え…。でも、興味はありますね」

「じゃ…」

で、恐る恐る鏡を合わせると…。

ドンッ　と音がし、紙吹雪が舞った。

そこには『はずれ』と書かれていた。

貝塚、天気雨、合わせ鏡（後書き）

合わせ鏡を見ると、色々な事が起きますよね。そして、大抵はよくないことですよ？ でも、たまにはハズレがあってもいいかな。なんて…。

リコール、遺影、流行

「あ、リコールになってる！」

「なにが？」

「ほら、前にうちで乗ってたあのスポーツカー」

「ふーん。大変そうねえ」

「そうだな。あの車、大流行したもんな」

「何がリコールになったの？」

「ブレーキだよ。ほら、場合によって止まらないことがあるって」

「あら、怖いわねえ」

「そうだよなー。俺も危つく遺影になるところだったよ」

「何言ってるのよ？ あなたは関係ないでしょ？」

「なんでだよ」

「あなた、ブレーキ踏まないじゃない」

リコール、遺影、流行（後書き）

最初は、リコールが出る前に、その不具合が原因の事故で死んでしまった、ってことにしようかと思ったんですが、それじゃオチがつかなかったので、少し変えました。ブレーキ、踏まなきゃだめですよね！

秘密基地、台風の日、校内暴力

僕は校内では有名な問題クラスだった。授業なんて誰も出ない、校内暴力は当たり前。けど、あるきっかけで一つにまとまった。

目標は『今年は台風の日で優勝する』だ。

「行くぞ」

「おお」

そんな風に声を掛け合うと、みんなで秘密基地に移動する。ちよつと大げさだけど、他のクラスに練習の秘密を漏らしたくない。

え？　そもそものきっかけは何かって？

となりのクラスの子が言ってたんだ。

「台風の日、速いのカッコいいよね」って。

秘密基地、台風の日、校内暴力（後書き）

頑張るためには目標、そして理由が必要ですよね？ 理由って、つまらないと言われるようなことの方が本人にとっては大事だったりするかな、なんて。

葡萄、パフェ、鞆

「うーん。美味！ やっぱりパフェはいいわね！」

私はパフェが好き。 もう、一日三食、全部パフェにしたい。そして、もう一つ好きなものが葡萄。

けど、ナゼか葡萄のパフェはない。 それはずっと不満だった。なので、私は極秘計画を練り上げた。

まず、喫茶店でバイトを始めた。
周囲を窺うと鞆から葡萄を取り出し、パフェに乗せた。
「完璧！」

けど、重大な見落としがあった。

「お待たせいたしました」

しまった！ 私自身は食べられない！

葡萄、パフェ、鞆（後書き）

彼女は自分で葡萄パフェを食べたかったのに……。なんて間抜けな極秘計画でしょう。それにしてもパフェと言えばイチゴ？ 葡萄
ってみないですね？

瓦、植民地、沈丁花

この国は侵略され、植民地となった。

精一杯抵抗した結果、出来たのがこの廃墟だ。

悔しいが、今、我々には奴らを追い出すだけの力はない。

心を引き裂かれながらも、住み慣れた町を出るところだ。

そんな時、視界の端に何かが映った。

そこには一枚の瓦。

となりに生えていたのは沈丁花。

ふと思い出した。

「花言葉を知ってるか？」

誰も答えなかった。誰もが疲れ切っていた…。

「花言葉は、不滅だよ」

皆の瞳に、少し力が戻った様だった。

瓦、植民地、沈丁花（後書き）

悔しいけど、地下に潜って力を蓄えよう、そう誓っての脱出。いずれ必ず帰って来る。その時は、侵略者を追い出すとき。心の力が萎えそうになっているときって、占いか、ジंकウスとかを気にしますよね。そして、そんなことを心の支えに頑張るのかな？ なんてね。

チーズ鱈、師走、と

「やっぱり、柿の種でしょ！」

「そんなことないよ。一番は裂きイカで決まりだね！」

私たちは、またつまらないことで言い争っていた。

つまり、おつまみに一番いいのは何か？ ってことだった。

「チーズ鱈も捨て難いかしらね？」

「あ、それは言えるね。とするとサラミソーセージもいいねえ」

「師走も終わりって言うのに、私たち何やってるのかしら？」

「まあ、おつまみもいいけど、それと……」

「と？」

「君が居ないと、ね？」

「もう！」

チーズ鱈、師走、と（後書き）

ま、まあ、言い争っても仲のいい二人ってことで…。突然の言葉に、
きつと彼女は真っ赤になったに違いありません。いいなあ。ナンチ
ヤッテ。

ジレンマ、筋肉質、ハーゲンダッツ

今、俺は深く悩んでる。

これこそジレンマだ。

「さっきからどうしたんだ？」

となりで見ていた友達が、とうとう訊いてきた。

「彼女のくれたアイス、食べるかどうか考えてる」

「ああ…、その筋肉質な体でアイスなんて、かつこ悪いもんな」

「いや、それはいいけど。　アイスが好きだし」

「じゃ、食べれば？」

「でも、一日一個にしてるんだ」

「それで？」

「これハーゲンダッツなんだ」

「美味そうじゃん」

「俺は百円のカップがいいんだ！」

ジレンマ、筋肉質、ハーゲンダッツ（後書き）

彼女のくれたアイス、食べたいけど自分の好きなのとちょっと違う。
で、食べようかどうか『脂汗を浮かべて悩んでる』なんて、ちよつ
と変かなあ？ 普通なら「ありがとー」ってこだわり無く食べちゃ
いそうですよね？

コンタクトレンズ、祝杯、命名

パリン…

そんな音が聞こえ、そつと足を上げると、そこには透明な破片があった。

気が付くと僕の足元には女性がいた。

恐る恐る、その破片の正体を確認した。

「あの…、コンタクトレンズ？」

「はい…」

彼女は困り果てていたけど、僕は祝杯を挙げたい気分だった。

だって、彼女に一目惚れだったから。

その後、僕たちは付き合い始めた。

そんな僕が命名されたのはメガネ属性だ。

どうしてって、あの日以来、彼女はずっとメガネだったから。

コンタクトレンズ、祝杯、命名（後書き）

命名を何にしようかなあ、と悩みました。最初、コンタクトレンズもどしようか決まらなかったんですけど、書き出してみたら、いきなり踏みつけて割ってしまいました…。

ロシアンティー、水滴、北陸

北陸は冬真っ盛りだ。

先ほど窓枠に付いた水滴はもう凍ってる。窓の外が猛烈に寒い証拠だ。

だが、僕の心は暖かな幸せで満たされている。

どうしてって？ だって、僕は新婚なんだ。

大好きな彼女と二人で、暖かい紅茶を飲むなんて最高に幸せだ。
「どうぞ」

けど出された紅茶を飲んだ瞬間、跳びあがってしまった。

「うわ！ 何これ！」

「うふ。ロシアンティーじゃなくて、ロシアンルーレットティー
よ？」

この悪戯好きは何とかして欲しい…。

ロシアンティー、水滴、北陸（後書き）

まあ、結局じゃれてるだけかも知れません。彼女、どんな紅茶を持ってきたんでしょう？それとも、ロシアンルーレット、というからには、目の前にカップが二つ置かれていて、何気なくとってしまっただけ、もう一方なら、普通のおいしい紅茶だったのかもしれないね！

ミカエル、情報封鎖、旅籠

今日は、神様がお忍びで街に降りる日だ。

お忍びのはずだが、大抵皆知っている。

神様も少しくらいは気にしない。

さっきサインを求められたミカエル様はアイドル気分で上機嫌だった。

だが、今夜の会合は全く違う。

旅籠を借り切って行われる秘密会合だ。

その内容は超極秘で、徹底的に情報封鎖が行われている。

そこで何が行われてるかって？

それは言えないな…。

それは神様の忘年会で、ぐだぐだのオヤジ集団と化してるなんてことは…。

ミカエル、情報封鎖、旅籠（後書き）

神様の年に一度の憂さ晴らしですね。ぐだぐだの酔っ払いと化している神様。でも、酔っ払いの神様って、特にイメージから外れないなあ…。ま、イメージダウンを避けたい神様たちのお話、ということとで。

台風の日、メッセージ、年貢

今、僕たちは重大な対立に陥っていた。

「手向けのメッセージよ」

「何？」

「今のうちに、この台風の目の様な束の間の休息を、せいぜい楽しむがいいわ」

「言ってくれるじゃないか」

「最終的には私の勝ち揺るがないもの」

「お前こそ今度は年貢の納め時だぜ」

「ふふ。戯言は勝ってから聞いわ、行くわよ」

「ジャンケン、ポン！」

「うわあ！」

「ほら。じゃ、今日は燃えるゴミの日よ？ 間違えないでね」

我が家のゴミ当番は、今日も僕だ。

台風の日、メッセージ、年貢（後書き）

まあ、休日じゃなければ、ジャンケンするまでもないんでしょうけど。休日は、ねえ？

剣士、演目、マルチ商法

僕は剣士だ。　だが、生活の為には色んな事をする。

「さあさあ見てらっしゃい。今日の演目は燕返しだよ」
そう言い技を披露すると、集まった群集から歓声が沸いた。

「この刀なら誰でも出来ますよ」

そう言いながら並べた刀を指差す。

刀に興味を示したら関連商品も売り込むぞ。
マルチ商法だねって？　違うさ。

「この刀、幾らだい？」
ほら、早速お客さんだ。

「この刀セット、誰かに売れば売り上げの二割を、さらに…」
ねずみ講もセットだ。

剣士、演目、マルチ商法（後書き）

貧乏なお侍さんは、傘貼りの内職と相場は決まっているのかな？
傘もセットで売ってたりして？ でも、燕返しってなんだっけ？
とっさに出てきたけど…。

甲子園、ロリコン、パンジー

僕はロリコンだと言われている。
でも、実は違うんだ。

確かに小さな女の子がいると、つい見てしまう。
だってさ、やっぱり可愛いでしょ？ そのくらいは判って欲しい
な。

大体、小さな女の子を見てる人間が全員ロリコンかっていうと、
違うでしょ？

そう。例えば、甲子園を目指す球児が全員爽やかな少年かって
いうと違うでしょ？
それと一緒にだよ。

僕はロリコンなんかじゃない。

けど、可愛いパンジー模様のスカートを履いてる。

単なる変態だ。

甲子園、ロリコン、パンジー（後書き）

パンジー、どうしようと思いましたけど、パンジー模様のスカートという事にしました。下着にしようかとも思ってたんですけど、スカートでいいかあ、その方が見た目にも判りやすいもんね。と思いました。

コンビニ、肩叩き、ハンモック

「ふああ…」

思わずあくびが出た。

あまりに陽気がいい日の午後、食事の後に、意識を保つのは難しい。

それに、ちょっと暇なコンビニの店番なんて、人間なら誰だって気絶するに決まってる。

当然、人間である僕は、まるでハンモックに揺られる気分で熟睡中だ。

けど、そんな時にこそやってくる無粋な客つてのもいる。
だからって、目を覚ますのは不可能だけどね。

突然、肩叩きにあつた。

「おまえ、クビ」

客じゃなくて店長だったのか…。

コンビニ、肩叩き、ハンモック（後書き）

あはは。居眠りの店番ではクビになるかもしれませんね。でも、彼
じゃなくても、季節を問わず、お昼ご飯のあとは気絶しますよね？
ね？ ……そうだと言って…。

亀、詐欺師、花道

亀と呼ばれて三十年。勤め上げた警察官。

地域に密着した警察。その思いを胸に職務に励んできた。
派手な立ち回りを演じたことはない。

あれだって本当に偶然だ。

あの時、あいつは拳動不審だった。何かおかしいと感じたんだ。
だから職務質問をした。

まさか、最近話題の国際的な詐欺師だとは思わなかった。

いい花道を飾りましたね、同僚にはそう言われる。

だが、そんな花道より、地域に密着した「おまわりさん」だった
ことを誇りたい。

亀、詐欺師、花道（後書き）

交番のおまわりさん、もっと親しまれてもいい存在ですね。そんな人たちであってほしい、それはお互いの努力が必要なのかもしれませんね。なんて、ちょっと感傷的になってるかもしれませんが、でも、日本の交番制度、いいことだと思っています。

仕草、子守、同級生

高校の同級生と待ち合わせるのは久しぶりだ。

「待った？」

「いや、今来たところさ」

髪をかき上げる仕草は変わらない。

「懐かしいわね。ここ」

そう。あの頃もデートで使った場所だ。

「ね、覚えてる？ 約束」

「約束？」

「そ。お互いに子供が出来たら、子守するって約束」

「え！ 子供いるのか？」

「いないわ？ じゃ、次の約束は？」

「え……」

その次の約束。それは、十年経っても、どちらも独身の時は…。

その約束は、まだ有効なのだろうか？

仕草、子守、同級生（後書き）

十年目シリーズじゃないですけど、久しぶりに会った恋人たちです。
いきなり、じゃないんでしょうけど、また付き合いたい、そう思ったから「あの頃『も』デートで…」です。　けど、それにしても、
ちよつと子守が強引だったかなあ？

スプレー、通信簿、鉄筋コンクリート

「はあ」

思わず、鉄筋コンクリートの塊の脇でため息を吐いた。
目の前の灰色の壁を見ていると悲しくなる。

もう通信簿なんか気にしないでいいはずだった。

なのに、こんなことに点数を付けるなんて思わなかった。

けど、俺の思いなんか関係無い様だ。

「後はおまえだけだ。早くかけ」

仕方なくスプレー缶を構え、思いっきり壁に吹き付けた。

『海援隊 見参！ 夜露死苦！』

「二十点。 独創性に欠ける、やり直せ」

最近壁の落書きも大変だ…。

スプレー、通信簿、鉄筋コンクリート（後書き）

道路をくぐるトンネルの壁、ビルの壁、そんな所にスプレーで落書きをする人たち。自分達の存在を、より美しく、鮮烈にアピールする為に、より優れた落書きを出来る人間だけに落書きを許すことにした、ある若者集団のお話？（あはは、意味不明ですね…）

喀血、選挙、校門

足が重い。

校門を前に、引き返したい衝動に襲われるが、そうもいかない。今日は生徒会の選挙で、僕が会長に立候補してるんだから。けど、どうしてこんな事を始めてしまったのだろうか？

止めてしまいたい。

いつそ結核になって、喀血でもすれば休めるだろうか？

憂鬱だ…。

その時、となりを歩いていた幼馴染が言った。
「頑張ろっね！」

その笑顔を見ると、何故か気力が湧いてきた。

そうだ。僕が始めたことなんだ。

そう思うと前を向いた。

喀血、選挙、校門（後書き）

何か思うところがあつて、生徒会長に立候補した彼。けど、疲れてしまった。そんな時、となりで元氣よく励ましてくれる存在に改めて気付いた瞬間。きつと一緒に苦労しているはずなのに、まだまだ挫けてない。なら、自分も挫けるわけにはいかない。まだ頑張れる。って感じでしょうか？　なんてね。

トリアージ、婦人科、キムチチゲ

一目見た瞬間、僕は頭を抱えた。

「ほらほら、私のタグは真っ赤よ？」

彼女の付けてるトリアージ・タグは確かに赤かった。

が、問題は彼女の顔の方がよっぽど真っ赤だったことだ。

「熱々のキムチチゲで一杯いきましょー！」

「何やってるんだ！　ここは婦人科で病院だ！」

「いいじゃない。はい、あーん」

彼女が笑顔でスプーンを差し出した。

う。　この笑顔に弱いんだ…。

けど次の瞬間、僕は跳び上がった。

「あちー！！！」

僕は超猫舌だった。

トリアージ、婦人科、キムチチゲ（後書き）

トリアージ、二回目です。どうしようかと思いました。赤色のタグは、すぐに処置しないと命の危険がある、ってことです。（本物ならね）

現実、歯槽膿漏、タイムカプセル

いくら年月が経ったからって、こんなことが現実になるとは考えなかった。

え？歯槽膿漏かって？ いや、歯茎はしっかりしてる。

それにしても耐え難い…。 毎日が苦痛だ。

だが、もう少しだ。

もう少しで中学の時に埋めたタイムカプセルが開く。

そうすれば…、 あれが出てくれば、俺はきつと救われる。

今、その中身が現れた。

『千年経っても大好きだ』

「ばかね。 口で言ってよ」

良かった。妻が苦笑している。

今回の夫婦喧嘩はつらかった…。

現実、歯槽膿漏、タイムカプセル（後書き）

ねえ、本当なら、こういうことはきちんと口で言っただけで済みますよ
ね？ でも、どこかでボタンを掛け違えてしまうと、元に戻すのつ
て結構苦労しますよね？ きっと脇から見るとバカみたいってこ
ともかもしれませんけどね。

リラックマ、チケット、雪女

今週は、近くのコンビニで年末福引セールだ。

買い物をするチケットが貰えて、それでくじを引けるって訳だ。毎年、この福引は楽しみだ。

と、鐘の音がした。誰かが何かを当てた様だ。

「おめでとございます！ リラックマのぬいぐるみです！」

日焼けセットとか当たらないかな……。ぼんやりとそんなことを思った。

そして僕の番になった。

突然、一際大きな鐘の音が…。

「特賞です！ 美白セット『雪女』、一年分です！」

それ要らない…。

リラックマ、チケット、雪女（後書き）

雪女とリラックマ、どう使っただろう…。それにチケット？ 訳が判らなくなって、結局、福引の景品にしまいました。けどリラックマ、ゆるキャラっていうんでしょうか、可愛いですよ。

圧縮応力、メダカ、ギア

悪友が、また何かを発明した様だった。

「で、何を発明したんだい？」

「圧縮応力を使って、大きなものを小さくするんだ。いは、このギアで操作する」

圧縮の度合

「それで？」

「見てくれ、これは何だと思う？」

「メダカじゃないのか？」

「実はマグロなのさ」

「え？　すごいじゃないか！」

本当にすごいと思った。　けど…。

「唯一の欠点は…」

「見た目だけじゃ無くて、味もメダカなんだ…」

すごすぎて、結局役に立たないのは相変わらずだ。

圧縮応力、メダカ、ギア（後書き）

圧縮応力ってなんだろう？ 良くわからないから、それで大きなものを小さく出来る事しよう！そう決めました。それにしても、どうして「味」？ 単なる食いしん坊でしょうか？

姉、一番手、関サバ

大晦日、今年も、両親と姉の一家が住む実家に帰省した。

「さあ、ゆっくりしてね。まずはビールでも飲む？」

到着時の言葉はいつも通り。

夕飯には、私の大好きな関サバのお刺身も用意されていた。

「あんた、好きだもんね」

「うん」

夕飯が終わると、今年も子供たちが上目遣いに私たちを見る。

けど、チャンネル争いの一番手は譲れない。

「紅白ね？」と私たち。

「ドラえもん！」と子供たち。

思わず、姉妹の声が揃った。

「あり得ない！」

姉、一番手、関サバ（後書き）

あはは。自分の子供たちとチャンネル争いをする姉妹でした。でも、大晦日はやっぱり紅白ですよー？

用心棒、祇園、ソフトバンク

祇園の町では、戦いが繰り広げられている。

「iPhoneならソフトバンク!」

「Skypeが使えるのはau!」

「大画面なのはドコモですえ〜!」

皆、すごい勢いだ。

用心棒でも雇わないと、中に入るのが怖いくらいだ。

最近はスマートフォンが流行で、最新機種が目白押しだ。

「楽にチャット!」

「3Dです!」

「なんだか、すごそうだけど…。でも、私がほしいのはあの…。どうやって、電話するんでしょう?」

「え! 電話するの!」

用心棒、祇園、ソフトバンク（後書き）

ねー。最近のスマートフォン、凄いいんだけど、ふと電話というか、これまでの携帯にならあったものをちょっと捨ててるかなあ、なんて…。実は、面白がって買ったのはいいんですけど、片手では使えなくて、すごく困ってます…。

幻、欲張り、乗り換え

「今、こちらの契約に乗り換えて頂きますと、大変お得です」

テレビはどうせ地デジに替えるんだし、インターネットだってすぐに光にする。それに電話をくつつけるだけなんだ。

決して欲張りなんかじゃないんだ。

それで終われば、そうだったのだろう。

けど、それじゃ終わらなかった。

「じゃ、テレビも大きくしなきゃ、ブルーレイも要るわね、パソコンも…」

欲望は限りなく、私の貯金は幻と消えた。

「しまった！ 私の結婚式代がない！」

幻、欲張り、乗り換え（後書き）

合わせるとトクダ！　なんて、必要ないなら、あわせなくてもいいんですよね…。

芝居小屋、桜貝、急ぎ足

芝居小屋で見かけた彼女、桜貝の髪飾りが似合ってる。
昨日も居たけど、今日も居る。

芝居が終わった後、思わず後をつけてしまった。

見つかったら、どう言い訳する？
けど、止められない。

彼女が急に角を曲がった。

後を追い、急ぎ足でその角を曲がった。

と、目の前で彼女が僕を見詰めてた。 観念して謝った。
「後をつけたりして、ごめん」

けど、頬を染めた彼女の答えは…。
「昨日は、私があなたの後をつけてたの、気が付かなかった？」

芝居小屋、桜貝、急ぎ足（後書き）

うつかりするとストーカですね。でも、気になる人のあとを追いかける程度なら、昔は割と普通のことだった様な気がしますねえ…。嫌がられたら、止めなきゃだめですけどね。

バンダナ、俺、おばさん

「趣味悪いんじゃない？」

「そんなこと無いわよ。これ、すごくいけてるわ」

俺が何を言っても、彼女は自分の意見を曲げようとはしない。

「そのバンダナ、もうちょっと色が濃いほうが落ち着くと思うけどな」

「明るい色は元気があっていいでしょ？」

「そのスカート、ちょっと派手過ぎだよ」

「可愛いでしょ」

ホント、人の言うことなんてまるで聞いてない。

ボソツと言ってみる。

「おばさんのくせに…」

「なんですって？」

あ、聞いてた。

バンダナ、俺、おばさん（後書き）

結局はじゃれてるだけなんでしょうねえ。何にしても、悪口にはものすごい勢いで反応しますよね？ どうしてでしょうねえ…。

幕府、ワイングラス、剥きエビ

最近、街のグルメのお気に入りにはフランス料理だ。
幕府の役人もかなりやって来るらしい。

前菜が終わると、その日のメイン料理だ。

今日のメインは滑らかな生地に柔らかな細切りキャベツを和え、そこに薄切り肉と剥きエビをトッピングして焼いたパイの様なものだ。

「こちらのソースでお召し上がりください」

鷹揚に頷き、磨き上げたワイングラスにワインが注がれる頃、満足の頂点だ。

窓から料理を見た町人が一言。
「お好み焼きじゃん」

幕府、ワイングラス、剥きエビ（後書き）

幕府が苦しいかも…。 けど、お好み焼きってパイの類でしょうか？ うーん。ゼンゼン違うような気がしますね…。
何にしても、メリークリスマス！ イブですけどね。

ミニスカサント、鉄人、星の雫

今年もクリスマス恒例のカラオケ大会が開催された。

優勝者には鉄人の称号が与えられる。

この大会のルールは『一曲歌うと一杯飲む』。

出るのは、幻の銘酒『星の雫』、さっぱりした辛口で抜群の味だ。

その為か、飲んで歌って、結局はただの大宴会だ。

日が変わる頃、ミニスカサントのお父さんが乱入するのはお約束だ。

夜が明け、最後まで歌っていた優勝者は、お店の人に平謝りだ。
だからこそ鉄人だ。

さあ、来年の会場はどこにしよう？

ミンスカサント、鉄人、星の雫（後書き）

日下部さんから頂いたお題です。ラストがちょっと切れが甘いかなあ、この鉄人は、きっと日下部さんですね。

ミニスカサント、鉄人、星の雫 その二

その昔、ミニスカサントをしたことがあった。

誰もが「女だったんだ」と失礼なことを言った。

ウワバミで、鉄人と呼ばれ、私自身仕方ないと思ってたけど…。

でも、一つだけ熱い視線があった。

一度気付くと、その視線はいつも熱かった。

彼と話す様になると、女である事を意識し始めた。

次第に、それが私の幸せになっていった。

その彼と、今日一生を誓った。

星の雫の様な雪が緩やかに舞い、星空までも私たちを祝福している様に感じた。

ミスカサント、鉄人、星の雫 その二（後書き）

クリスマスだし、やっぱり甘めのお話を……。と思って、何とか作ってみました。星の雫、がちよつとはまりが悪いかな……。ちよつと文章が繋がってないなあ、と思って、編集しなおしました。

肉まん、氷砂糖、デジャ・ヴ

どこで見たんだろう…。

全く同じものを、どこかで見た覚えがある。

単なるデジャ・ヴなんだろうか？

だが、それにしてもやけにリアルな記憶の様な気がする。

それは、僕の好きな肉まんの様に見えた。

いや、肉まんだと信じていた。

けど、確かに肉の味もしたけど…。

何か不思議な味が混じっていた。

その時、目の前の妻が自信一杯に言い切った。

「やっぱり、肉まんには氷砂糖よね！」

やはり、前にも同じものを食べたことがあったんだ…。

肉まん、氷砂糖、デジャ・ヴ（後書き）

うははは。こんなデジャ・ヴいやだなあ、氷砂糖入りの肉まん…。
一体、どんな味でしょうね？

たい焼き、ねむい、貧乳

ねむい…。

ねむい、というより、眠っていたい…。

昨日のことを現実とは思いたくない。

どうしよう…。

でも、お腹がすくのは避けられないし…。

部屋の隅の、たい焼きの山を見て、嫌な記憶が呼び起こされた。そう。あれはその賞品のたい焼き一年分だ…。

何かって？

とあるイベントに行つて、そこでコンテストに出場させられて…。

優勝してしまったんだ。

貧乳コンテストに。

僕、実は男なんだけど、誰も気が付かなかった…。 ショックだ。

たい焼き、ねむい、貧乳（後書き）

あはは。訳の判らないものは賞品として誤魔化す、それが私のパターンになってしまったみたいです…。

じゃんけん、操作手順、年末調整

「そろそろ年末調整しなきゃ」

「でも、面倒くさいなあ」

「どっちがやるのか、じゃんけんで決めましょ？」

「いいよ！」

「「じゃんけん、ぽん！」」

「えー、私？」

「まあまあ、最近はネットで出来るから簡単だよ」

「どうやるの？」

「まずはここをクリック、で、右にスクロールして、それから…」

「わかんない！ もう、操作手順、初めから書いてよ！」

「え？ 簡単じゃん！」

「わかんないもん！」

「判ったよ…、もう俺がやるよ…」

じゃんけん、操作手順、年末調整（後書き）

あはは。パソコン音痴の勝ち？ けど、年末調整パソコンから出来たっけ？ そこはちょっとイイカゲン…。

嫉妬、舞台、チーム

今日は、次の公演の配役を決めるオーディションの最終選考だ。今、主役候補で残っているのは二人だ。

私ともう一人。

その舞台に立つことを夢見て、一生懸命に練習してきた。彼女に負けないだけの練習をしてきた。その自信があった。

けど、選ばれたのは彼女だった…。

どうして彼女なの？ なぜ私じゃダメなの？

何が彼女に劣ると言うの？

嫉妬で気が狂いそうだった。

けど、監督の言葉は…。

「今度の主役は、目からチームが出せないとな」

嫉妬、舞台、ビーム（後書き）

えーと、この劇団、人間なんでしょうかねえ…。目からビームが出る人があるんですね…。（あははは。いい加減な設定ですねえ…）

敬老感謝の日、満願成就、雨やどり

自転車通学の僕は、バス停の小屋なんて入った事はなかった。けど、あの勤労感謝の日、突然の雨で仕方無しにその小屋で雨やどりをしたんだ。

その時、そこに居た彼女に恋してしまった。僕と彼女の通っていた学校は地区の中では敵同士だった。だから、最初はお互いに喧嘩が多かった。

けど、僕たちは付き合いだした。

手を握ったり言い合ったり……。それから色々在ったさ。

でも、とうとう結婚したんだ。

そう。僕の結婚は満願成就なんだ。

敬老感謝の日、満願成就、雨やどり（後書き）

バス停に小屋がある様なところって、都会ではあんまりないですよ。それに、大抵はすごく小さくて、小屋っていうより、単に待合のベンチに屋根と壁がついてる。ってだけな感じかな？ そんなところでも、出会ってあるかなあ？

オカリナ、一生、トランペット

私の父はトランペット奏者だった。

テンポの良いリズムで、活力溢れる音楽を創りあげていた。

そんな父の影響を受けたのか、私もいつしか音楽を志していた。
途中、挫折はあったけれど…。

それでも音楽が好き。その思いは揺らがなかった。

そんな私が手にした楽器はオカリナだった。

人は一生の中で、必ず傷つき弱っている時期がある。

オカリナは穏やかにそんな人の心に語りかけ、癒し暖めることができる。

それが私の音楽だと信じてる。

オカリナ、一生、トランペット（後書き）

うーん。年末ですけど、普通のお題です。お父さんの姿を見ているうちに、音楽を志すようになった彼女、お父さんの音楽とは違うけど、でも、彼女なりの音楽を作り出せるようになった。そんなつもりです。

鍋奉行、唐辛子、海賊

新年の夕食は奮発してカニ鍋だ。

当然の様に、私が鍋奉行として取り仕切るつもりだ。

けど、カニ鍋ってどんな味付けがいいのかしら。

キムチ鍋では、カニの味が死んでしまうだろう。

子供たちも、今日のメニューがカニであることは知っている。
きつと、海賊のように一気にカニを取ろうと待ち構えているに違いない。

ちょっと意地悪してやろうか。

カニの足、その中の一本に、しこたま唐辛子を入れておいた。

口から火を吹くのは誰だろう？

鍋奉行、唐辛子、海賊（後書き）

新年、いきなりの大当たりを引くのは誰でしょう？ 子供でしょう
か？ 旦那様でしょうか？ それとも自分自身？

騎士、バカ、やさしい日常

どうして俺が騎士なんかになったのかつて？
確かにお前から見ると、信じられないかな。

昔は本当にバカで、ただの腕力自慢のゴロツキだったから。

けど、守りたいものが出来たんだ。

え、女に惚れたんだろうって？

ま、ハズレじゃないな。

彼女の生み出すやさしい日常を壊したくない。

恋人かつて？

いや、向こうにとって俺は通りすがりの一人だろう。
それでも俺は彼女を守りたい。

バカだなんて？

かもしれない。でも今、俺は結構幸せだよ。

騎士、バカ、やさしい日常（後書き）

元旦なので、調子に乗って、もう二つ作ってみました。

これは診断メーカ、ラノベ出しちゃっターからのお題です。誰かのため、そんな決意をしている人が強いのかな、そんなことを思いながら書きました。そして、もちろんその想いが報われるのが一番幸せなんでしょうけど、それでも、ただひっそりと支える、そんな気持ちになっってしまう人が騎士の世界ではいたのかな、そして、そんな優しい人には、それを理解してくれる優しい人が現れるはず、そんなことも思いながら書きました。

元旦、おみくじ、図書館

今年は受験だ。

今日は元旦だけど、確か図書館は開いてるはず。

図書館の自習室なら落ち着いて集中できるだろう。

行ってみると、友達がたくさん居た。

それに、気になる彼もいた。

せっかく集中しに来たのに、気になって集中できない。

ふと、彼がやってる問題集に気が付き心臓が跳ね上がった。

それは私が本命にしてる高校のだった。

帰りがけ、神社で引いたおみくじは大吉だった。

「ガンバルゾ！」

現金な理由だけど、頑張れると思った。

元旦、おみくじ、図書館（後書き）

三つ目です。

これは、自分で勝手に作ったお題です。 ちよつと楽なお題になっちゃったかも知れませんが。 それでも、私の展開ではおみくじか図書館がつかつたかな……。 さあ、受験の人は頑張りましょうねえ、追い込みですよお。

これで、『三題嚙ざんまい』とりあえず、200話達成しました！。 次の目標はとりあえず一年間、途切れないでの掲載。 ですね。

収納庫、式典、ジャッカル

新年会では何をしようか？

去年はジャッカルのお面をつけ、半獣神のコメディで大うけだった。

だが、今年の新年会は新社長就任の式典も兼ねてるハズ。とすると、お笑いはまずいだろう。

収納庫で何か探してみようか？

が、使えそうなものどころか何もなかった。

そして、何も思いつかずに新年を迎えた俺は苦し紛れに思った。
「式典、中止にならないかな…」

当ては無かった。

が、俺の願いは叶った。

会社が倒産し、式典もなくなったのだ。

収納庫、式典、ジャッカル（後書き）

新年から、仕事がなくなっちゃったら大変ですよねえ。 苦し紛れのジャッカルですが、エジプト神話のアヌビスっていう神様が、顔がジャッカルなんだそうです。

幽霊、少女、吸血鬼

私は美少女吸血鬼。

最近、ロクな食事にありついてない。

何か、いや血が欲しいナ。

と、美男子を見つけた。

「あ！ みっけ！」

美味しそお。

お食事は見た目も重要でしょ？

私は自分で言うのも何だけど、結構カワイイ。

男なんて、ちょっと声をかければ言いなりのハズ。

「ねね。 お茶しない？」

「え？ 僕？」

思い通り路地裏に連れ込んだ。 そして…。

けど世の中、思い通りには行かない。

「僕、幽霊だから。 血はないよ」

「ハア、お腹空いた…」

幽霊、少女、吸血鬼（後書き）

美少女吸血鬼の苦労日記。なんちゃって。吸血鬼って、血液型の相性とかないんですかね？ A型の吸血鬼が、B型の血を吸いすぎると、血が固まって病気になるとか？ 襲う前に血液型を確認しないと危険？ 「あなた血液型何型？」なんて…。ちよつとマヌケな感じ。

朝霧、アメリカンフットボール、カメラマン

学生の頃、成りたかったのはアメリカンフットボールの選手。
グラウンドを自在に駆け巡り、タッチダウンを奪う。そんな姿
を夢見た。

だが、今は戦場を駆け巡るカメラマンだ。
不満がゼロって訳じゃないけど、自分の仕事に誇りを持ってるつ
もりだ。

朝霧の中、戦場に動きがあつた様だ。
霧が濃くてよく見えないが、恐ろしい勢いで何かが近付いてきて
いる。

突然、人が現われた。

「電気代、払わないと止めますよ!」

「え? ちょ! 待って!」

朝霧、アメリカンフットボール、カメラマン（後書き）

戦場カメラマンかあ…。最近、テレビでよく見かける人、どうもそのイメージに合わないんだけど…。

諸行無常、クモの巣、学校

もう、お正月は終わってしまった…。

冬休みになって、まだ二週間ほどだ。校舎にクモの巣が張ってるってことはないだろう。

だが、きっと芯から冷えてるだろうな。

学校に行くのが嫌って訳じゃないんだ。

あんなに長い夏休みでだって終わりが来た、だから冬休みなんかあつと言っ間だってことも判ってるさ。

時代は移ろうものだし…。ね？

正に諸行無常ってことだよな。

「こら！　ぶつぶつ言っでないで、早く宿題やんなさい！」

「はい…」

諸行無常、クモの巣、学校（後書き）

最初は、お年玉もつと欲しい、って話にしようかと思いましたけど、いつの間にか宿題をやってなかった！ってお話に……。ん？過去の
実話でしょって？ えーと、ノーコメントってことで！

あああああ！！ また、日を跨いでしまいましたあああ！！ ガク。

カマキリ、髯、子豚

ある時、子豚の三兄弟が喧嘩しました。

「よし、誰の家が一番丈夫か勝負だ！」

「」「おう！」「」

長男の家は藁で、カマキリにばっさりと壊されました。

次男の家は木でした。

けど、仙人の髯でぐるぐる巻きにされて、ぺしゃんこに…。

そして三男は…。

レンガを使って、とても丈夫な家を作りました。カマキリも髯も怖くありません。

けど、人間が窓からバーナーを差し込み、三匹を丸焼きにして食べてしまいました。

ごちそうさまでした。

カマキリ、~~蟬~~、子豚（後書き）

うわー、でたらめだー。むごいお話です。
ちょっとおいしそー！。

でも、子豚の丸焼き…。

紫陽花、人魚姫、童子

目の前で人魚姫がプリプリ怒ってた。

「どうしたんだい？」

「酒吞童子の奴、紫陽花なんか持ってきたのよ！ 花言葉、知ってる？ 『移り気』とか『無情』よ？」

「で？」

「アタマきたから、アザミを叩き付けてやったわ」

「その花言葉は？」

「『触れないで』よ！」

「あらら…。でも、別の花言葉もあるんだよ？」

「どんな？」

「『辛抱強い愛情』 そして『元気な女性』さ。確かに君は元気

だな」

「俺も紫陽花持ってきたんだけど…」

「え…」

紫陽花、人魚姫、童子（後書き）

うーん。かなりの苦し紛れです…。どうやって人魚姫と酒吞童子を
絡めろと！（いや、童子って言ったら酒吞童子ですよねぇ？ ね？）
おまけに紫陽花…。 むふー！。

白髪、地球儀、水槽

この海の向こうには何かがあるのだろうか？

行ってみたい。それは、物心付いた頃に抱いた夢だった。

小学生の頃、地球儀を片手に海の向こうに夢をはせていた。

けど、成長するに従って現実の生活の中に埋没していった。

頭髮に白髪が混じっていることに気が付いた時、夢を思い出した。それは、ほろ苦い思い出の様に感じた。

所詮、俺は水槽の中の魚だったのだろうか…。

だが、家族との生活を思い浮かべたとき、この上ない満足を感じた。

白髪、地球儀、水槽（後書き）

幼い頃の夢って、ふと思い出すと切なくなることもありますよね。

それでも、自分の人生を後悔してる訳じゃない。大事なものをたくさん得た。十分に満足。そんな想いを書いて見たいな、と思いました。（さすがに、これでは書ききれないですけど…）

全自動洗濯機、原稿、鋏

スランプだ！

全くアイディアが浮かばない。

脂汗をたらしながら、真っ白な紙の束を睨みつけた。

が、筆は止まったままだ。

それでも容赦なく取り立て、いや、担当者はやってくる。

仕方が無い…。

原稿を全自動洗濯機に投げ込み、スイッチを入れた。
と、同時に担当がやってきた。

「ごめん！ 原稿、完成したんだけど、間違って洗濯しちゃって…」
が、担当はにこやかに答えた。

「鋏でぎざむ手間が省けたわ。 前回で連載は終わりになったの」

全自動洗濯機、原稿、鋏（後書き）

うわー、この作家さんクビですかね！ でも、連載、突然終わると、尻切れトンボですよねぇ、そんなこと、あるのかなあ…。

アメリカ、日光江戸村、紅

俺は忍者だ。

普段は日光江戸村で仕事をしている。

あ、今、「なんだ、役者か」そう思っただろ？
違うんだな。俺は本物だ。

今、活動範囲は全世界に広がっている。
俺たちの忍び装束は紅く、とても素早い。
その世界で『紅の疾風』として有名だ。

この間のラスベガス公演、あれも隠密活動の一環だ。

アメリカのハイテクと戦ったが、残念なことに惨敗だった。
次こそは十分に研究して雪辱する。

「あ！それでスロットマシン買ったんですか？」

アメリカ、日光江戸村、紅（後書き）

結局、アメリカでは、カジノで遊んだだけなんですか？ 忍者
対007！いや、忍者対スロットマシン！ 一晩で幾ら使ったんで
しょうね？

学級委員長、桃尻、三途の川

ホームルーム。

あいつは学級委員長で、偉そうだった。
けど、馬鹿は馬鹿だった。

「じゃ、今度の学園祭は桃尻コンテストだ」

「ば、馬鹿言つてんじゃないわよ！」

「良いだろ？ 男子も参加だし」

「そう言う問題じゃないわよ！」

「良いじゃん。見せっこしようぜ？」

「あんた、一辺、死んでみる？」

「ふ。俺が三途の川を渡るときは…」

「ときは？ なによ」

「一緒に渡りませんか」

後から聞いて知ったけど、それは夫のプロポーズらしかった。

学級委員長、桃尻、三途の川（後書き）

うーん。何だか、強引過ぎて訳がわからない展開にしまいました…。

年末、定石、カジノ

出張でカジノにはまったのがギャンブル三昧の始まりだった。
まずスロットマシン、続けてカードゲームにはまった。

一応理系の端くれなんで、確率を計算したり、定石を探した。
けど、そんなことで儲け方がわかる様なら誰も破産しない訳だ。

そう。俺はとんでもない借金を背負ってしまった。
本当に酷い目にあつた。

もう賭け事はこりごりだ。

じゃ、今の趣味はつて？
それは年末ジャンボさ。

いいかい？ 宝くじには定石つてのがあつてね…。

年末、定石、カジノ（後書き）

あはは。ゼンゼンこりてない感じですね。宝くじの定石って、連番で何枚か、とバラで何枚か、ってことかなあ？ 買ったことないから、判らないけど…。

糸、ゲーム機、林檎園

「今日は遊びに行こうか」

「あら珍しい」

「え！ どこ行くの？」

「林檎園さ。 順番待ちの暇つぶしに何かもって行くといいよ」

「ふーん。 じゃ、ゲーム機持って行こうかな」

「ああ、パパは本かな？ ママは？」

「私は糸と針でも持っていこうかしら？」

「何それ」

「あなたが服をぼろぼろにするから、繕うのよ」

「で、何をするの？」

「パソコンとかインターネットだよ」

「え？ 林檎園じゃないの？」

「林檎園って名前のネットカフェだよ」

糸、ゲーム機、林檎園（後書き）

普段、休日あまり遊んでくれないお父さんが久々にどこかに行こうとします。けど、結局はパソコンでインターネット？ うーん。だめじゃん。

敗者復活、水不足、瞳

「わかったよ。そんなに言うなら何とかしよう」

「ありがとうございます！」

「その代わり敗者復活戦だぞ」

「はい！」

ふ。ちよろいもんね。瞳にちょっと涙を浮かべれば、すぐに何とかなる。

出来ることなら何だってやる。

うそ泣きだろうが、色仕掛けだろうが、いざとなったら、この体で…。

とにかく何とかするしかない…。

何がどうしたって、あの賞品は絶対に必要なんだ。

水不足にあえぐ私たちの村に、一年分のミネラルウォーターを！

敗者復活、水不足、瞳（後書き）

あはは。またやってしまいました。一年分の賞品…。けど、何の戦いでしょ？ もしかして、桃尻コンテスト？ いやいやいや…。ナンデシヨネ。

表札、ゴールド、電池

私の家はすごいのよ。

屋根も壁も、その全てが金で出来ているの。
当然、表札も金よ。

それに、すごく広いのよ？

門から玄関まで、マラソン選手で二時間ね。

途中にライオンも居るから注意が必要よ。

その代わり警備はバッチリ。

だから、門からは車よ。安全運転で二十年。当然ゴールド免許。
ここも金ね。

そして、家には懐中電灯。

え、どうしてって？

広すぎて、電気が通ってないの。

ねえ、電池もってない？ 今、ちょうど電池が切れてて…。

表札、ゴールド、電池（後書き）

あはは。意外と未開の地なんですね？ どこなんでしょう？ライオンがいて、電気が通ってないところ…。それにしても、本当にお金持ちなんでしょうか？電池もないなんて…。意味不明です…。

妖精、猫耳、賭場荒らし

どうしよう…。

昨夜の王様ゲームの結果、僕の使命は賭場荒らしだ。
全く無茶だ。

前回だって、猫耳をつけて競輪。なんて意味不明だった。

そもそも賭場ってどこだ？

「さ、行くわよ」

「え？」

見上げると、王様でもある彼女がいた。

「ほら、早く」

そして向かった場所は…。

「さ、パチンコよ」

で、始めるや否や大フィーバーだ。

「ひゃっほう！」

全く、笑顔は妖精の様だけど、店にとっては悪魔だ…。

まあ、僕は彼女が笑顔ならいいけどね。

妖精、猫耳、賭場荒らし（後書き）

あはは。結局、彼女がパチンコしたかっただけ、だったりして…。妖精がうまく使えなくて、結局いつものパターンに…。

匍匐前進、ヒント、一生

匍匐前進って言うと、地面を這うイメージがあるでしょう？でも、割と高い姿勢もあるんだよ？

「なにが言いたいのよ……」

だからね、第一匍匐だと、結構色々に見えるんだ。

「何よ……。もっとヒントを頂戴よ」

そう。昨日見えたのは、綺麗な女性だったな。

「何それ！ もう、あんたとは一生口利かない！」

あはは。まあまあ、もうちょっと聞けよ。

その女性は、すごく元気です。

僕は思ったんだ。

「な、なによ……」

君と一生一緒にいたい。ってね。

匍匐前進、ヒント、一生（後書き）

結局、二人で一緒に匍匐前進してたんですね。で、知ってました？ 匍匐前進って、第一から第五まであって、第一だと、中腰よりちょっと低い感じで、第五だと…。もう、ほとんど寝てて、どうやって進むんだろう？って感じです。一般に匍匐前進って言うて思い浮かべるのは第四匍匐ですね。あはは。マニア？ いえ、ぐぐっただけです！

頑固、引き潮、一石二鳥

引き潮の海は、私にとって遊び場であり、収穫の場でもある。あさり、しじみ、それには力二だつてとれる。

楽しいだけじゃない、味噌汁の具を買わずにすむ。

まさに一石二鳥だ。

けど、夫はそのことを認めようとしない。

「遊ぶなら、山登りでもいいじゃないか。貝なんかとって何が楽しい」

「しじみなんて、殻は食べられないし、時々砂が混じってるし」

全く、正に頑固親父そのものだ。

「だから、俺はなめこ汁が好きなの」
「え？」

頑固、引き潮 一石二鳥（後書き）

なめこ汁、いいですよねえ。でも、しじみのお味噌汁もおいしいですよね。けど、最近のうちの子供たちのヒットはカップスープです。

喪服、万年筆、冷や汗

何だろう…。目の前に喪服を着た連中がたくさん集まっている。
みんな真剣な表情だ。

何だか、まるで葬儀場だな。何かネタになるかな。
お！ いいネタ思いついた。

これは傑作だぞ。

おい。誰か万年筆貸してくれ。それに紙も！

なあ！ 誰か！ 何だよ、みんなで俺を無視して。

あれ？ あれは俺の女房じゃないか。

何してるんだ？ 何で泣いてるんだ？

何だかまるで…。

「え…」

背筋を何かが伝ったような気がした。

幽霊でも冷や汗をかくのだろうか…。

喪服、万年筆、冷や汗（後書き）

これも良くわかりません……。何だかまた、へんてこりんな、話にもなっていない様なものを作ってしまった。うひゃースランプだあ。それにしても、彼は何か未練があるんでしょうね。幽霊になってさまよってるなんて……。

尼さん、罵倒、ドクロ

今、うちのお寺では大激論の真っ最中だ。

何を？って言えば、次の法事に行くのは誰かってことだ。

法事とはとにかく、寺の外に行けば、普通のものが食べられる。
それは非常に重要だ。

精進料理ばかりでは、いつかドクロになってしまいそうだ。

けど、大人しい奴が切れると凄いつてのは本当だ。
奴が、あんな勢いで他人を罵倒するなんて…。

まあ、仕方無い。

食い物の恨みは恐ろしい。

全く、尼さんたちのダイエットには付き合いきれない…。

尼さん、罵倒、ドクロ（後書き）

むー。これは落ちてるんでしょうか？ 精進料理、うまく出来てればおいしいんでしょうけど…。何だかイメージとしては苦行ですね。

扇風機、医薬部外品、鬼

体がだるい。 風邪でも引いたのだろうか？

単なる風邪なら良いが、インフルエンザだと困るな…。

医者に診てもらおうか？

だが、近所の医者になど行ったら、鬼の霍乱だろ。なんて馬鹿にされる。

止めておこう。

それにしても、随分と熱がある気がする。 とにかく熱を冷ましたい。

冷たいものでも飲もうか。 いや、いっそアイスでも食べようか

…。

いっそクーラーを…。 と言いたいが、うちにはクーラーはない。

そして、扇風機は医薬部外品だ。

扇風機、医薬部外品、鬼（後書き）

いや、当たり前ですけど…。扇風機が医薬品だったら、クーラーは抗生物質ですね！むー。今回もイマイチ感が漂います…。スランプだぁ…。

叶わぬ恋、夜想曲、カムパネルラ

楽しい時間は、嬉しい時間も、いつかは終わる。
それは判っていたはずだった。

だが、判っているのと、実際にそうなるのでは全く違った。

そう。カムパネルラは行ってしまった。
そして私は、また一人になった。

夜想曲だって、二人で聴けば心が温かった。
でも、一人で聴くのは哀しい。

「どうして...？」

彼を求める声が零れる。 けど、誰も応えない。
つらい...。

叶わぬ恋とは思いたくない。

そう。 苦しい時間だって、いつかは終わるはず。

叶わぬ恋、夜想曲、カムパネルラ（後書き）

何だろう？ 何だか不思議なですね。 まあ、明日に向かって
ガンバロー！ってことで！

少女、メイド、死んだ世界

これまで、その場所は暗く、冷たい場所だった。
活気が無く、まさに死んだ世界だった。

このままでは、この場所がなくなってしまう。
けど、それは嫌。

そんな場所でも、少女にとっては失いがたい場所だったから。

これまでだって、色々なことを試みた。
コーヒーにおつまみを付けたりもした。
けど、名古屋じゃないせいか受けなかった。

明日から歩行者天国も再開される。
だから一大決心をした。

少女は深呼吸すると、メイド服に着替えた。

少女、メイド、死んだ世界（後書き）

ラノベだしちゃったーよりのお題です…。秋葉原のホコテン、今日（2011年1月23日）の午後から再開された様ですね。だから、って訳じゃないけど、廃れてしまった喫茶店の再起のために、メイド喫茶を始めるって、お話です！ あはは、どうでしょーねー…。

一生、干菓子、戦国武将

ちよつとパサパサした、粉っぽい和菓子を知ってる？

そう。干菓子。

口の中でゆつくりと溶け、優しく上品な甘さが広がっていく。

私はお茶請けなんかには最高だと思うけど、ちよつと人気は低いかな。

戦国武将は国を守るのに命をかけた。

彼だつて干菓子の味を守るため、そして新しい味を創り出すため、その情熱をかけてる。

その味で何百人もの人に喜びを与えるんだから、すごく素敵なことでしょ？

そんな彼と、一生を共にしたいと思う。

一生、干菓子、戦国武将（後書き）

ちよつと戦国武将が強引かなあ？ 干菓子ってあんまり人気がない
気がしますけど、お茶と一緒に食べると、結構いい感じですよ？

隣人、モアイ、合同演習

最近、町の治安が悪い。

だから町内会で防犯活動の合同演習をすることになった。

普段、あまり会うこともない隣人たちが一同に顔を合わせた。

みんなで「初めまして」なんて言い合ってる。

もう、何年も隣近所で暮らしてるはずなのに、おかしい感じがした。

何だか顔の長い男がいる。馬面っていうか、モアイみたいだ。
それにしても彼、熱心だな。誰だ？

誰に訊いても知らない。

翌日、交番の指名手配の張り紙にその男の顔が…。

誰か気付けよ。

隣人、モアイ、合同演習（後書き）

泥棒さんを交えての、ちょっと間抜けな防犯の合同演習でした。
でも、ご近所さんにも、顔を知らない人って、結構いますよねえ。
犬仲間なら知ってるけど…。なんてね。

ベランダ、怪獣、やかん

やかんをこすると何が起きると思う？

何も起きやしないって？ まあ、大抵はそうだけだね。

でも、たまにすごいことが起きるんだ。

先週、やかんをこすったら、なんだか変な男が現れたんだよ。

そいつ、陽気な酔っ払いでさ、二人でベランダで飲み明かしたんだ。

結構、楽しかったよ。

で、もう一回そいつと飲みたいなって、昨日、またやかんをこすったんだ。

そしたら、今度は現れたのが怪獣で、家は木っ端微塵だよ。

だから、今晚泊めてよ。

ペランダ、怪獣、やかん（後書き）

酔っ払いは、お酒を持って現れたのかなあ？ お酒を持ってきてくれたんなら、いいなあ。 けど、怪獣は困りますね。

おまじない、スパイ、スマレ

以前、私のお願いは、大好きな彼の好みを知ることだったけど、スパイでもない私に分かる訳が無かった。

今の私のお願いはもっと大胆だ。

彼と恋人になれますように、ってことだ。

世界おまじない振興財団。

この不思議な財団が私のお願いを叶えてくれるかもしれない。

この教団のシンボルはスマレの花で、教義は投稿することだった。

毎日、自分の想いを綴ったラブレターをポストに投稿した。

まさかそれが、妖怪のおやつとも知らずに。

おまじない、スパイ、スマイレ（後書き）

えー。文学少女ネタですね。文芸部の二人がでっち上げた怪しげな組織です。先輩のおやつを書くことに疲れた心葉くんが、樂をするために作ったのかもしれませんが。いや、だからどうしたって？ あはは。他に思いつきませんでした…。

このお題。実は「文学少女風三題嚆作成」っていうところからもらいました。アドレスは<http://www20.atpages.jp/oyatsu/>です。これからは、ここからのお題も混ぜていこうかな？と思います。

洗濯機、携帯電話、ゴルフ練習所

神の携帯電話って知ってる？

すごいんだよ、話したことが何でも実現するんだ。

どんなに練習しても上達しなかったゴルフだって、この電話で「世界で一番ゴルフをうまくして」

そう言うだけでOK。もう、ゴルフ練習所に通う必要はない。

服の洗濯だって簡単。

もちろん、洗濯機なんか必要ない。

「服を洗濯して」

これでいい。

しまった！ まだ着てたんだ！！

「今のなし！」

「違う！ 梨じゃない！」

「無しだ！」

あ…。

携帯が消えちゃった…。

洗濯機、携帯電話、ゴルフ練習所（後書き）

便利な携帯ですよ。でも何故携帯？ それは、神の洗濯機とか神のゴルフ練習所の使い道が判らなかつたからです！

リポビタンD、マリオ、門下生

ふ……。どこの門下生か知らないが、無謀な奴だ。

けど、この対戦は長引いたな。

まあ、確かに手強い相手ではあった。

少なくとも、基本的なミスは無かったし、戦略もあった様だ。

それでも、私の方が一枚上だった。

いい対戦だった。久しぶりにリポビタンDが欲しいな。

リゲインじゃない。

そう。ファイト一発ってやつ。

しかし、これもキリがないな。いくらでも亀が湧いてくる。

誰だろう、スーパーマリオブラザーズなんて考え付いたのは？

リポビタンD、マリオ、門下生（後書き）

マリオの出てくるゲームっていっぱいありますよね。でも、基本はスーパーマリオブラザーズですね！ 亀をどついで、出てきたコインを回収する。で「ポイン」って音がする…。私自身は得意じゃないですけど…。でも、流行りましたねえ…。

木の机、名湯、大学

大学生の頃は若かったと思う。
ガツガツしてた。 ゆっくり温泉に浸かるなんて考えもしなかった。

風呂、温泉、秘湯、名湯、関係なかった。
単に汗や汚れを落とす。それだけだった。

全国的に有名な名湯でバイトしていたのに、一度も浸からなかった。

木の机に酒と肴を並べて、仲間と酒を飲むのに夢中だった。

それを後悔してる訳じゃない。 いや、多少は後悔してるかな。

もう、あの名湯には入れない。
まさか、つぶれるとは思わなかった…。

木の机、名湯、大学（後書き）

うーん。何だか妙なお話ですねえ。
す。

落ちてないって感じもありま

屋上、女王、コレクション

どうして気が付いたんだろう。

でも、本当にいつの間にか、だった。

そう。気が付いたら、隣のビルの屋上には女王様がいた。
なんで女王様かって？

そんな恥ずかしいことは私の口からは言えません。
けど、あれは女王様に違いない。

彼女に傳く多くの男達が、途切れることなく屋上を訪れていた。

あのコレクション、一部を分けてもらえないかな…。

そんなことを一瞬でも考えた自分が情けなかった。

だって、あの男達、どう見ても酒に弱い。

屋上、女王、コレクション（後書き）

あはは。酒が弱い、ポイントはそこ？？　まあ、楽しく一緒にお酒が飲める相手って、いいですねー。

後輩、宅配便、卑弥呼

卑弥呼って知ってるだろ？

そう。日本最古の王朝、邪馬台国の女王だよ。
でも、判ってるのって、逆にそれだけだよな？

判らないことの方が一杯あるよね？

え？

で、この差出人が誰かって？

ああ、会社の後輩だよ。

それよりさ、全てを知ることはないよね？

多少は謎を残した方が楽しいでしょ？

卑弥呼の謎ってロマンだよな？

この宅配便の中身？

多分、この間貸した物を返してきたんだと思うよ？

差出人が女性だからって、そんな目で見るなよ！

後輩、宅配便、卑弥呼（後書き）

そんなに疑われるなんて、この人、前科があるんでしょうかね？
そんなロマンは要りませんよね。 さあ、白状しなさい！！

ウーロン茶、怪獣、またたび

最近、時として怪しげな咆哮が聞こえる様になった。
どうも山に怪獣が住み着いた様だ。

猫だったら、またたびで、何とでもなるだろう。
けど、怪獣なんてどうすればいい？

とにかく、一度様子を見に行かなきゃ。

山の中で、やっと見つけた怪獣は体操中だった。

「最近、太っちゃって…」

そう言いながら、一生懸命に汗を流してる。

あの咆哮は柔軟体操での喘ぎらしい。

その怪獣に聞かれた。

「ダイエット中なんだけど、黒ウーロン茶ない？」

ウーロン茶、怪獣、またたび（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。よく判らないうちに怪獣のダイエツトの話に…。体操もいいけど、この怪獣、何を食べてるんでしょうね…。

半熟、小学校全科、蹄鉄

蹄鉄って知ってるかい？

何も馬だけじゃないんだよ、牛の蹄にも付けたりするんだよ。

けど、どうして必要だと思う？

「いっぱい働かせるから？」

それもある。けど、それだけじゃないんだ。

まあ、知らなくても無理も無い。

小学校全科をこなしても、そんなことはやらないもんな。

あのね、飼われてる馬は、餌の栄養が偏って、蹄がちょっと弱いんだ。

固い蹄鉄を付けないと、蹄が傷ついちゃうんだ。

わかったかい？

半熟の蹄鉄がダメな訳が。

半熟、小学校全科、蹄鉄（後書き）

うーん。何だかダメダメな感じ……。半熟の蹄鉄って何？？でも、野生の馬は栄養のバランスがいいから蹄鉄が必要ないっていうのは本当の様です。

かに、お父さん、英語

「お父さん」

「ん？ なんだ？」

「英語とかに、どっちが好き？」

「は？ …それって、迷うところなのか？」

「いいじゃない、で、どっち？」

「普通、かにだろう」

「ふうん…、ファイナルアンサー？」

「なんなんだ？ かにのどこがいけないんだ？」

「別に？ 本当にいいのかなあって、思っただけよ」

「やっぱり英語！」

「ファイナルアンサー？」

「ああ、ファイナルアンサー！」

「じゃ、英語の宿題やっというてね！ 私はかに食べるから」

「え…」

かに、お父さん、英語（後書き）

文学少女風三題嚆作成から貰いました。 何だかぐだぐだです…。
最初に全部お題が出てしまって、だらだらと会話させてしまいました…。
た…。

大雪、チョコレート、春

雪はいい。 降れば降るほど、大雪になればなるほど。

そうすれば春が遠のくから。

春なんて、嫌いだ…。

そう思いながら、それでも、その日が近づくと、ときどきしてしまっ
まう。

お店には特設コーナーが作られ、女の子たちが群れを成していた。

チョコレートを渡したい。

毎年思ってる。

けど毎年、結局は渡すことが出来ずに、春になってしまっ
だから春は嫌い。 いえ、自分が嫌い。

けど…。

一步を踏み出したい。

今年こそ、春を好きになろう。

大雪、チョコレート、春（後書き）

日下部さんからのお題です。まさに、この季節のお題って感じですよ。ちょっと勇気が出せない女の子。だから、そうやって過ごしてしまつて、訪れる季節はどんよりしてる。なんとか、今年は春を好きになれるでしょうか？

辞世の句、かつあげ、おかし

駄目だ、抜け出せない…。

もう、かつあげされるのには慣れたけど、でも、楽しいことじゃないのは変わらない。

ああ、目の前のあいつは、余裕でおかしなんか食べてる。

俺は必死で場を睨むけど。 やっぱり、結局何もできない。

まあいいか…。

せめて、カッコイイ辞世の句でも残したかったけど…。
でも、何にも思いつかないな。
結局、最後の最後までしまらないな…。

ああ、結局、また同じか…。

「こら大貧民。 カード交換だぞ、早くしろ」

辞世の句、かつあげ、おかし（後書き）

辞世の句が意味不明ですねえ……。けど、大貧民、一度落ちるとなかなかな抜け出せませんよね。

鉛筆、墨汁、パソコン

その昔は墨汁すらなくて、墨を磨って、そして筆で書いたんだよね。

それでも、様々な名作が残ってる。
書き残したことそのものが偉業だよ。

それに比べれば、鉛筆は何百倍も楽だよ。
書き間違えても、消しゴムがある。

そのくらいにしておけば良かったんだと思う。

パソコンで、ワープロを使うようになって、すごく便利になった。
キーボードにも慣れた。これはいい！ そう思ったよ。

でも、まさかパソコンが壊れるとは思わなかった…。

鉛筆、墨汁、パソコン（後書き）

文学少女風三題嚥作成から貰ったお題です。文学少女にしてみれば、パソコンの画面に書かれても、食べられないから意味がないでしょうね。それにしてもパソコン、壊れると大変です。まず書けないし、そのハードディスクに保存してあると、うっかりすると無くなっちゃうかもしれないし。私は、メモリカードとか、ノートパソコンに時々コピーしてます。

けど、それより最近情けないのは、「これはいい！」って思いついて、パソコンに向かったとき、パソコンが立ち上がったところには、何を思いついたのか忘れてしまうことがあることです…。そこ、ボケっていうなあ。

隅、スパナ、きくらげ

突然、怪しげなものが送られてきた。

『神のきくらげ：食べれば神になれます』

そんなもの、普通は受け取らないだろう。

配達人をスパナで殴るかもしれない。

え？ なぜスパナかって？ 僕がたまたま持ってたからだけど。

でも、僕は受け取ってしまった。

だって食べたかった。

さっそく部屋の隅からコンロを取り出して調理した。

けど、かぶりついた時、死ぬかと思った。

く、腐ってる…。

確かに、これを食べて生き残れたら神かもしれない…。

隅、スパナ、きくらげ（後書き）

スパナがいい加減な使い方ですね…。 スパナ同好会、スパナ一年分…。 よくわからないですね…。 けど、このきくらげどんな味なのかなあ？

洗濯機、温泉、ぶらんこ

この温泉にやってきて何日目だろう。

着替えがなくなったので、洗濯することにした。

洗濯機が動いている間、街に出た。

この街に来た理由？

進まない原稿を進めるため、ってことになってる。

けど本当は違う。

以前、僕はこの街に住んだ。

そして、他愛もない約束をした。

そう、このぶらんこに乗りながら約束したんだ。

二十年後もここで会おうねって。

ずっと一緒だと信じてたから…、想いは本気だった。

けど…。

今日がその二十年目だ。

洗濯機、温泉、ぶらんこ（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。僕は作家さんですね。生まれ故郷に戻って、くるかどうか分からない人を待っている。最後の約束は馬鹿みたいな約束だったから、けど、本気の約束だった。さあ、相手は来るのでしょうか？ それは210文字目で！なんちゃって…。

かりんとう、鼻歌、テトリス

テトリスって知ってるだろ？

そう。色んな形のブロックを整列させるやつ。

横一列に揃った列は消える。

けど、ブロックを消せずに、ある限界を超えるとゲームオーバーだ。

実に単純なゲームだ。

けど、奥が深い。鼻歌交じりで出来るようなゲームじゃない。

はまってくると、一日中テトリスが頭から離れない。

おやつを見ても、かりんとうがああの細長いブロックに見えてくる。

そうなるとかなりヤバイ。

あ、さらにヤバイ。

「こら！ 仕事しろ！」

かりんとう、鼻歌、テトリス（後書き）

あはは。 仕事しないでテトリスやってたらダメですね。それはヤバイですね。

物干し竿、推理、ぶらんこ

洗濯物が物干し竿で揺れている。

そろそろ取り込んだ方がいいかしら？

ふと、揺れる洗濯物を見ていて、遙かな思い出が甦った。

この家からも近い公園。あの公園のぶらんこでした約束…。

他愛もない、大切な、けど叶えることなど出来そうにない約束。

それももう、二十年も前のことだ。

その時、家の前を公園の方に向かう男性の後姿を見つけた。

まさか……。

そんな都合の良い推理が当たる訳がない。

けど、次の瞬間、私は走り出していた。

物干し竿、推理、ぶらんこ（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。気が付かれたかもしれませんが、ぶらんこつながりです。やっぱり、人の諦めない気持ち^が運命を作る。それが、私のテーマですから！

物干し竿、推理、ぶらんこ その二

物干し台から少し離れた場所に、折れた物干し竿と夫がいた。

物干し竿には、紐をかけたあとがあり、そして夫はひどく恐縮していた。

まったく、何度やっても懲りないらしい。

周囲を見回すと、案の定、板も見つかった。
推理するまでもない。

そう。「また」物干し竿に紐をかけて、ぶらんこをしたんだ。
もう何度、物干し竿を壊しただろう。

「このぶらんこで妻と出会ったんだ」

他のことは全て忘れたくせに、それだけは忘れないらしい…。

物干し竿、推理、ぶらんこ その二（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。もう一個作ってしまいました。（っていうか、実はこちらの方が先に作ったんですけど）ちょっと変なラストですね。敢えて伏せてますけど、夫は認知症になってしまった、という設定です。ちょっと重いですが、別にこれはぶらんこシリーズ（って勝手に決めてる？）ではないつもりですけど…。

作成、銀河系、ミイラ

銀河系は広い。 とてつもなく広い。

ある日、それは空から降ってきた。

中身は大量の包帯だった。

同封の説明書によると、それは『魔法のミイラ作成キット』らしい。

試しに、近所の憎たらしいネコをミイラにしたみた。

何故かミイラにした途端すごく懐かれた。

魔法って、もしかして…？

翌日、僕は憧れの彼女を探していた。

けど、全然見当たらない。

諦めかけたその時。

「ねえ」

振り向くと、彼女が『ミイラ作成キット』を持って笑ってた。

作成、銀河系、ミイラ（後書き）

惚れミイラ?? なにそれ…。世界中にこの作成キットが降り注いだら、世界中がラブラブミイラに！ けど、なんだか変な感じい。（あたりまえですねー）

緑のカーテン、馬、パソコン

最近、うちのトマトを勝手に食べちゃう人がいるみたい。
せっかく育てた緑のカーテンが穴だらけになっちゃって、すごく
悔しい。

だから、トマト泥棒を捕まえたいの。

けど、警備会社に頼むのは大げさだし、出来れば、あなたが見張
っていてくれるのが手っ取り早いんだけど…。

まあ、別の方法をパソコンで調べてくれてもいいのよ？

けど…。

結局、あなたが作ってくれた仕掛けは役に立たなかったわね。

トマトを食べてたのは馬だったから。

緑のカーテン、馬、パソコン（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。窓際でいろいろ栽培すると、それがカーテンみたいになるのを「緑のカーテン」って言っらしいです。けど、馬が食べに来るようなところって、どこだろう？ ダッシュユ村？？

ふくらはぎ、渴望、ヒトデ

ヒトデは知ってるよね？

あの星型の生き物さ。

で、ヒトデって何に使えるか知ってるかい？

知らない？ そうだろうね。確かに、使い道はほとんどないね。サンゴ礁に打撃を与えたりするから、大量発生すると駆除しちゃうしね。

でも、僕はヒトデから薬を作れないか研究してるんだ。誰もが渴望するような、そんないい薬を作ってみせる。

だから…。

ねえ、このふくらはぎにくっついたヒトデを取ってくれないか？

僕、怖くて触れないんだよ…。

ふくらはぎ、渴望、ヒトデ（後書き）

ヒトデを研究してるのに、ヒトデに怖くて、もしかして気持ち悪くて？ 触れないなんて、ダメですね。でも、気持ちはわかるなあ…。けど、本当に何かに使えないか、使える薬が作れないか、研究がされてるっていうのは本当みたいです。

ふくらはぎ、渴望、ヒトデ その二

「んひゃう！」

こら！ 変態！ 勝手にふくらはぎにさわらないで！

な、なによ。そんなに悲しそうな顔して、どうかしたの？
え？ チョコが欲しいの？

ふん！

どうせ、他の女の子からたくさんもらったんでしょ？ 私のな
んか要らないでしょ！

やめてったら…。そんなに渴望するような目で見ないでよ。

しょ、しょうがないなあ…。

じゃあ、このヒトデ型のチョコでいい？

え？ なんでヒトデかって？

お星様のつもりで失敗しただけよ！
追求しないで！

ふくらはぎ、渴望、ヒトデ その二（後書き）

うーん。バレンタインだし、強引にチョコの話題に…。お星様のつもりが、失敗して、ヒトデの形に…。つまり、最初っから、彼に上げるためのチョコを作ってたってことですね！

うーん。さすがにこれはどのお題も無理矢理すぎるかも…。

スケジュール帳、将棋、味噌

皆はスケジュール帳って持つてるかい？
もちろん僕は持つてるよ。

スケジュールは大事だからね。
僕のスケジュールの大半は将棋の対戦だ。
棋士だからね。 これでも、一応プロ

ほら、こんなにびっしり。

あ！ 大変だ。 今日も対戦が入ってた。
危うく忘れるところだった。

不戦敗で、対戦成績に味噌が付くところだった。

でも、ほらね？ スケジュール帳に書いておけば大丈夫だろう？

問題は、どのスケジュール帳に書いたのか、忘れちゃうことだね。

スケジュール帳、将棋、味噌（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 予定がたくさんあつて、きっとスケジュール帳をたくさん持つてるんでしょうね。 そんなにいっぱい予定、大変ですね。 スケジュール帳に書ききれないほどの予定。 どうやってこなすんでしょうね？

株主総会、液体窒素、寮

今、僕は会社の寮に入っている。寮には仲間がたくさんいるんだ。

そして、同じ趣味の人が結構多いんだ。だから同好会も作った。でも、社内には対立するグループがいるから気をつけないとね。

会社で親しそうに声をかけてくる人間は、半分くらいは対立グループのメンバーだ。
油断していると拉致されてしまう。

え、僕の趣味？　僕たちは液体窒素同好会さ。

けど、驚いたのは株主だね。

株主総会のメンバーは、全員が液体酸素同好会なんだよ？

株主総会、液体窒素、寮（後書き）

うーん。意味不明…。液体窒素と液体酸素、その同好会の対立…。それにしても、趣味が液体窒素って、意味わかんない…。

くつ下、ボス、五十音

うちのボスはきれい好きだ。

どんなものでも、きちんと整理する。

家でも同じらしい。

だから、奥さんは掃除にとっても気を使うって聞いた。

そして、災難は子供たちだ。

外から帰ってきて、ちょっとその辺にくつ下を脱ぎ捨てようもん
なら大変だ。

一日お説教らしい。

そんな彼が非常に気になること。

電話帳は五十音順にきれいに。

しかも、全てが埋まってないと落ち着かないらしい。

「誰か『を』で始まる人、知らない？」

居る訳ないじゃん。

くつ下、ボス、五十音（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。『を』もそうだけど、『ん』も居ないですよねぇ？ きつと…。

めがね、朝日、大仏

一日の始まり。朝日は眩しすぎて嫌いだった。

沈んだ気持ちで鏡を見ては「大仏みたい…」そう落胆した。
自分の容姿に自信などなかった。

めがね属性って本当だろうか？

私でも、めがねを掛ければ変わるだろうか？

そんなことで変わる訳がない、それは分かっていた。

けど、変化は突然訪れた。

きっかけはあいつだ。

「おはよう！」

久しぶりの声だった。

一言だったけど、でも、確かに私は変わった。

だって、朝日が待ち遠しくなったから。

めがね、朝日、大仏（後書き）

何でもないきつかけで、なぜか突然世界は色に満ちる。ただ眩しかった光はきらめきに。それは恋の訪れかもしれないね。ナーンテネ。

かたつむり、ダンボール、宇宙ステーション

宇宙ステーションでは、様々な実験が行われている。
かたつむりとナメクジの競争など、何の意味があるのか全く判らない。

それでも、ただ宇宙でやることに意義が認められていた。

国際的な協力で宇宙ステーションは拡大してきた。

これまでは、最先端として順調に運営されてきた。

けど、不況のあおりで、人員削減の波が襲ってきた。

先日の打ち上げではダンボールと新聞が輸送された。

それは失業者のための家とふとんと言うことだった。

かたつむり、ダンボール、宇宙ステーション（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。何かの捻り
が出ないかなあ、と漠然と書き始めました。結局、何の展開もな
い感じ…。

ハバネロ、アフリカ、深い

ハバネロ、それは辛さの代名詞にもなっている。
けど、辛さだけならもつと辛いトウガラシは存在する。

でもハバネロは辛いだけじゃないんだ。フルーティな香りもある。
だから人気になったんだ。

確かに僕は寒いのは嫌いだ。暖かい方が好きだ。
けど、僕がアフリカに行くのは、そんな理由じゃないんだ。

もつと、深い理由があるんだ。

広大な自然に囲まれて暮らしてみたい。
ここでは感じられない何かを感じたい。

出来れば、きみと一緒に。

ハバネロ、アフリカ、深い（後書き）

ハバネロ、アフリカ、どう絡ませると…。 最初は黄金のハバネロ
！とか考えてみましたけど、挫折しました。 で、ちょっと強引な
展開で強引につなげました。

尾長鶏、弾圧、アプリケーション

コンピュータって便利だね。何だって出来る。

まあ、やりたいことに対応したアプリケーションがあれば、ただどね。

所詮は計算機、実際には何も出来ないって思ってるかい？
ところが、そうでもないんだな。

まあ確かに、尾長鶏の料理に関しては、レシピしか出てこないだろう。

けど、ネットのあちこちで、さも権威があるかの様に、特定の方
向で記事を書けると…。

ほら、言論弾圧なんて簡単さ。

もう、君の言うことなんて誰も信じない。

尾長鶏、弾圧、アプリケーション（後書き）

ありやりや、ネットに載ってる記事って信憑性がイマイチなものが
ありますよね。 インターネットは宝の山、だけど、見方を間違え
るとごみの山。 うーん。 なんでこんなお話になってしまったんで
しょう…？

洗濯機、ケーブル、一升瓶

このケーブル、何のケーブルか判るかい？

電源ケーブルだと思ったけど、でも違うんだ。

洗濯機をつないでいただけ、ピクリとも動かなかった。

せつかく、洗濯できると思ったのに。

「ふーん。それで、私が頼んだ洗濯が終わってない訳？」

だから、電気が使えなくて、出来なかったんだよ。

「その一升瓶は？」

え？ こ、これは、その…。

「もういいわ。私に熱爛ちょうだい」

は、はい。 今、チンします！

「あら、電気使えるじゃない」

しまった！

洗濯機、ケーブル、一升瓶（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。
うーん。切れが悪
いです…。

パソコン、雲隠、世界

世界で一番強いパソコンって知ってるかい？

そう。速い、じゃなくて強い。

そんなパソコン。

そのパソコンはとにかく強い。どうやっただって壊れない。

普通のパソコンだったら、象が踏んだら壊れる。

けど、そのパソコンはそんなことでも平気だ。

けど最近、その最強パソコンを見なくなった。

どこかに雲隠でもしたんだろうか？

風の噂に聞いた。どうやら、とうとう壊れたらしい。

ハードは丈夫だったけど、ソフトがバグだらけだったらしい。

パソコン、雲隠、世界（後書き）

強いパソコン……。それは突然思いつきましたけど、でも、きちんと使い切れませんでした。なんだかヘンテコリンな落ちになってしまいました。

天体観測、ティッシューパー、宇宙

今日は天文部恒例の天体観測だ。

みんなで天体望遠鏡を覗き、宇宙の神秘について語り明かすんだ。

けど、困ったこともある。

この季節、花粉に敏感な人にとってはつらい季節だ。

くしゅん。

くしゅくしゅ…。

みんな結構つらそうだ。

けど、誰かが持ってきたティッシュがすごくいい感じだ。

「あ。このティッシューパー、すごくいい」

「ホントだ。何度使っても痛くない」

「どこで売ってるの？」

「俺も俺も」

宇宙の神秘はどこへいった…？

天体観測、ティッシュペーパー、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 卒業生のお別れ会も兼ねての春先の開催。それは花粉が翔びまくってる季節…。鼻かんでると、すぐにトナカイさんになってしまつて、結構いたいんですよね！。

献杯、淹登り、冷え性

献杯って知ってる？ 乾杯とは違うんだよ。

乾杯がおめでたい時にすることになって、献杯ってのが出来たんだ。

そう。つまりめでたくないこと。お葬式とかのときにするんだ。

まさかあの人が…。そう思ったけど。

つい先日、淹登りするかの勢いで泳いでた…。元気だったのにな…。

でもやっぱり、過ぎたるは及ばざるが如し。だよな。

冷え性だからって、生姜とか、にんにくとか、食べ過ぎたらしい。

血が回りすぎて頭から噴出したらしい…。

献杯、淹登り、冷え性（後書き）

まあ、ちよつと不謹慎な感じ…。 冷え性対策として、生姜とかにんにくつて利くことは利くらしいです。 あと、乾杯。 最近では御目出度い時にしますけど、元々は弔事の席での慣習だったらしいです。 それがいつの間にか御目出度いときのものになってしまつて、献杯っていうのが後から生まれたらしいです。（ぐぐつたらそう書いてありました…）

洗濯機、墨汁、シャワー

今、とてもシャワーが浴びたい。

羽根突きで大負けして、全身に墨汁で落書きされたんだ。

彼女、酷いんだよ。

はしゃぎ過ぎだと思っな…。

大人なんだから、もう少し抑えて欲しいよね。

とか×はまだいいけど『好き』とか『私の』とか、そんなこと書かないでよ。

照れるじゃん。

で、シャワーを浴びたかったけど、うちにはないんだ。

仕方ないから洗濯機に入っただ。

いやあ、大変だった。

子供だったら死んじゃうかも。

大人でよかった。

洗濯機、墨汁、シャワー（後書き）

文学少女風三題嘶作成からもらったお題です。
うーん。今回はか
なりグダグダに…。

ルーマニア、真剣、白虎隊

ルーマニアには魔女がいる。

魔女たちは主に占いやまじないで暮らしてる。

きつと、最近は以前にも増して真剣にやってると思う。

なぜって？

なんと魔女が職業として認められたんだ。

けど、おかげで税金はとられるし、

しかも、占いが外れると罰金らしい。

大変だね。

白虎隊は会津を守る為に戦った。

当然、魔女たちもそんな法律に対して戦った。

マンドラゴラで呪いをかけたりしたらしい。

で。

ところで、なぜきみはわら人形を打ってるの？

ルーマニア、真剣、白虎隊（後書き）

えー。ラストはちょっと意味不明ですね…。何か恨まれるようなことしたんでしょうかね？ でも、ルーマニアで魔女が職業として認められた、っていうのは本当なんです。

円盤投げ、山、エンジン

僕は山奥の小さな村で生まれた。

その村の学校では円盤投げが盛んだ。何故かって？

円盤を一番遠くまで投げるものが、一番創造主に近い。そう信じられているからだ。

そんなの単なる迷信だと思ってた。

けど、とうとうそれは降臨した。

予想通り、彼らは円盤でやってきた。

どんなエンジンか知らないけど、遙か彼方からやってきたんだ。

何しに来たのかって？

彼らは、円盤から降りるなりこう言った。

「北日本文学賞、まだ間に合うかな？」

円盤投げ、山、エンジン（後書き）

文学少女風三題嚠作成からもらったお題です。
味不明ですね…。

円盤投げ、大分意

握手、柿、ガレット

また戦いの季節が訪れた。

今年は飛躍したい。そう考えていた。

何のことかって？

ガレットコンテストで、優勝を目指してるんだ。

去年は柿に乗せたガレットで優勝した。

だから、今年はさらに和風で攻めよう。そう考えた。

そんな僕を助けてくれたのが彼だ。

新メニューが完成したとき、僕たちはがっちりと握手した。
完璧だ。そう思った。

生地も味も新しい。

さあ、いよいよ講評の時間だ。
その評価は…？

「これ、お煎餅ですね」

「あれ？」

握手、柿、ガレット（後書き）

ガレットって、フランスの食べ物ですね。料理としても、お菓子としても色々なパターンがあるようです。円くて薄いもの、という意味があるそうで、じゃあ…。と思いました。

秋刀魚、絵筆、一升瓶

秋刀魚の一番おいしい食べ方って知ってるかい？

がっつと焼いて、醤油と一緒にすだちでも搾って、お好みで大根おろしを添える。

シンプルな食べ方が一番おいしいんだ。

絵画だってそうでしょ？

絵筆で何度もなぞったりしたら、線がぼやけてしまう。
ビシッとシンプルに決めないとね。

見ててみな。

線ってのはこうやって引くんだ。

えい！ どうだ！

あ、何してるんだ！

止めてくれ！ その一升瓶は取るな！

それが切れると、手が震えちゃうから…。

秋刀魚、絵筆、一升瓶（後書き）

文学少女風三題嚠作成からもらったお題です。すっごい困ったんですけど、『目黒のさんま』を見ているうちに思いつきました。けど、この人、単なるアル中じゃん、なんちゃって。え？ 決して鉄人のことじゃないですよ。 エエ。

眠気、弾き語り、スプレー

スプレーって言えば、やっぱ落書きだよな。
灰色のコンクリートにビシッと『夜露死苦』 これで決まりだよ
ね。

そして箱乗り。 尖ってこその人生。

でもさ、春先は、そう尖ってばかりもいられないよね。
お昼過ぎなんて、眠気に対抗するのは人間には無理って感じ。
なんでそんなに眠いのかって？

夜はバイトなんだ。

駅裏で弾き語りをするんだよ。

結構人気なんだよ？

何を歌うのかって？

一番は「はとぼっぽ」かな。

恥ずかしいから、内緒だよ？

眠気、弾き語り、スプレー（後書き）

うーん。落ちが決まりません…。

石ころ、白鳥ボート、猫じゃらし

その石ころで何するつもり？

え？ ああ池ね。 ってまさか、その石ころを投げるの？
そんなことしたらダメよ？

ボートが一杯いるでしょ？ 危ないわ。

全く、子供ね。

ん？ あの白鳥ボートに乗ってるの…。
あいつ…。

何よ！ ニヤニヤして！ 昨日は私を口説いてた癖に！
なんか腹立つわ。
その石貸して！ ぶつけてやる！

あひゃひゃ！

なにするのよ！

猫じゃらしなんか仕舞いなさい！

ああ、もう、どうでもいいわ…。

それより。 ね、ボートでも乗らない？

石ころ、白鳥ポート、猫じゃらし（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ま、まあ、白鳥ポートに乗ってるあいっは、どっちかっていうとどうでも良くて、で、となりにいるのが本命ってつもり、なんですけど、何だか全然意味不明な感じになってしまいました…。

鼻歌、会員券、かなしばり

最近、かなしばりに遭うことが多い。

熟睡していたつもりが、ふと目が覚めてしまったとき。

暗闇の中で、身動きがとれなくなっている。そんなことがある。

ああ、まただ…。

となりにいるはずの妻に助けてほしいけど、声も出ない。

そしてほら、どこからか鼻歌が聞こえてくる。

「会員券はどこかな」

「美食クラブの会員券」。明日はパパに内緒でこちそうよお」

うう。連れてくから…。

だから、この縄と猿ぐつわを外してくれよお…。

鼻歌、会員券、かなしばり（後書き）

それ、かなしばりじゃありませんから！！　なんて…。　この旦那さん、美食クラブに一人で行ってたんでしょうかねえ、そりゃー奥さんだつて、おいしいもの食べたいもんね。（こんなものを投稿した日に、仲良くお出かけご飯の活動報告がありました…。　あはは。いいなあ）

ワイシャツ、ティッシュペーパー、観覧車

私は花粉症なの。

もうティッシュペーパーは手放せないの。

そのところを、あなたにはよく分かってほしいの。

あなた、花粉の凄さを知らないでしょ？

高度五千メートルでも飛んでるのよ。

こんな観覧車程度では花粉から逃れられないの。

だから、私はいつでもティッシュが必要なの。

たとえ洗濯でもティッシュは捨てたくないのよ。

分かってくれたかしら？

「でも、洗濯前にポケットからティッシュは出そうよ…。」

ワイシ

ヤツが…」

う…。

ワイシャツ、ティッシュペーパー、観覧車（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。　きっと、彼のワイシャツに細切れになったティッシュがたーくさん付いてるんじゃない？　うね！　なんだか、鼻がむずむずしそう…。　けど、落ちに切れがない…。

くじびき、焚き火、半月

今日は半月だ。

天気も晴れの予報だし、問題はない。

だから、今晚は焚き火を囲んで会合だ。

焚き火って便利なんだよ。

まず暖かい。この季節、まだ寒いから、これは重要だ。

そして、美味しい物を焼いて食べることだって出来る。

お酒の燗だってバッチリだ。

ただの宴会だろって？

いやいや、そう言う訳じゃないんだよ。

党の役員人事、そしてマニフェストを決める重要な会合なんだ。

え？ どうやって決めるのかって？

もちろん、くじ引きだ。

くじびき、焚き火、半月（後書き）

え、党？ 最初はくじ引き同好会って設定だったんですけど、くじ引きで何を決めるのかなあって考えているうちに、マニフェスト（なぜ？）を思いついて、じゃあ、ってことで…。うーん。そうやって、宇宙人を代表にしたんでしょうか？ ナンチャッテ。

正座、名湯、シャワー

僕は今、正座してかちこちになっていた。

何故って、今日こそ彼女にプロポーズしようと思ってるから。

「あ、あの…」

けど、いざとなると、言葉が出ない。

情けない…。

「で、次の名湯めぐりは何処？」

「へ？ そ、そうだね…。 道後温泉なんてどうかな」

「それもいいわね」

温泉が趣味だからって、何言ってるんだ。

あ？ もしかして、はぐらかそうとしてる？

望み、無いのかな…。

「けど、あなたと一緒にならシャワーでも素敵かしら」
「え…」

正座、名湯、シャワー（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 ちよつと彼女、大胆すぎ？ 正座が思いつかなくて、とりあえずプロポーズで、と書き始めて、あとはグダグダに…。

ガーターベルト、ドイツ、金融

金融界のドンたちの今日の会合のタイトルは『ガーターベルトと円高の関係』

何よそれは？ 関係あるの？

あら、でもデータがあるのね？ それ、本当なの？

で、次のグラフは。『ガーターベルトの色とドイツ第三帝国の支持率』？

そんなデータ、どうやって揃えたの？ っていうか、そんな昔からやってるの？

バカじゃないの？ いえ、バカに違いない。

次は？ 『ガーターベルトの長さと夫婦喧嘩の回数』

へ。へー…。

もう二センチ長くしようかな…。

ガーターベルト、ドイツ、金融（後書き）

いや、いい加減ガーターベルトから離れなさいって感じですけど…。
とすると、次はなんでしょうねえ。 スカートの長さと出生率？
え、関係ない？ 失礼しました。 それにしても、ガーターベル
トとXX、どんなデータなんでしょうねえ？ 想像もできないけど
…。 書くだけって楽ですねえ

猫の集会所、絵筆、バス

猫の集会所の見回りは僕の仕事だ。

集会所を巡って、街中、いや、バスも使って、隣町にもいく。

その様子を描く為のお絵かきセットは忘れない。

絵筆はこだわりの十一号だ。ま、それは趣味だけだね。

あのミケ、一丁目の集会所にもいたよな。あっちのブチは隣町でも見たな。

あれ、いつものタマがいないな…。

道の向こうの集会所かな？

ちゃんと調べとかないと。

どこに、どんな猫がいるのか、それはとても重要だ。

僕？ 僕は三味線屋だよ。

猫の集会所、絵筆、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 ああ！ひどい！猫の敵ですね！ けど、そうなると絵筆が意味不明ですね…。

清水寺、ヤンデレ、一挙両得

「私、ヤンデレなの」

「うそ。君はオニ…」

ギロ。

「何か言った？」

「なんでもありません…」

「さ、ヤンデレを治すために、清水寺で修行しましょうか？」

「え？ ああ、いつてらっしゃい」

「なによ。私一人に行かせる気？」

「へ？」

「あなたも一緒よ？ それが一挙両得ってことよ」

「な、なぜ」

「なぜも何もないわ。 あなたも行くの！ わかった？」

「な、なんとなく…」

「じゃ。 はい、これが荷物」

「オ…」

ギロ。

「何か言った？」

「ヒイ」

清水寺、ヤンデレ、一挙両得（後書き）

えー、もう無茶苦茶です。　この子、絶対にヤンデレじゃないと思う。これはツンデレですよねぇ？　まあ、確かに病んではいるかもしれないけど…。　ま、お互いそれは分かった上での関係で、単なる旅行ですね。　とすると、この子、実は意外と照れ屋？　なんて…。

ウーロン茶、墨汁、またたび

墨汁ってどんな味だろう？

甘いかな、辛いかな、それとも苦いかな？

それとも、ウーロン茶みたいに、味はあまりないのかな？

ああ、考え出すと止まらない。

猫はどう感じるだろう？

またたびを混ぜたら、猫は墨汁をなめるだろうか？

あ……。でも、猫がどう感じたのか、聞くことができないか……。

ああ、でも気になる。どうしたらいいんだ！

そうか！ 判らないなら、判るようにしてしまえばいいんだ！

という訳で。

ラー油入り墨汁。 絶賛発売中！

ウーロン茶、墨汁、またたび（後書き）

- - - - -
文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 いや、そもそも食
べたり飲んだりしたらダメでしょう。 どうしてそこから離れられ
なかったのかなあ…。 テへ。

母の日、案内、金星

郵便受けを見ると、何かの案内状が来てる様だった。
長年勤めた役所も来月退職なのに、何の案内だろう？

が、次の瞬間、僕の頭の上には大きなハテナマークが浮かんだ。
『母の日振興財団 定期大会』
そう書いてあった。

母の日なら知ってる。 と思う。

けど、振興財団？ 定期大会？
何それ？

だが、その案内をよく見て、納得した。

大金星だ。

その案内状の、理事の一覧に僕の名前が載っていた。
官僚に不可能はない。

僕の出向先が出来たんだ。

母の日、案内、金星（後書き）

どうして、母の日からこんなお話に……。怪しげな財団の名前をつけたら、いつの間にかこんなお話になってしまいました。

くつ下、**絵筆**、ジェットコースター

私の絵筆には魔法の力があつた。

手に入れたのは幼い頃。 クリスマス、枕元のくつ下に入ってた。
『魔法の絵筆：取扱説明書』と一緒に。

その絵筆で、説明書通りに一生懸命に絵を描いた。

絵の評判はジェットコースターの様な勢いで上昇した。
魔法の力は圧倒的だと思った。

けど、お母さんが教えてくれた。
「魔法なんかないわ。 絵はあなたの力よ」

説明書をよく見ると、それはお父さんの字だった。

そう。 魔法は両親の優しい気持ちだった。

くつ下、**絵筆**、ジェットコースター（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。魔法のXX、いつものパターンとはちょっと変えてみました。そうしてみたら、ちよっと優しいお話になったかも？

国産、夜光虫、ハイヒール

私は、夜の街に漂う夜光虫だった。

夜光虫って綺麗だけど、何の目的もないのよ。

陽が沈むころ、赤いハイヒールを履いては街に出かけた。
吸い寄せられる様に男が寄ってきた。

ドライブに行きたいって言ったら、色んな車が出て来たわ。
外国製のスポーツカー、時には国産の軽。

でも、誰も私自身を見てくれなかった。

だから、いつも満たされなかった。

けど、あなたは私を見ていたわね。

恋に落ちたことに気が付いたのは何時だったかしら？

国産、夜光虫、ハイヒール（後書き）

うーん。よく判らない話になっちゃいました。そもそもお話になつてないかも……。まあ、でも、幸運な出会いがあった、ってことがなあ？ あはは。自分でもよく判らない……。

円盤投げ、セロハンテープ、醤油

円盤投げには醤油が必要だ。

だって、まず円盤を買わないとね。

それには、山向こうまで買いに行かないとね。

とすると車が必要。

車は彼女が持つてる。 ならば彼女とドライブになる。

ドライブでは、途中でお茶になる。

お茶の時間にはおやつが必要だ。

おやつは絶対にお煎餅だ。

お煎餅を作るには醤油が必要。

ほらね？

で、やっと手に入れたのがこの円盤。

さあ、思いつきり！

エイッ！

ガシャーン！

あ。

本当に必要なのはセロハンテープかな？

円盤投げ、セロハンテープ、醤油（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 うーん。醤油が苦しくて、無理に最初に出したら、こんなことに……。自分で円盤作った方が早いかもしれませんね？ セロハンテープも何だかわからないかなあ…。

ポスター、正社員、尖塔

どうだい君、うちの会社に入らないかい？

このポスターに大体は書いてあるけど、詳しく説明しよう。

うちは尖塔を作る会社だ。

尖塔を知らない？ 寺院とかにある、先の尖った塔だよ。

だが、我が社の尖塔は、なんと家庭用だ。

ちよつとオリエンタルな雰囲気を出したい家にはぴったりだ。

どうだい？ 今、我が社は、先着五名様まで正社員だよ。

一緒にオリジナルでエキセントリックな尖塔を作ろうよ。

あ…。

どうして、みんな逃げるのかなあ？

ポスター、正社員、尖塔（後書き）

どうです！ 一家に一つ尖塔を！ 夕暮れには尖塔に登って夕焼けを見る。そんなライフスタイルがあなたのものに！ さあ！ でも、そんなオプションは聞いたことありませんね。

ティーカップ、墨汁、一升瓶

目が回る……。それに胃がムカムカする……。

周囲を見回すと、空になった一升瓶が一、二、三、……。えーと、たくさんある。

だからって、こんなに頭がガンガンして、吐き気がするなんて変だね。

え？ そんなに飲めば当たり前でしょって？

だって、あれは透明な墨汁だよ？ 飲んでも酔わないはず！
昨夜はその実験だったんだよ。

あれ？ このボトル……。この琥珀色の液体は？
今度は紅茶色の墨汁？

じゃ今夜の実験は、ティーカップで飲まなきゃね。

ティーカップ、墨汁、一升瓶（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。また墨汁を飲む話に……。って、これ、絶対に墨汁じゃないですよ？ きつと材料はお米とかモルトですよ？ 酔っ払いの言い訳もここまで来ると、怒る以前に目が点ですよ。それにしても懲りませんね。

瞼、ビーズ、指相撲

小学生の頃って、無邪気でよかったよな。
瞼を閉じると、浮かんでくるのは懐かしい光景ばかりだ。

あの頃、なぜか指相撲が大流行したよね。
お互いの手を握り、親指を立てると、相手の親指を押さえつけようと必死だった。

皆、なんであんなに熱中したんだろう？

勝つと、相手からビーズをもらえるってルールだったから？
ビーズも流行ってたね。

君とも随分とビーズのやりとりをしたよね。

でも、僕は君の手に触れるだけで嬉しかったんだ。

瞼、ビーズ、指相撲（後書き）

小学生のころの懐かしい思い出、その後、僕は君とどうなったんだろうね。お互いの道は別れてしまったのでしょうか？ 幼い頃の思い出は切なくて、暖かいですね…。

野良犬、名湯、エンジン

ジャパネットから注文の品が届いた。 名湯作成キット。
面白そうでしょ？

説明書によると、必要なのは野良犬、スコップ、そして信じる気
持ち。

だそうだ。 この怪しさがたまらない。
元々名湯はどうでもいい。
何が起きるのか、それが知りたい。

この前のジェットエンジンには驚いたな。
何と膨らませた風船を束ねるだけだった。
面白かったけど、息が続かなかったのは残念だった。

今度は何だろう？

スコップを担ぎ、野良犬を探すことにした。

野良犬、名湯、エンジン（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。エンジンが難しい…。
野良犬も訳わかんないけど…。

柿、行商人、足軽

俺は足軽だった。いざ戦になると、前面に立って戦った。けど、やっぱり辛かった。

で、足軽の権利を守るために、労働組合を作ったんだ。戦は一日八時間。月の残業は四十時間まで。けど、あんまり変わらなかった。

で、諦めて、行商人になったんだ。そして柿を売り歩いてるんだ。儲かるよ！なんで柿かって？

柿はすごく栄養があるんだよ？

それにさ、みんな、お酒が大好きでしょ？

そ。二日酔いには柿。

一個百円だよ。

「はい。まいどありー」

柿、行商人、足輕（後書き）

うーん。ちょっと落ちが弱いかなあ。戦は八時間、の労働組合、午後五時のほら貝で、その日の合戦は終了。なんちゃって！。

石ころ、カレーライス、五十音

今日も、二人でゲームをしながら帰った。

「石ころ」

「うさぎ」

「絵の具」

五十音順に言葉を言い合うゲーム。

但し追加ルールがあつて、食べ物禁止だった。

「えつと…」

「ほら、あと十秒だぞ？ 九、八…」

「お、お日様！」

「なる…。あ、か？ か、か…」

「ほらほらー。十、九…」

「か、カレーライス！ って、しまった…」

「ぶう。失格う」

「ちえー」

「そんなにカレー好き？」

「うん。大好きだよ」

「ふーん。私とどっちが好き？」

「え」

石ころ、カレーライス、五十音（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 幼馴染の男の子と女の子ってイメージです。おませさんは、もちろん（？）女の子です
ね。

宇宙、与力、雪景色

最近、夜のうちに妙な事件が起きる。

川原に、重い物が置かれた様な跡がつくんだ。

当然、誰も覚えが無い。

雪の降る中、与力の私も岡引たちと一緒に見張ることにした。

真夜中、何もないのに、突然、雪景色の中に跡が出来た。

よく見ると、周辺に妙な形に雪が積もってる。

何か透明なものがあるようだ。

不意に空中にドアが開き、何かが飛び出してきた。

どうやら、宇宙人のようだ。

何してるんだ？

「さむ！ トイレが近くなっていけないや」

宇宙、与力、雪景色（後書き）

雪が降るような寒い日はねえ…。 宇宙にも季節はあるのかな？
UFOに乗っても寒いのかな？ UFOのエアコンが壊れてるんですね。きっと。

ティーカップ、ステッキ、醤油

僕は今、魔法のステッキを持つてる。

これ、凄いんだよ。

え？ 言わなくても、どんなものか判る？

まあ、誰もが気が付くかもしれない。

そう。このステッキで指し示して、言うだけだ。
それで何にでも変わる。

例えば、あのティーカップには、紅茶が入ってるね。
コーヒーって言うて、このステッキで指し示せば、コーヒーにな
る。

ティーカップがコーヒーになるかもしれないけどね？

それより問題は。

今、僕が「醤油」としか言えないことだ。

ティーカップ、ステッキ、醤油（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。魔法のステッキとそれを操るお馬鹿、というか困った人。世界中が醤油だらけにされてしまうかもしれません！！

ルームキー、おっぱい、街道

街を通る街道沿いにホテルが出来た。

新物好きの私たち夫婦は、早速泊まりに行ってみた。

周辺はいつもの街だけど、一つ新しかったのはルームキーだった。それは、始めて見るカードキーだった。

夜になり、お酒を飲みながらカードキーで遊び始めた。

随分と酔ったのは確かだ…。

気が付くと、おっぱいでキーを挟むなんて話が出ていた。

けど、それは無理。

そして…。何故、そんなに酔ったのだろう？

そう。私は三段腹に挟んでみせたのだ。

ルームキー、おっぱい、街道（後書き）

まあ、ホテルが出来たから、ちょっと試しに泊まりに行ってみよう、なんてことはしませんけどね…。随分と仲良しの夫婦ですね。それにしても、なんでそんな挟みっこになってしまったのでしょう…。酔っ払いは危険だ…。

木の机、白鳥ボート、英語

「はあ」

僕は木の机に座って悩んでいた。

悩みは、英語で何て言うんだろう？　ってことだ。

何を言いたいの？　それはデートのお誘いだ。

となりに住む外人の女の子を好きになってしまった。

彼女と二人で、一緒に白鳥ボートに乗れたら最高だ。
想像するだけで顔がにやけてしまう。

えい、当たって砕けろだ。

思い切って、となりの呼び鈴を押した。

扉を開け、彼女が出てくる。　この笑顔が素敵だ。
「ハ、ハロー……」

「あら、こんにちは」

あれ？

木の机、白鳥ポート、英語（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。外人さんでも、日本に住んでいれば、日本語話せますよね？ きっと…。

墨、鯨、檸檬

想像の翼を広げることはとても楽しい。
そうして生まれたのが私。

私は誰かって？

鯨、字の通りで、体は魚、頭は虎。
そんな想像上の動物だったはず。

けど、とても強く念じながら、絵を描いた人がいた。
きつとそれは水墨画だったんだ。
だって、私は白黒だもの。

そして今、もう一匹の鯨が生まれた。

私は甘酸っぱい気持ちを感じてる。

彼を見詰めながら考える。

鯨でも一目惚れってあるのかしら？

そして…。

ファーストキスは檸檬味かしら。

墨、鯨、檸檬（後書き）

うひゃ。鯨の初恋話に…。（どんな話??）鯨同士のキスって…。
あの、天守閣に乗ってる金色の鯨の唇同士ががが…。うーん。
不思議な想像です。それにしても、墨、ちょーいい加減に使ってしまいました。お話にも全く意味がない使われ方ですね…。

窓拭き、恐竜、またたび

私の彼は窓拭きだ。

知り合ったきっかけは恐竜だ。

私は恐竜が大好き。

曇った窓ガラスを見つけると、恐竜の絵を描いてしまう。

大抵は慌てて消してしまう。

見つかったら恥ずかしいから。

けど、あの日は違った。

ふと、窓の向こうの彼と目があつた。

彼は、ガラスに『可愛い恐竜だね』そう書いてくれた。

それが出会いだつた。

恐竜を褒められた私は、またたびを与えられた猫の様になつた。

時として思う。

彼のまたたびは何なのかな？ と。

窓拭き、恐竜、またたび（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。恐竜がきっかけの力
ツプル誕生！でも、どんな恐竜でしょう？ それにしても、変わった
趣味ですね？

休日、阿呆、シンデレラ

休日だけど、今日は文化祭。

我が校の伝統行事「シンデレラコンテスト」が開催中だ。

私は出場しないけれど、クラス代表のメイクを手伝いに来た。
人の顔にメイクをする、っていうのは楽しいわよね。
熱が入ったのも確かだと思う。

でも。 だからって…。 ねえ？

私は自分がメイクした人の顔を阿呆の様に呆けて見詰め続けていた。

どうして、こんなにきれいになるのかしら？
けど、嫉妬する気は起きない。

そう。 シンデレラたちは、全員男だ。

休日、阿呆、シンデレラ（後書き）

あはは。人によつては、本当にきれいになりますよ？ シンデレラ
コンテストがきっかけで何かに目覚めたりして？ いやー怖い怖い。

マラソン、墨汁、電車

確かに、墨汁を使えば、書道は格段に楽になると思うわ。
けど、楽をすることを追求したんじゃないでしよ？
丹念に、丁寧な、墨を磨ることから、もう書道は始まつてるはず
よ？

だからマラソンで行きましょ？
運動して汗をかくのは気持ち良いし、健康的でしょ？
ただ目的地に着けば良いってもんじゃないでしよ？
だから、車で行くのは止めましょ。

せめて電車にしましょう。

どうしてって？

だって、車は酔うんだもの。

吐いちゃうかも…。

マラソン、墨汁、電車（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。車酔いって、つらいですねえ、子供のころはバスが苦手だったなあ。

不敵、運命、雨音

最近、雨音が絶えない。

そのせいか、目の前には洗濯物の山があった。

「混沌だ…」

そこにお節介な東洋人がやってきた。

「おはよう！　って、なにこれ？」

「見て判らないのか？　洗濯物だ」

そう言い、不敵な笑みを浮かべる。

彼は戸惑ってる様だ。

「言語化してやろう」

「え？　いいよ」

「遠慮するな、運命だ。　　洗え」

「そんな！」

だが彼は、結局洗濯に行った。

でも気が付いているだろうか？

この私が、結局は彼の言う通りにしていることだ…。

不敵、運命、雨音（後書き）

えーと、何だかイメージがそっちに行ってしまったので、そのイメージで書きました。判る人には判ると思いますが、GOSICKのヴィクトリカと一弥くんのイメージです。私のカオス（バグ）は中々言語化（発見）出来ません…。なんちゃって。

物干し竿、馬、宇宙

僕がロマンを感じるのは何だと思う？

それは宇宙さ。決して語りつくせない魅力がある。

もう少し掘り下げてみようか？

それは電気もガスも使わずに、そのままでは着られない服を着られるようにする。

そう。物干し竿こそ、最高だよな？

晴れてさえいれば、乾燥機なんか目じゃないよね。

え？ ロマンがない？ 失礼だな。

じゃあ、君のロマンは何だい？

馬？ それも確かにロマンに溢れてるね。

けど、おかげで、今、僕は橋の下に住んでるけどね。

物干し竿、馬、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 ああ！それで、電気もガスも使わない物干し竿に凝ってるんですね？ 私自身も書くまで落ちの意味に気付きませんでした。

命名、鍋奉行、稲光

鍋を究める友の会、それがこの団体の正式名称だ。

元々は、鍋になると鍋奉行をやってしまう、そんな鍋好きの同好会だ。

けど、最近は究めることの目的が変わっていた。

今日も、不穏な雰囲気が溢れてる。

各自で持ち寄った具材を、思い思いのタイミングで投入していく。味は食べてのお楽しみだ。

だが、最近は楽しみより不安が大きい。

稲光に、具材が垣間見えた。

誰だろう？ 最初に始めたのは……。

その瞬間、それは『闇鍋』と命名された。

命名、鍋奉行、稲光（後書き）

稲光で照らされる得体の知れない、食べ物かどうかとも判らない何か
……。きっと、最初は普通の鍋だったんだろうなあ、どうしてそんな
ことに？ それは謎です！（考えてません！）

窓拭き、キャンピングカー、太陽

今日は快晴。

この最高に気持ち良い太陽の光を余すことなく取りこむんだ。
だから、窓をピカピカにしちゃおう。

そう考えると、窓拭きも良いものでしょ？

けど、因果なもので、私たちは天気が怪しい方がよく出かける。

突然、庭で大きな音がして、キャンピングカーみたいな車で飛び出していく。

全く荒っぽい。

私たちは竜巻を追いかけてる。

最初は竜巻なんて知らなかった。

けど、一緒に追いかけている内に、それは二人の夢になっていた。

窓拭き、キャンピングカー、太陽（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ツイスターって映画をなんとなくイメージしてます。竜巻のデータをとって、その発生の予測をする、そんなことに情熱を燃やしてる人たちのお話だったかな？

ミルクティー、れんほー、紫

最近、れんほーさんは大変かなあ？

出る杭は打たれる、っていうことかもしれないね。

色んな予算を縮小したもんね。

ま、実際にその効果が出るのは何年か先かもしれないけど。

でも、目立つちゃったからね？

今頃、顔中、いや体全体が、青どころか紫になってるかもね？

仕方がないね。

そう言う僕が何をしてるのかって？

何も変らないよ？ 当日から、優雅にミルクティーを味わってたよ？

だって、宇宙人だもん。

あ、寄付？ お母様にきいとくよ。

ミルクティー、れんほー、紫（後書き）

うーん。「れんほー」ってお題をどうしようかと思ったんですけど、
今、こんな使い方しか思いつきませんでした。どこまでを必要とするのか、その判断は非常に難しいものがあると思います。そして、災害対策、想定する規模をちよつと上げると、突然、とんでもない費用が必要になるんだろつなあ、津波対策は想定外、というのは何となく理解できるけど、原発の方は、聞けば聞くほど頭に来るのはなんででしょう？ だから、原発はダメだ、もまた極端だとは思いますが……。はあ。

かたつむり、絨毯、クーラー

かたつむりって動くのが凄くゆっくりだね。
でも決して停まらない。 確実に進んでく。
スピードじゃないんだ、継続すること。
少しずつ、それが大事だよ。

そして、どんよりとした曇り、雲って憂鬱だよね？
でも、上に出てしまうと、それは青空の中の真っ白い絨毯。
とっても爽やかなんだよ。
捉え方次第、だよ。

いきなりクーラーなんてダメ。

昔はクーラーなんて無かったんだから。

よしづ、うちわ、そして風鈴で十分。
まずは気分から、ね？

かたつむり、絨毯、クーラー（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。お題から、お話ががうまく思いつきませんでした…。

おじさん、ヒョウモントカゲモドキ、掛け軸

僕のおじさんは骨董品を集めるのが趣味だ。

だから、おじさんの家には山ほどの骨董品がある。

当然、床の間には掛け軸がかけてある。

不思議なことに、その掛け軸に描かれている絵は、時として変化する。

そして、その絵はともリアルだ。

本当にリアルなんだ。

そして、ある時、絵が変わるんだ。

昨日までは、ヒョウモントカゲモドキの絵が描かれてた。

けど、今は鳥だ。

トカゲは絵の外、庭でコオロギを食べてた。

さすが、魔法の掛け軸。

おじさん、ヒョウモントカゲモドキ、掛け軸（後書き）

おじさんがおざなりすぎるかも…。それでも、書き続ければ、いつかきつと。うう。眠い…。

では、おばかが前回になる前に寝ます！（もう、十分におばかです
が…）

ワイシャツ、絵筆、大学

昨日、どぎつい赤絵の具を付けた絵筆を彼の服に押し付けてしまった。

だから、彼の服を洗濯させてもらった。

彼の着ていた服を洗濯する、そう思うだけで胸が踊った。

そうして洗濯したワイシャツを手にすると、大学に向かった。

彼と話せる。理由はある。けど…。

何て言う？

あ。居た…。

「あ…、あの…」
まっすぐに見ることも出来ない…。

ふと、彼が随分とそわそわしてることに気が付いた。
見上げた彼の顔が赤いのは気のせいなのかな。

ワイシャツ、絵筆、大学（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ちょっと進行がスムーズじゃないかなあ？憧れの彼のワイシャツを間違って汚してしまった！とんでもないことを！けど、チャーンズ！

遺跡、護衛、喜色満面

やっと見つけた。

長い間、ずっと探し求めていたものに間違いないだろう。

震える手で、手にしたものを陽にかざす。

いまや、私は喜色満面の笑みを浮かべているだろう。

この遺跡から、こんな貴重なものが出てくるなんて、予想外だった。

さて、これをどうしよう？

いや、それより、こんなものを私が持つてると知られたら大変だ。護衛を雇わないとな。

護衛は…、この子供たちでいいか。

そう。奥さんから、俺様のへそくりを隠さないかね。

遺跡、護衛、喜色満面（後書き）

うーん。どうして、遺跡からへそくりが出てきたんでしょう…。
しかも、ずっと探し求めていた、だなんて、自分のへそくりを探し
求めていたなんて、何だろう？ よっぽど、部屋の中が散らかって、
何がどこにあるのか判らないってことかな？

かに、キャンピングカー、ストーブ

おとなりの庭にキャンピングカーが停まっていた。

確か、昨日はそんなのは無かった。何を始めたんだろう？

まだストーブが必要な寒さ。キャンプは早い、と思う。

それはともかく、私を除け者にするのは許せない。

「何を始めたの？」

「今回はすごいですよ」

「何がよ」

「どんな人でも、あなたでも無口になる魔法です」

「失礼ね」

「そして美味です」

それは本当だった。

皆、無口だった。

かにの食べ放題、もうしゃべってる暇などなかった。

かに、キャンピングカー、ストーブ（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。このお話も、とあるイメージで書いてます。「お隣の魔法使い」シリーズのイメージです。判っていただけました???メアリーとツクツクさんの会話のイメージなんですけど……。うーん。再現は出来てないかもしれませんが。

けど、キャンピングカー、結局意味不明ですね…。ストーブもおざなりだし…。

諸行無常、ライブ、ルームシェア

うん。すつごくよかった！

今日のライブ、調子良かったし、お客さんもノリノリで、すごく盛り上がった。

大成功だった。

早くおうちに帰って祝杯をあげたい。

今、私は気心の知れた昔からの友達とルームシェアで住んでる。
こないいい日は、やっぱり仲のいい友達と喜びを分かち合いたい。

「ただいまー！」

バタバタバタ！

「お、おかえり……」

諸行無常ってどんな意味だっけ…。

部屋だけじゃなく、彼もシェアしてたなんて知らなかった……。

諸行無常、ライブ、ルームシェア（後書き）

うーん。これは……。 どうしてこんな展開にしまったんでしよう……。 やっぱり、諸行無常がそんな発想を呼んだのかな？ それにしても、私としてはとても珍しい展開ですね。

正座、ケーブル、ジェットコースター

ジェットコースターは乗りたくない。
だって、心臓が持ちそうにない。

けど、ジェットコースターは勝手に始まり、終わってくれる。
ケーブルで引っ張りあげられて、ぐるぐる走り回ってお終いになる。

ある意味では楽かもしれない。

でも、今回はそうはいかない。
目の前で、息を殺している人たちに言わなければ……。

僕のとおりでじっと待つてる人のためにも。

改めて正座し直すと、精一杯の言葉を絞り出した。

「お嬢さんを僕にください」

正座、ケーブル、ジェットコースター（後書き）

文学少女風三題嚠作成からもらったお題です。えへへ。皆さん、経験はありますか？緊張しますよね？心臓たいへんですよね？でも、そういうことを乗り越えてこそ、の幸せですよね？さ、がんばってね！

イヤリング、わさび、パンジー

もう、季節は春。花壇に花を植えたいな。
色とりどりのパンジーは、明るくて好きだけど、今年はどうしよう？

もっと可愛い感じの花がいいかな？

そう、あなたがくれたこのイヤリング。
この花が可愛くて、とっても好きなの。

実は、そんな花を知ってるの。

え？ 私が似てる？ 照れるからやめてよ。

それは、わさびの花よ。

白くて、可愛くて。それでね、美味しいの。
少し辛味があるけど、いい香りよ？

食べたいの？

じゃ、覚悟を決めてね？

イヤリング、わさび、パンジー（後書き）

な、何を食べるんでしょうね。って、花わさびですよ、花わさび…。
この季節、ちょっとした彩りにもいいし、さわやかな辛さで美味しいんですよ？ どうして覚悟がいるのかって？ さ、さあ？ 他にも何かあるのかもしれませんが、うんうん。 ゴクリ……。 他

かたつむり、ケーブル、バス

「そんなにゆっくりじゃ、意味無いよ」

ケーブルの上をゆっくりと移動するかたつむりを見て、そう呟いた。

諦めなければ、止まらなければ、いつか目的を達成できる。そんな夢を持ってたときもあった。

だが、それじゃダメだ。

到着しても、ビリじゃ意味が無い。

走り出すバスには、無理にでも飛び乗らないといけない。

順番はとても大事だ。

でも、疲れたな…。

そんな時の、彼女の言葉。

「あなただけ、を指摘して」

その言葉が僕を救った。

かたつむり、ケーブル、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。自信を失っているときこそ、周囲と自分を比べてしまい勝ちです。そんな時に、自分を立ち直らせた彼女の言葉。救いの言葉が胸にしみこんで行く。ちよっとほのぼの？

狸、知床、緑

冬は流氷が有名だけど、春には緑に覆われる。
それは、命のきらめきが光り輝く季節。

魚を捕らえるクマ、ワシ。 それぞれに精一杯に生きている。
そう、ここは知床。 多様な命が息づく世界遺産の地。

この地に住み始めて、自然の素晴らしさを改めて感じるようになった。

もちろん、キツネもいる、そして…。

「ねえ、私たち、狸になれるかしら？」

「俺が狸親父ってことかい？」

「違うわよ。 狸って、一度ペアになると、生涯変わらないのよ」

狸、知床、緑（後書き）

うーん。かなり強引な展開ですね。 狸がうまく思いつかなくて、Wikiを見たらそんなことが書いてあったので、無理矢理そこを話を持ち込みました。

猫の集会所、ティッシュペーパー、ストーブ

皆、冬は好き？

私は大好きよ。

雪が好きなのかって？

いいえ。冬になるとストーブを点けるでしょ？

すると、ストーブの暖かさを求めて、猫が集まってくるでしょ。まるで猫の集会所みたいだね。

猫好きには堪らないわ！

え？ 猫なら春の方がいっぱい居るだろって？

まあ、確かに、ね。

けど、ティッシュペーパーが山ほど必要なの。

だって、外を歩き回った猫は花粉だらけなのよ！

それでも、ついなでちゃうのよ。

もう地獄よ。

うー。目が痒い。

猫の集会所、ティッシュペーパー、ストープ（後書き）

文学少女風三題嚠作成からもらったお題です。うーん。ちょっとお話の焦点がぼけてる感じですねえ……。落ちが無い……。

偶然、ナイキ、乙女

世の中、何事にも原因があるのよ。

単なる偶然なんて、ありえないのよ？

私のジャージ、アディダスなんて無いでしょ？

全部ナイキでしょ？

それは私がナイキが好きだからよ。

そして私は、自分の好きなことは徹底的に追求するのよ？

今は、乙女ってだけじゃ生きていけないから。

ね、判る？

土砂降りの雨、こんな夜遅く…。

しかも、ここは私の家から歩いて一時間よ？

もう！「やあ、偶然だね」　な訳ないでしょ！

会いに来たの！

察しなさいよ！

偶然、ナイキ、乙女（後書き）

うーん。ナイキが意味不明ですね…。それにしても、プリプリ怒
ってるみたいですけど、きっと照れてるだけですよ？　ね？

正座、お父さん、英語

私たちはこの国に閉じこもってちゃいけないわ。
そう、世界に飛び出さなきゃね。

その為には、英語は欠かせない。
はろお。 はあわいゆう。 あいむふあいん！
うん。 いい感じね。

けど、それだけじゃダメよ。
日本人として心はしっかりと持たなきゃ。
だから、座禅よ？

姿勢を正して正座して、気持ちを静かに、自分に誇りを持って！

さ、行きましょうか。

「うん。 お父さん！」

ボカ！

何度言えば判るの？ 私はママよ！

「だって、オカマじゃん！」

正座、お父さん、英語（後書き）

文学少女風三題嚟作成からもらったお題です。う。うーん。意味不明なことに…。

夏、私、百鬼夜行

この季節、人はみな浮かれ出す。

降り注ぐ陽の光に、突き抜けるような青い空。

確かに、開放的な気分になるだろう。

が、それは陽光が輝いている間だけ。

陽が落ちれば、より深い闇に包まれる。

そんな闇の底から、この世ならざる者が生まれる。

そう。 百鬼夜行だ。

亡者は、みなこの世に未練を残してる。

その未練が果たされない限り浮かばれない。

何度でも現れる。

何度でも、だ。

夏の福引でハワイ旅行を当てたい……。

それが私の未練だ。

夏、私、百鬼夜行（後書き）

診断メーカ、三題嚙メーカからのお題です。『私』が最初に福引を引いたのは何時なんでしょうね？ それでも、この魑魅魍魎の『私』は毎年、福引を引きに来るんですね。ってことは、その商店街でのお買い物もするんでしょうね！ うーん。でも、それは判り難いですよねえ。

洗濯機、携帯電話、シャワー

あんたなんか番号を教えるんじゃない……。

大体、今日のデートを何だと思ってるのよ！

彼が予約した豪華レストラン。彼はスーツでビシッと決めてる。私だって、出かける直前に入念にシャワーを浴びたし、一番の勝負服。

どういうことか判る？

しかもよ？ 彼がその言葉を発しようという、正にその時。

そんな時よ。あんたが私の携帯電話を鳴らしたのは！
で、何かと思えば。

「洗濯機のスイッチどこ？」ですって？

ふざけるなー！ もー！

洗濯機、携帯電話、シャワー（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 あはは。彼が必死にプロポーズの言葉を口にしようとした、正にその時。「洗濯機の使い方が判らない」って電話。「何してくれるのぉ!」って気分になりますよね？

ラブレター、たらい、リコーダー

いたい！

ぐわーん ごろんごろん

何これ？

何でこんなものが降ってくるの？

もしか、あなた、私を思いっきり馬鹿にしてるのかしら？

私は魔法使いよ？ それも最強の。

そう。これは杖よ、笛じゃないわ。

でも、そうね。リコーダーを吹けばコンテストの賞は総なめよね。

そして、この美貌！

学校では、下駄箱を開けるたびにラブレターの洪水が押し寄せるのよ。

なのに。

どじっこのくせに。

私の頭にたらいを降らせるなんて！

私はドリフじゃない！

ラブレター、たらい、リコーダー（後書き）

ライトノベルお題ジェネレータからもらったお題です。 えー、これは『よくわかる現代魔法』に出てくるキャラをイメージしました。主人公、たらいを降らせるしか能がない（？）魔法使いなんですよね。芸人もびつくり。あははは。（でも、元ネタを知らないと、何にも判らないし、落ちてないかも…）

秋刀魚、セロハンテープ、ジェットコースター

あら、どうしたの？

その顔、酷い顔ね？

ジェットコースターから放り出されたの？　なんてね。

え？　皆に言われた？

秋刀魚みたいに痩せてる？　安物？

もう。　そんな馬鹿なことを言う人は相手にしないの。

でも、私は知ってるわ。

あなたは強くて優しい人。

あの日、助けられてから、私はあなたを……。

まあ、スカートを留めるのにセロハンテープっていうのはちょっとアレだけだね。

そうね。

あなたが秋刀魚なら、私は大根おろし。

ずっと一緒よ。

秋刀魚、セロハンテープ、ジェットコースター（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ちよつと色々と強引ですが、なんとかラブストーリーに！悪口で秋刀魚って言うかなあ？「あんたって秋刀魚ね！」意味わかんない…。たはは。それにしても、大根おろしはムードないですねえ^^；

青、執筆、時計

今、僕の顔は真っ青に違いない。
いつもなら、これだけ追い詰められれば、言葉が浮かぶのだが…。

ちらり、と時計を見る。

あと一時間。 が、相変わらず原稿用紙はマッシロだ。

物語は決まってるのに……。
でも、一文字たりとも浮かばない。

視点を変えよう。 執筆が進むかもしれない。

そうだ、題材を目の前にして書けば、きつとうまく書ける。
あの人の体を持ってこよう。

きつといいお話が書けるぞ。

だって、あの人の顔はもう真っ青だ。

青、執筆、時計（後書き）

三題噺で10のお題、色の1からもらったお題です。うーん。ホラー？ ホラーってよりはブラックかなあ？ スランプの作家が、状況を想像する事が出来ずに、実際に事件を起こしてしまった。そして、それを物語にしようとして……。かなあ？ 何だか、設定としてはありきたりですねえ。

ワイシャツ、将棋、宇宙

私の仕事は将棋を指すこと。

将棋は、とても奥が深い。

たった九×九の盤上での戦いだけど、そこには深遠な宇宙がある。

それにしても、この対局は難しい。お互いの宇宙が似てる。

交流戦だから、予想すべきだったのかもしれない。

けど、好い勝負だわね。

あ、やなの見つけちゃった。

相手のワイシャツ、ボタンが取れかけてる。

なんで、朝、気付かなかったんだろう。

ああ、集中できない……。

「王手」

「え？」

むー。 夫は全く容赦が無い。

ワイシャツ、将棋、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。棋士の夫婦のお話、
ということだ…。ちょっと宇宙が強引かなあ？

歩く、要請、カーテン

これはちょっと違うかしら？

探し始めてみると、イメージ通りって意外とないものね。
何が？ と言えばカーテン。

今、新しい部屋に付けるカーテンを探してる。
もっと簡単に見つかると思ってたけど……。

今日は朝から歩き回ってる。

歩くと、色々な小物が目に付いて、つい色々買ってはいた。

けど、本命のカーテンがまだだった。

ふと、爽やかで明るい感じの一枚に目を留める。
「これ、いい感じよね」

そう。 彼からの要請は明るい部屋、だ。

歩く、要請、カーテン（後書き）

三題噺で10のお題、動詞の1からもらったお題です。新しい部屋に付けるカーテンを探してる、彼からの要請は明るい部屋。二人で住む部屋なら、二人で探せばいいのに、どうして一人で探してるんでしょうね？ その辺の設定が思いついてないなあ……。自分の部屋だけど、彼が良く遊びに来る？ 書き始めたときのイメージは新婚の新居に付けるカーテンを探してるってイメージだったんですけどね……。

印鑑、鈴、電車

出会った頃は近くにいた。

朝、カバンを手にしたときに鳴る、鈴の音が聞こえるくらいに。私たちが離れるなんて考えもしなかった。

だが、常に予想は裏切られる。

電車で何時間もかかる距離に離れてしまった。

もう鈴の音は聞こえなかった。

でも、心の声は……。

そう信じたかった。

けど、連絡も途切れてしまった。

それでも、想いは途切れなかった。

やっと触れ合える距離を手に入れた。

必要だったのは想いを言葉にする勇氣。そして印鑑。

印鑑、鈴、電車（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。離れ離れになった幼馴染、近くに居たところには信じられないようなちょっとしたことで関係を失いそうになってしまった、このままではきつと失ってしまう。その先を想像したとき……。

罪、セロハンテープ、×切

紙が破れたのなら、セロハンテープで直せる。
けど、心の傷は……。

これ以上、傷付けあいたくなんてない。

それは判ってる。

けど、一度ずれた関係が元に戻せない。

素直になれない罪には、不安という罰が科せられた。

一言。

そう、たった一言で変わる。

この一言に×切はないと信じてる。

でも、お互いに不安な時間は、いずれ×切を作るかもしれない。
素直になれば答えは決まってる。

勇気を出そう。 これ以上罪を重ねることは止めよう。

罪、セロハンテープ、メ切（後書き）

三題嚙で10のお題、ブラックの1からもらったお題です。一度こじれた関係って驚くほど修復するのが難しかったりしますよね。そして、近くに居れば居るほどその傾向が強いかも。でも、勇気を持って素直にならないと、どんなに近くに居る人でも、失うことが……。

かたつむり、怪獣、バス

プロポーズを待つ間って、どんな感じ？

彼のためらいが、かたつむりの進み具合を見る様で、もどかしいかしら？

でも、私だって舞い上がってるから、そんな余裕なんかないわ。照れまくって、バッグを何回も持ち替えたりするんだわ。

きつとね。

人間はそう。

じゃあ、怪獣はどうなんだろう？

やっぱり照れるわよね？

手にしたバスや電車を何度も持ち替えたりするのかしら？

そして、照れくささに身をよじりながら東京タワーを引きちぎるの！

かたつむり、怪獣、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。あはは。怪獣のプロポーズ。がー！ぎゃー！って言いながら、恥ずかしがって後樂園でジタバタ。そして、東京タワーをぐちゃぐちゃに……。うーん、ちょっと展開が強引（いや、そういう問題じゃない気もしますけど）だったかな？

オリンピック、日本刀、コンビニ

なんですって！

私がちょー楽しみにしていた極上プリンを食べた？
何てことするの！

おいしかった。　じゃなーい！

この辺のコンビニじゃ売ってないのよ？

今すぐ買ってきて。

山向ここのコンビニにならあるから！

さあ、早く行かないと、包丁投げるわよ！

何ですって？

怖い？　当たり前よ！　今の私は日本刀より切れるわよ？
スパッと切られなくなったらさっさと行く！

そうね。

オリンピックレコードを超える勢いで買って来たらキスしてあげる

オリンピック、日本刀、コンビ二（後書き）

ひゃー。包丁投げたら危ないですね。日本刀がちょっと強引かなあ？ うーん。ちょっと最近、強引な展開が目立ってるかも…。ちよーッンデレ？

サッカー、ステッキ、電車

スポーツは得意だったな。

割とサッカー馬鹿だったよ。

今でも歩くのは好きだよ。

一駅くらいなら、電車なんか使わずに歩いてる。

だが、あの場所で、あのとき起きたこと。

あれ以来、スポーツは止める事にしたんだ。

後悔してるかって？

とんでもない！ 感謝してるんだ。

君と一緒に居た。

だから、君を救うことが出来た。

それが僕の誇りだし、悦びだよ。

これは動きの鈍い足を助ける為、だけじゃない。

そう。このステッキは僕の勲章なんだ。

サッカー、ステッキ、電車（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。ちょっと重いですね。何かの事故に巻き込まれて、彼女をかばって傷を負った彼。でも、そこにいたことで彼女を救えた。だから、そのことを後悔したことなんてないよ。って、ちょっとかっこよすぎ？

広告、アホウドリ、台風

彼に関する印象っていうのは、あまりいいものじゃないと思う。
判りにくいよね。

いつそ広告でも出せばいいのに。

それでも、私以外には判らないかもしれない。

まるでアホウドリみたいなの。

この、台風の只中の様な日々をゆったりと漂ってる。

それは落ち着いてる。 と思う。

けど、ニブイ、というのも確かにあるかも。

アホウドリって絶滅しそうになったんだよね？

彼は私が守りたい。

けど、どうやってニブチンの彼に気付いてもらおう？

広告、アホウドリ、台風（後書き）

もう、私はこんなに彼が好きなのに…。 周囲は彼のよさに気が付かないだけ。 けど、彼のニブさも相当なもの。 必死にアピールしても気が付いてくれない。 でも、きつといつか振り向かせて見せるってつもり。（ライバルが少ないのが唯一の救い？ナンチャッテ）

ベランダ、名湯、醤油

次の醤油？ またその話？ こんな温泉に来ても醤油なの？
もちろん、望むところよ。

基本としては濃い口。 ここが原点ね。
で、たまり程じゃないけど、少し大豆を増やすの。
で……。

あら？ あなた顔が真っ赤よ？

もう湯あたり？

思い出の名湯なのに具合が悪くなったんじゃバカみたいよね？

ベランダにでも行きましょう？ 夜風が気持ちいいわ。

ああ、懐かしいわ。

もちろん、忘れる訳ないでしょ。

この場所で、あなたの夢が二人の夢になったのよ？

ベランダ、名湯、醤油（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ちょっと遠まわしで
しょうか？ そう、かつて、ここのベランダで、プロポーズされて
一緒に夢を追う様になった。それがおいしい醤油を作ること、っ
ていうのは判りにくいし、不思議ですね…。 うわー無理無理だ！。

黄、確認、鼻

今度こそ、合格してみせる！

そう大見得を切ったものの、大丈夫かな？
このままじゃ次回の検定も黄信号かもしれない。

スランプだなあ……。

だからって、放り出す訳にはいかない。

よし。基本から確認しなおそう。

まず、においの伝達は……。

ん？ 何だか、とっても好い匂いがする。

ああ、リラックスするなあ。

そうか、彼女が何かをアロマを作ってくれたんだ。

僕がスランプだって、よくわかるな。

さすがインストラクター。鼻が利くよね。

黄、確認、鼻（後書き）

三題噺で10のお題、色の2からもらったお題です。うーん。良くわからなくなって、無理やりアロマ検定を受けようとしている男の子を応援する、アロマインストラクターの恋人ってことです。うーん。お話として、終わってない感じ…。

物干し竿、コンセント、エンジン

ねえ、これ、画期的だと思わない？

なんと、雨の日でも洗濯物が乾くのよ？

しかも、ゆっくり洗う暇がない人の為に、自動で洗濯するオプションもあるわ。

まあ、このオプションにはコンセントが必要なんだけど……。

でもでも、洗濯物を乾かすのには、コンセントは必要ないわ。専用のエンジンが付いてるから。

乾くの、すごく早いよ。

え？ そんな洗濯機はもうあるって？

これは、洗濯機じゃないのよ！

これは世界初、全自動の物干し竿よ！

物干し竿、コンセント、エンジン（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。ちょっと苦しいかも……。最初は雨の日でも乾く物干し竿、からの出発、そして、脱水、洗濯へと機能を追加していった、全自動物干し竿！ いやー。落ちが弱いかも……。

聞く、計画、奪回

私は自分の人生の計画を作って、計画に従って生きてきたわ。もちろん、最初から完璧な計画なんてないわ。

だから、人の意見を聞くべきところは、きちんと聞いて採りいれてきたわ。

けど、あるとき、計画が大きく破綻してしまったの。

もう、元々の計画通りの人生を奪回することは難しいと思う。

まったく、あいつに出会ったおかげで大変よ。

何が正解か、さっぱり判らない。

とにかく飛び込むしかないわね。

ふふ。でも、これが恋なのね。

聞く、計画、奪回（後書き）

三題嚙で10のお題、動詞の2からもらったお題です。元々の計画には恋は入ってなかったんですね。そしてきつと、予想外の相手に恋してしまったんですね。でも、元の計画通りの人生ではなくなつたかもしれませんけど、でも、より素晴らしい人生になるはずですね。

麦、からくり、うなぎ

麦って言うと、どんなイメージ？

お米の代わりに食べるのは、味に馴染めない人もいるかしらね

でも、全然別の使い方があるのよ。

どんなからくりかって？　ちょっとした発想の転換ね。

そして、何か美味しい食べ物が一緒だと一層引き立つわね。

そう。焼き鳥でも、ほっけでも、あさりバターでも。

そうね、ちょっと贅沢するのなら、うなぎなんかもいいわね。

もっかわかったでしょ？

そ。きりつと冷えて、程よい泡立ち。

へへ。生き返るわよね！

麦、からくり、うなぎ（後書き）

うーん。ちょっと（いえ、大分？）苦しいかなあ……。 お話にはな
ってないし。 でも、これから季節にはビールはとってもおいし
いですよねー！ でもでも、とにかく！ お腹の周囲には要注意！
です。

たけのこ、ダンボール、バス

あ…。

ふと、荷物をダンボールに移す手を止め、ノートを手にした。
それは交換日記だった。

「こんな所にあつたのね」

きっかけを得て、思い出が、まるで雨後のたけのこの様に溢れてきた。

それは、幼馴染が恋人に変わった瞬間の記憶だった。

気がついた時にはとなりにいた。
高校のときに、一歩近づいた。

卒業後、バスで一時間の距離が開いた。

一度は途切れてしまった。

けど今、その距離を……。

思わず笑顔になると、荷造りを再開した。

たけのこ、ダンボール、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。 あはは。想定としては、私の王道パターンですね。幼馴染から恋人に。高校卒業のあと、進路の違いから一度は距離が開いてしまう。けど、どんなに淡くなることがあっても、想いが消えることはなかった。きっかけは偶然だったのでしょうか？ それとも、意識して行動を起こしたのでしょうか？

略奪、雀、ベルト

略奪することは俺たちの仕事だ。

だが、決して無差別に略奪する訳じゃない。

難しい標的から盗んでこそその高い技術だ。

この泥棒選手権のチャンピオンベルトに懸けても、恥ずかしい盗みはしない。

日々の暮らしが精一杯、そんな人たちから雀の涙程度の金品を巻き上げる。

そんな恥ずかしいことをしたら沽券に係わるってもんだ。

そして、盗んだんじゃ意味がないものがある。

人生の宝。

それは正々堂々と、だ。

「お嬢さんを、私に下さい！」

略奪、雀、ベルト（後書き）

三題噺で10のお題、ブラックの2からもらったお題です。泥棒たちの暗黙の掟、盗んでいいものは限られてる。そして、人生の伴侶は盗んだりしたら意味がない。なんて、どこからそんな話に？

視覚、心霊写真、水槽

この水槽では、きれいな魚たちがいっぱい泳いでる。
その魚を見ようと、大勢の人たちが訪れる。

休日など大変な混雑になる。
写真を撮る人もたくさんいる。

条件は十分に整っているはずだ。
なのに、今まで一度も心霊写真が撮れたってことはない。

最近のカメラは視覚的なものしか写らないんだろうか？
けど、それは昔から変わらないはず。
他では時々心霊写真が撮れるらしい……。

なのにどうして？

僕は、もう二十年以上もここにいるのに。

視覚、心靈写真、水槽（後書き）

もう、ずっと幽霊の僕がここにいるのに、誰にも気が付いてもらえない。脅かそうって訳じゃないんだけど、自分では一生懸命に、みんなのカメラに写ろうと努力しているのに、なのに、だれのカメラにも写らない。明日こそは！　なんて燃える幽霊さんでした。

天体観測、ケーブル、宇宙

天体観測ってのは、普通は星を見に行くんだよね。
でも、僕は違った。

星を見なかった訳じゃない。寧ろ、とてもよく見た。
彼女の語る蘊蓄を聞きながら。

今、彼女は宇宙にとりつかれていてから仕方ない。

他の人間はとくに逃げ出してる。

僕は彼女にケーブルで縛られてるから逃げられない。

逃げ遅れた訳じゃない。

逃げる気なんてないさ。

いつか彼女の興味が僕に向く。その日を信じてるから。

このマニアぶり、ちょっと怖いけどね。

天体観測、ケーブル、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。今、彼女の興味は宇宙のことではない。その前はきつと別のことだったんでしょね。彼女はきつと天性のマニア（オタク？）で、興味をもったことは徹底的に調べる。そんな彼女が大好きな僕は、彼女のそばで彼女が語る色々な蘊蓄を聞き続けてるんです。いつか、彼女の興味が自分に向く日を信じ、そして恐れながら……。

赤、睡眠、名簿

ほーら、眠れえ、眠れえ。

うーん。

僕、まだ力が足りないのかな。

あの人間たちなら睡眠不足で、もっと簡単かと思ったけど、違うのかな？

あ！　すごい！　次々と眠らせていく。
すごいパワーだ。

やっぱり僕がまだ未熟なんだ。

このままじゃ、また赤点だ……。

え？　何してるのかって？

妖精、春のうただねコンテストだよ。

でも、うまく眠らせることが出来ない。

けど、あの教授がすごいんだ。

出席名簿が終わらないうちに、全員が夢の国だもの！

赤、睡眠、名簿（後書き）

三題嚙で10のお題、色の3からもらったお題です。春の妖精は、人間を眠らせる競争をしてるんですよ、きつとね！ だから、春は眠いんです。ええ、人間には逆らえません。けど、その妖精よりすごい力をもってるのが大学教授です。中でも数学の教授は強烈なパワーです！もう、一瞬で熟睡です。（うわーごめんなさい）

石ころ、虫眼鏡、エンジン

これはね、魔法の虫眼鏡なんだ。

どんな魔法かっていうとね、探してるものが見えるんだよ。

例えば、この車。動かないよね？

で、この虫眼鏡で見ていくと。

ほら、エンジンが真っ赤に見えるでしょ？

つまりエンジンが壊れてて動かないんだよ。　すごいでしょ！

エンジンが壊れてるのはすぐわかる？　騙されてるって？

そうかなあ？

じゃ、この石ころを見てみようか？

あれ？　何か字が書いてあるな。

ん？　好き？

これ、もしかして、きみが書いたの？

石ころ、虫眼鏡、エンジン（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。魔法のXXシリーズ（？）です。石ころにラブレターでも書いたのでしょうか。うーん。かなーり強引です。

見る、織物、左利き

彼女は、家にある機織を使いたいと言う。

なぜか、機織りの最中を覗いちゃだめ、と言った。
はて、鶴を助けた覚えはないけどな？

「見るくらい、いいじゃないか」と言ったら。
「覗いたらクロス」　そう言われてしまった。

けど、彼女はかなり苦勞している様だった。

「もう！　なんでこんなところに！」

「きー！　届かない！」

すごい文句。

きつと左利きなんだ。

そつと覗く。

思いつきり『好き！』とか織ってる。

やはり左利きだ。

しかもツンデレ。

見る、織物、左利き（後書き）

三題噺で10のお題、動詞の3からもらったお題です。うーん。ラスト、意味が分からない感じはありますね。左利きもかなりいい加減な使い方です。きっと、世の中の大半のものは右利きが基準で作られてるから、使いにくいかも？　なんて勝手に想像しました。

討ち入り、青龍、メリークリスマス

「ちよつといいかしら」

え？

どうして君は、そんな凶悪な刀を持つてるのかな？
それって、青龍刀って奴だよな？

目が怖いよ？ 討ち入りでもするの？

危ないなあ、僕に向けないでよ。

「このワイシャツ、このキスマークはなに？」

あれ？ なんだろ？

「とぼけないで！」

いや、ほんとだつて。 って、あれ？

「なによ」

それ、僕のワイシャツじゃないな。

「あれ？」

あれ？ じゃないぞ！

「えっと……」

で？

「えへ。 メリークリスマス」

誤魔化すな！

討ち入り、青龍、メリークリスマス（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。ちょっと強引すぎる奥様ですね。さて、誰のワイシャツなんでしょうね？ でも、とぼけるってことは、何かヤマシイことがあるんでしょうか？ それにしても、こんな強引な展開で誤魔化そうだなんて、よっぽど困ってる（アイディアにつまってる）んですね。でへ。

印鑑、虫眼鏡、英語

これからの国際社会、英語が必要なのは分かってるわ？
だからって、こんなに教材がいるの？

「はい！これが最低限の教材になります」
そうなの？
仕方ないわねえ。

「では、ここに印鑑をお願いします」

ちよつと待つて？ この虫眼鏡でよく見るわね！
「えー！」

どうしたの？ 読まれたら不味いことでも書いてあるのかしら？

「い、いえ……」

あら？ この隅っこに小さく何か書いてあるわね？
「そ、それは！」

ふーん。 やっぱ止めるわね！
「えー」

印鑑、虫眼鏡、英語（後書き）

文学少女風三題嚟作成からもらったお題です。わ！ また虫眼鏡？
さすがに魔法の虫眼鏡の連続はダメだよねえ、と思いながら書き
ました。 ちょっと虫眼鏡が弱かったかなあ？ それにしても、何
が書いてあったんでしょうねえ？（いいかげん）

欲望、咳、準備

どうも、最近は咳がひどい。

別に血を吐いたりする訳じゃないから、大丈夫だろうけど。

でも、体には気を付けていたい。

なに年寄りくさいこと言ってるんだって？

だって、僕にはやりたいことがたくさんあるんだ。

諦める気は無い。

「やりたいことってなによ？」

よくぞ聞いてくれました。

まずはこれからだね。

この車両が今月一杯で引退だから、その前に写真を撮らなきゃ。
そして次は……。

ああ、欲望は限りない！

「単なるテツじゃん！」

欲望、咳、準備（後書き）

三題噺で10のお題、ブラックの3からもらったお題です。テツの人が、何時、何を追いかけているのかはよく判りませんが、時々駅のホームの端でカメラを構えてる人たちがいますよね。まあ、好きならしょうがないですよ。それにしても、確かに体は基本ですよ。

会員権、優しさ、肉球

ねえ、あなた。 会員権を買ってくれない？
私、とっても欲しいのよ。

「またかい？ 今度は、何の会なんだい」

うふふ。 内緒。 じゃダメ？

「まあ、いいさ」

その優しさが大好きよ！

「幾らなんだい？ あまり高いのは勘弁してくれよ」
そんなに高くないわ？ 百円よ！

「安いな。 それなら、自分で買えばいいじゃないか」
あなたに買って欲しいのよ。

「もちろんいいよ」

とーっても可愛いのよ！

実は、もうあなたの分も買ったの。

ほら、肉球愛好会よ！

会員権、優しさ、肉球（後書き）

三題嚙お題作成からもらったお題です。えーと、単に甘えてるだけかも知れませんが……。肉球愛好会ってなんだろう？？それに百円って。どこかのスーパールの会員の入会金より安い！

窓拭き、名湯、五十音

最近、女子寮のお風呂が改築されて、とても気持ちがいい。
お湯そのものは変わらない。

でも、見晴らしがよくなって、断然気分がいい。

けど最近、男子の様子が変なの。

ん？

あれ？ 何でこんな時間に窓拭きしてるの？

まさか、覗き？

当番は五十音だし。あれは、きっと星野くんね？
こら！

「わ！ きみだったのか」

何してるの？

「みんなが、窓から名湯が見えるっていうから」

何それ？ もう、ガキねえ。

二人でオトナの遊びをしましょうか？ ね

窓拭き、名湯、五十音（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ダメですねえ、覗きなんかしてる男子はもっとびしっと怒らないとね！ そうそう。だから、本当は、ラストは「覗きを先生にばらされなくなかったら、私と付き合って」でしょー。え？ 違う？

金、閉鎖、隣人

昔はよかったな。

僕も気前がよかった。

もう、友達だろうが、隣人だろうが、知らない人でも接待してたよ。

でも、景気が悪くなると、あつという間だね。

右肩下がりなんてやさしいもんじゃないね。 崖から落ちるようだよ。

あるとき作ったいろんな組織は、ほとんど閉鎖しちゃったよ。

今では、この服が唯一の思い出だね。

もう、くすんじやったけど。

あの頃は、金ぴかだったのに。

え？

そんな無駄なお金を使うからだって？

ごもつともです。

金、閉鎖、隣人（後書き）

三題嚙で10のお題、色の4からもらったお題です。バブルかなんかで羽振りのよかった人が、バブル崩壊などで破産したところでしょうか？ まあ、服を金ぴかにするくらいじゃ破産はしないかもしれませんけどね。

黒、カプセル、財布

タイムカプセル、あなたは何を入れるの？

「記念硬貨でも入れようかな」

思い出の品ってことね？

万博、二人で行ったのよね？

あなただったら、お財布失くすから、色々私が払ったのよね？

「変なこと覚えてるな」

あら、大事よ？ あなたにお財布を預けたらダメって判ったもの。

だから、あなたのお財布は私のカプセルに入れて。

「なんで」

あなた失くすし、預かってあげる。

「おまえ、お腹、真っ黒だろ」

いいじゃない。 お小遣いはあげるわよ。

黒、カプセル、財布（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。彼のお財布をタイムカプセルに自分のタイムカプセルに入れてしまおうとする彼女。別に取
り上げるつもりじゃないんです。単に、将来、彼と結婚する気満
々で、彼がすっかり失くさないように預かってあげるって……。
あはは、すごい無理がありますね……。

星座、怪獣、猫じゃらし

夜空に広がる星を見てみると、ロマンチックな気分になるよね。
ほら。あの星座をみてごらんよ。

「あれはなんなの？」

あれは怪獣座だよ。

「なにそれ？ そんな星座、ないでしょ？」

僕が考えた星座だもの。

で、となりの星座、あれは雌怪獣なんだ！

「なあに？ まさか私ってこと？」

うん。その間にあるの、あれは猫じゃらし座。 あれでじゃらすんだ。

「何それ、猫じゃらしなんていやよ」

じゃあ……。

代わりにこの指輪、受け取ってくれない？

星座、怪獣、猫じゃらし（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。どんな展開でしょう？
まあ、結局は夜空を見ながらのプロポーズってはずなんですけど、
むちゃくちゃすぎて、意味不明かも……。

眠る、移動、クーラー

これからの季節、クーラーがないとすごく辛いと思う。
それにしても、なんでこんなに暑いんだろう？

移動性高気圧とか、台風とか、そんなもののせいだろうか？

けど、昔はこんなに暑くなかった気がする。

きつと、コンクリートだらけのせいだろうな。

それにしても暑い。

夜も暑くて、寝付けなくてさ。 辛いんだよ。

せめて、オフィスはもっと快適にしてくれないと。

こんなに暑くちゃゆっくり眠ることもできない。

仕事するしか無いじゃん。

眠る、移動、クーラー（後書き）

三題嚙で10のお題、動詞の4からもらったお題です。結局、昼間、冷房の効いたオフィスでお昼寝したい、ってことでしょうか？ダメじゃん。

踏切、今の気分、彫刻刀

少し前に彫刻刀なんかを手にしていたら、今、僕はここに居なかったかもしれない。

本当にどん底だった。

少しずつだけど、前を向けるようになってきた。
今は視線を上に向けることだって出来る。

ふと、満開の桜に気付いた。

途端に何年も前の記憶があふれでた。

少し前だったら落ち込んだだろう。

今の気分は落ち着いている。

だが、この苦しい愛しさは久しぶりだ。
彼女は今、どうしてるだろう？

この踏切、懐かしいな。

あ。今の人は……。

踏切、今の気分、彫刻刀（後書き）

三題噺お題作成からもらったお題です。えー。判る人には判っちゃうかも知れませんが、『秒速5センチメートル』の貴樹くんが、そのラストで感じたかな、という想いのつもりです。何年たっても消せない想い、というのもある。なんてね。この三題噺さんまいで、秒速関連のお話を書いたのは初めてですねえ。

緑のカーテン、馬、バス

バスに乗って隅から隅まで見たけれど、この町は、とっても緑が多いわね？

どうやら、緑のカーテンを着けてないのはうちだけよ。

という訳で、家でも緑のカーテンを作らない？
結構すずしくなるみたいよ？

今年はエアコン使うのは控えなきゃね。
っていうか、これからはなるべく控えなきゃね。

それに、にんじんとかを育てればお隣のお馬さんにもあげられるしね？

いいと思わない？

え？ うふふ。

確かに、カーテンより木陰の方がキス向きね？

緑のカーテン、馬、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。方向性が見えなかったので、強引に恋愛方面に急展開してみました。緑のカーテン、蔓とかを壁とかに這わせると、緑も増えるし、水も循環して、本当にすずしくなるみたいです。

軍隊、ネクタイ、穴

今日は穴掘り大会。

競うのは、深さ、均一さ、きれいさの技術点。
そして、何と言っても形の美しさの芸術点だ。

現役はもちろん、軍隊経験のある人は穴掘りは得意だ。
きりりとネクタイを締めて、整然と掘っている。

だが、塹壕のつもりで掘るせいか、芸術点が低めでいつも優勝を
逃している。

僕の狙いはもちろん優勝だ。

銀のスコップをもらうんだ。

銀のスコップを持った子供は幸せになるっていうじゃん。

え？ それはスプーン？ うそ……。

軍隊、ネクタイ、穴（後書き）

三題噺で10のお題、ブラックの4からもらったお題です。うーん。ネクタイがちょっといい加減な使い方だったかなあ。軍人さん、きりつとネクタイを締めてそうだから。ねえ？ スコップとスプーンの勘違いは、ちょーごーいんですね。それにしても、全国穴掘り大会っていうのは本当にあるんですよ！ 本当は30分より深い穴を掘る、という競技らしいです。そして、優勝の副賞は金メッキのスコップだそうです。

パフェ、林間学校、未完

去年の林間学校は楽しかった。

もちろん、与えられた課題は全てこなした。

未完のまま放置するなんて、あり得ない。

だが……。

あの場所で気が付いたことがある。

それはずっと放置してる。

どうすればいい？

いや、判ってる。 どうすればいいのかは判ってる。

でも動けない。

情けない。

向かいでパフェを食べる人をじっと見た。

「どうしたの？ 目が怖いよ？」

そう言いながら微笑んでる。

昔から変わらない優しい笑顔。

さあ、勇気を出すんだ。

パフエ、林間学校、未完（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。未完がかなり弱いかな、とは思いますが……。ええ、パフエを食べてる人が誰なのか、なんで目が怖いのか、それは判りますよね？　そうです。単に緊張してるんです。その彼に気が付いているのかいないのか、それでも、彼を見詰めてにこやかに笑う彼女。はい。またまたやってしまいました。あはは。

鉛筆、キャンピングカー、大学

僕は馬鹿でかいキャンピングカーを持ってる。
けど、一人じゃ寂しい車だ。

寂しい？ 当然だ。 勇気を出せなかったんだから。

彼女と知り合ったのは大学のサークルだった。
親しかった、と思う。

ずっと変わらない距離感。
その距離感に安心してた。

いや、臆病だった。

彼女が鉛筆で『さよなら』と書いたとき、書き直すべきだったの
だろうか？

無反応な僕を置いて、彼女は行ってしまった。

まだ間に合うだろうか？

素直になりたい、そう思った。

鉛筆、キャンピングカー、大学（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。鉛筆がかなり強引ですね。最初はキャンピングカーで傷心旅行って感じで書き始めたんですけど、うまく繋がらなくて、ちよつと方向転換を……。でも、まだちよつと不自然かなあ？ さあ、彼は素直になれたのでしょうか？ 間に合ったのでしょうか？

銀、調査、布団

銀のスプーンを持って生まれた子は裕福になれると言う。
本当だろうか？

だから、私は調査することにした。

ただ、私の方向性は普通とは違う。

どうやって、生まれる前の子供にスプーンを渡すか？
逆子だったら大変では？

そんな疑問を感じた。

裕福になれるかどうか、はいいのかって？

だって、そんなことは重要じゃない。

今、そんなに裕福じゃないけど幸せなもの。

となりで、同じ布団で温もりを分かち合う。
そんなあなたに出会えたから。

銀、調査、布団（後書き）

三題噺で10のお題、色の5からもらったお題です。あはは。どうして、こっちの展開になってしまったのでしょうか？最初はじゃあ、銀の布団は？とか金のスプーンは？なんて、考えたんですけど、そっちの方向はお話が浮かびませんでした。ので、こんな話に、疑問を感じる方向性がちよつとずれてる彼女でした。まあ、布団がちよつと強引かな、とは思いましたが、まあ、許容範囲かな？と……。

釘、単語帳、手作り

ね。手作りって素敵でしょ？
心がこもってるもの。

「うん。 手作りのお菓子はすごくおいしいよね」

あら、食べるものばかり？
お勉強は？ 頑張らないとね？

「もちろん頑張ってるさ、単語帳だってほら」
その単語帳も手作り？

「これは隣のクラスの女の子にもらったんだ」
何ですって！

「な、なんだよ」

私というものがあらながら！ 許さないわ！

「な、なにそれ」
これは、手作りの人形よ。

心をこめて、この五寸釘で打ち付けるの！

「ぎゃー」

釘、単語帳、手作り（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。もちろん、お人形は「わら」で出来てるんですね。浮気ものは天誅です。くらえ！五寸釘！つて直接刺したら血が出ますね。（もはや、意味不明）まあ、彼は海よりも深く反省して、二度と浮気をしないでしよう。

木の机、鉛筆、味噌

スチールのデスクは、表面が平らなのがいい。
下敷きなしで書き物をして引つかかったりしないから。
とても実用的だ。

でも、やっぱり硬質っていうか、温もりがないよね。
その点、木の机っていうのは、風情があっていいよね。

けど、デコボコしてるのが困りものだ。
尖った鉛筆なんか使っていると、紙に穴が開いたりするから。

でも、そこが味噌だったんだ。
僕も、そして彼女も同じことに困ってた。

それが僕たち最初の共通の話題だったんだ。

木の机、鉛筆、味噌（後書き）

文学少女風三題嚠作成からもらったお題です。味噌、この使い方では、漢字の味噌を使うことはあまりないかなあ、とは思いましたが。ちよつと強引でしょうか？ 昔の学校にあった木の机、木目のこつこつが引つかかって、結構破けちゃうんですよね。テストの用紙とか……。

叫ぶ、権威、中身

この物語のどこがダメだと言うの？

ダメだと言うなら、ダメな部分を明示して欲しい。

こんな批評じゃ、中身の何がダメなのか分からない。
もう！ 直接本人に訊くしかないわ！

窓を開け、お隣に向かって叫ぶ。

ちよつと！

「なんだよ」

この物語、何がダメなのよ！

「だって、全然ダメだよ」

あなたは文芸の権威かも知れないけど、さっぱり判らない！

「だって、これ、俺たちだろ」

そ、そうよ。

「なら、ハッピーエンドじゃなきゃダメだ」

バカ。

叫ぶ、権威、中身（後書き）

三題噺で10のお題、動詞の5からもらったお題です。そうですね、彼女が書いた小説、それに幼馴染が意味不明の批判的批評を付けた、その理由は……。あはは、素直にならなきゃねえ？

ターゲット、エレベーターガール、ハードカバー

私はエレベーターガール。

そして操るのは人生のエレベーターだ。

色んな人が乗ってる。

当然、それぞれ行き先は違う。

例えば、あのハードカバーの本を食い入るように読んでいる人。
あの人はノーベル賞行きだ。

そして、あそこでそわそわしてる人。

最近、ろくな物語が書けない作家だ。

近いうちに盗作がばれて牢屋行きになるみたい。

私？

自分の行き先は、自分では分からないの。

でも、ターゲットは決まってる。

それは、あなたのとなり。

ターゲット、エレベーターガール、ハードカバー（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。あはは。最後は結局、そういう方向で！人生のエレベーター、アップダウンが激しそうです！

猫の集会所、キャンピングカー、猫じゃらし

猫っていいよね。

だから僕のキャンピングカーはすごいんだ。

この車には猫のごはんがいっぱい積んである。

そして、猫と遊ぶ為のおもちゃだつて何でも揃つてる。

猫じゃらしなんか二十個はある。

もちろん、猫用の出入り口もある。

そう。この車は、どこでも猫の集会所になる様に出来てるんだ。

そして、猫と遊ぶんだ。

あ、あのアメショー、凄く可愛いな。

家に連れて帰ったら、彼女は喜んでくれるかな？

僕の猫好きは彼女のせいだから。

猫の集会所、キャンピングカー、猫じゃらし（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。またまたかなりの強
引きです。猫好きの彼女と一緒にすごうちに自分も猫好きになっ
た人、家に連れて帰ったら、ってことはもう、結婚してるのかな？

救援、定期券、初歩

僕が所属しているサークルは面白いよ。

まず、名前がすごい。名前は『救援同好会』。

ほら、面白そうだろ？

救援好きの集まり。楽しそうでしょ？

入会して、まずは救援の初歩を叩き込まれるんだ。

そして、救援の為に道具を入れる為のかばんも買う。
高くないよ？ たったの十万円だよ。

そして、徳の高い司祭の講話を受講するんだ。

司祭様の講話は一回二万円。

因みに、一年間フリーのありがたい定期券は百万円。

お得でしょ？ きみもどう？

救援、定期券、初歩（後書き）

三題嚟で10のお題、ブラックの5からもらったお題です。いやあ、何が救援なのやらって感じですけど。すみ講でしよつかねえ？ちよっと定期券が苦しいかなあ……。

歯科、高齢化社会、ファミコンチャンプ

かつてのファミコンチャンプはどうしてるかな？
既に相当の老人だろう。

私だって相当の歳だ。

総入れ歯一步手前で、歯科通いさ。

たからなのか、うまく発音できない言葉もある。
だがチャットなら問題ない。

だからネットは得意だ。

オンラインゲームでは自称中学生で、皆信じてる。

今日もパーティで狩に出発だ。

「おまたせ」

「行こうか」

が、ここにも高齢化社会は浸透していた。

その自称小学生のプレイヤーが、実は年上だとは……。

歯科、高齢化社会、ファミコンチャンプ（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。ねー、オンラインゲームって相手の年齢なんて分かんないですよねえ。パソコンの前で「おっと、入れ歯が」なんてやってたりして。私？ 私は、まだソコマデは行ってません、ええ。 ホントだってば！

ティーカップ、馬、ゴルフ練習所

昔は貴族の趣味と言えば乗馬と決まっていた。

馬に乗り、柔らかな日差しを受けながらロットン・ロウを巡る。

帰ってきたら、みんなで優雅にお茶会。

ティーカップはウェッジウッド。

けど、いつまでも同じことだけでは進歩が無い。

だから、新しいことに目を向ける様にしたんだよ。

で、見つけたのがゴルフなんだ。

きちんと練習する為に、会員権も買ったんだ。

今日もゴルフ練習場に行くんだ。

今日も居るかな？

受付の子、可愛いんだよな

ティーカップ、馬、ゴルフ練習所（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。あはは。結局、お目当ては女の子なんでしょうかね？ うーん。貴族って振りはどこかに生きてるのでしょうか……。あはは。ティーカップ、「ロイヤル・コペンハーゲン」の方が一般的には有名なあ、とも思いましたけど、まあ、イギリスってことにしたので「ウェッジウッド」で！
へへ。トーゼンぐぐりました。

紫、信頼、中学校

中学校に通ってる頃は、誰も信頼してなかったかな。そして、もっと尖ってたと思う。

私としてはとても真面目に、そして頑固に、一人で突っ張ってた。勉強の競い合いも、クラスメートとのバカ話さえも、気を張ってた。

でも、いつの頃だろう。私の尖った角が丸くなり始めたのは。

それにしても目が回る。
どうしてだろう？

「おまえ、顔が紫色だぞ」

ごめんなさい。もう、そんなに飲みません。

あなたと一緒にだと、つい安心しちゃって……。

紫、信頼、中学校（後書き）

三題噺で10のお題、色の6からもらったお題です。うーん。結局、ただの酔っ払い？しかも二日酔い。落ちへの展開が弱いなあ……。でも、彼女の尖った気持ちをやわらかくした人、そんな人と共に歩む人生を手に入れた。だから幸せなんです。ええ。でも、酔っ払いの「もう、飲みません」は絶対に守られない。ええ、それは自信があります。

豊穰、朝食、アイテム

去年は凶作だった。食べるものなんてほとんどなかった。朝食の食卓にならんでいたのは、その辺の雑草だった。よく生き延びられたと思う。

だが、今年は豊穰の季節になるはず。

なぜって、タカタさんで買った魔法のアイテムがあるからだ。

早速使ってみよう。

まずは、ボトルの中身を頭にスプレーします？

妙な使い方だな。

で、次は？

えっと、ブラシでよくマッサージ？

それを毎日繰り返す？

なにこれ？

あれ？

あ！　これ親父の養毛剤じゃん！

豊穰、朝食、アイテム（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。う。うーん。苦しい……。
神様の種、悪魔の球根（なにそれ？ 思い付きにもほどがあるって
感じですね……。）、くらいがよかったかな？

ジーンズ、将棋、宇宙

将棋盤の上には宇宙がある。

自分たちの宇宙をぶつけ合う、それが対局だ。

あいつ。また、あのジーンズ穿いてる。

俺の部屋から奪っていったジーンズを。

何かゲンでも担いでるんだろっか？

確かに、この間の対局では惨敗してしまったけど。

今日はそうはいかないぞ。

「「お願いします」」

なあ、何で毎回そのジーンズなの？

「これ、好きな人にもらったの」

そう言っつて、にっこり。

え！

いや、あの、その、ええ？

「はい。王手」

ひきょうだ！

ジーンズ、将棋、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。あはは。冷静になつたときの強さ、はどうなのか知りませんが、こんなにも動揺してまともに考えられない様じゃ、そりゃー負けますよねえ。毎回、これでやられてるんでしょうか？でも、彼女、部屋に来てるんですね？きつと、彼女も必死に心の動揺を隠して頑張ってるんですよ。

泣く、海岸、香辛料

サークルの仲間で来た海。

私たちは海で泳いだり、パラソルの下で休んだり。

その海岸で、彼らは一生懸命に料理を作ってる。

ホントに単純なんだから。

「男のカレーって食べたいな」
って言っただけなのにね。

彼らは真剣だ。そして本格的なカレーの様だ。
ルー以外にも、色々な香辛料を使ってる。

どれどれ？

う。

これ、本当にオイシイ。

あいつってば驚いてる。

カレーってこんなにおいしいのかって……。

泣くな！

私、カレーは、苦手なの！

泣く、海岸、香辛料（後書き）

三題嚙で10のお題、動詞の6からもらったお題です。あはは、どうして彼は泣いてしまったのでしょうか？ けど、じゃあ、今度からあなたが作ればあ？ って言いそうな気が……。うわー、きっとツンデレだ。

出会い頭、社会、クリック

出会い頭って言うのは色んなことが起きるの。
よくあるでしょ？

出会い頭で運命の彼との出会い。
大抵はぶつかって、ころぶのよね？

学生のころは図書館がメインね。
社会に出ると、駅が重要なポイントよね。
特に、乗換駅がお勧めね。

という訳で、この乗り換えガイド。
お安くしておきますよ？
どうですか？

明日にでも運命の出会いが起きるかもしれませんよ！

そんな魅惑の乗り換えガイドが、クリック一発であなたのもの。

はい。まいどー！

出会い頭、社会、クリック（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。うーん。何の通販でしょう？単なる時刻表だったりして？出会い頭の恋。うーん。ロマンですね！（出会い頭の事故はいやですね）

円盤投げ、推理、またたび

投げられた円盤を追いかけてきたら、道の真ん中にまたたびがあった。

円盤投げで遊ぶのも忘れて、またたびに見入ってしまった。
なんでこんな所にまたたびが？

不思議に思っ、さらに近づいた。
すごくいいまたたびだ。

僕はひたすら推理し始めた。

なんでこんなところにまたたびが？

そもそも、こんなに良いまたたびはそうないぞ？

このまたたびは素晴らしい。

ああ……、いいまたたびだ。

え？　なんでそんなに拘るのかって？

僕、猫だもん。

円盤投げ、推理、またたび（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。むう。全体的に意味不明ですね。ご主人様とじゃれていた猫が、ふと見つけたまたたびに心奪われる。それだけですな。（なにそれ）

法律、交換、葉

これは何の葉だろう？ お茶か何かだろうか？
でも、違う感じだ。

だって、お湯につけてみたけど、ろくな味がしない。
すごくいいものだって聞いたんだけどな。
変だな。

なんでそんなものを持つてるかって？

玄米茶と交換したんだ。

詳しく聞く前に、その人はどっか行っちゃったけど。

でもね。 いい気分になるよね。

何ていうんだろう、もう全てがどうでもいいや。
けど、いい感じ。

え？ 法律に触れる？

こんなにいい物なの？

ああ、目が回る。

法律、交換、葉（後書き）

三題嚙で10のお題、ブラックの6からもらったお題です。うーん。何だか分からないですね……。きっと、大麻ですね。油に溶かしてお料理に使うなんて方法もあるらしいですねえ。Wikiってほんとに何でも載ってる。（本当かどうかの保障はないですけどね？）

法律、交換、葉 その二

法律に触れるってことは知ってる。

けど、私にはこれしかない。

残された全てとの交換で手に入れた大麻の葉。

最後の瞬間くらい、望むものを感じたい。

深呼吸して粉を吸い込む。

あはは。頭がぼうつとしてきた。

そろそろ見えるかな。

突然ドアが開き、彼が現れた。

「おい！」

ほら見えてきた。

久しぶりね。

「何だそれは！」

何よ。幻覚の癖に泣きながら怒らないでよ。
最後くらい、優しくしてよ。

「バカ野郎！」

あれ……？

幻覚じゃないの？

法律、交換、葉 その二（後書き）

三題嚙で10のお題、ブラックの6からもらったお題です。一つ目が自分でもよく分からない感じになってしまったので、強引にもう一つ作ってみました。結局、葉っぱは大麻ですね。彼を裏切ってしまった彼女、けど、失って気が付いた大事なものを。全てに絶望して、せめて幻覚で彼を感じようとしたけれど……？ うーん。ちょーっと強引ですよねぇ……。

富田林、法螺貝、双子

大阪と和歌山を繋ぐ町、富田林。

その旧家の跡取り娘として生まれた。

跡取りはもう一人居た。

そう。 私たちは双子。

どちらが跡を継ぐのか争ってた。

昔からの法螺貝職人。 継ぐことに魅力はなかった。

けど、家を継ぐなら、幼馴染の彼をお嬢さんにもらえる。

妹の狙いも同じだ。

好みまで一緒じゃなくてもいいのに。

けど、あっけなく解決した。

結局、妹がお嬢さんをもらい、家を継いだ。

そして私は、双子のお兄さんへと嫁ぐことになった。

富田林、法螺貝、双子（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。うーん。法螺貝が意味不明な使い方になってしまいました。双子も、使い方としては決まりパターンかなあ……。

木の机、将棋、パソコン

パチン。

駒が盤上で小気味良い音を響かせる。

木の机に置かれた盤の向こうで、彼女が目を白黒させている。

パソコンを使えば、色々な相手との対局もできるけど。
やはり実際に駒を動かさなきゃ実感がない。

それに彼女だって、十分手強い。
決して気は抜けない。

それでも、この対局に関しては、僕の勝ちだろう。

王手。

「あちゃ。 ねね、もう一局！」
いいよ。」

将棋でくらい、優位に立ちたい。

家に帰ると、彼女の王手にメロメロなんだから。

木の机、将棋、パソコン（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。彼女と自分では、将棋の腕では自分の方が上だけど、彼女との対局はやっぱり楽しい。でも、将棋を離れると、彼女に頭が上がらない。そんな感じ？この二人、結婚してるのかな？

緑、観光、窓

このホテル、すつごく見晴らしがいいのね。
窓の外には素晴らしい景色が広がってるわ。

海の方を見ると、海も空も青くきらめいてるし。
ホテルの庭は、きれいな芝生の緑がまぶしいわ。

とにかく、すごくきれいよね。

「嬉しそうだね」

ええ、あそこに見える島、有名な観光地なんですよ？ 行ってみ
たいわ。

「素敵だろうね」

せっかくの新婚旅行なのよ？ 行きましようよ！

「ああ、是非」

「でも……」

でも、なに？

「でも、締切り、今日なんだ」

緑、観光、窓（後書き）

三題嚙で10のお題、色の7からもらったお題です。新婚旅行で、すごくきれいな景色を目の前にして、二人で見に行きたくてうずうずしてるけど、でも、締切り間際で、観光する暇のない旦那さんは缶詰状態です。でも、奥様は担当編集者？　じゃなきゃ、となりの部屋に担当編集者がいたりして。ちよつとそれは勘弁してほしいですね^^;

境界、七草粥、月下氷人

「七草粥も終わったな」

そうね。おいしかった？

「ああ、けど去年は味なんか判らなかった」

ふふ。あの頃は話もしなかったわね。

「僕たちの間には、境界線があったよね」

そうね。どうしてあんなっちゃたのかしらね。

「好きでいる、その努力を忘れてたのかな」
「努力がいるの？」

「そう思う。嫌かい？」

ううん。素敵だと思うわ。

「それを、配下の仲人を引き受けて気が付いたんだ」

つまり。

あなたの配下が、私たちの月下氷人になった訳ね。

境界、七草粥、月下氷人（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。月下氷人って仲人の意味だそうです。知らなかったあ。で、かなり強引に。ちょっと冷めた関係だった夫婦が、お互いへの想いを再認識するっていうつもりのお話にしました。けど、展開が入りきってない感じ……。む。むずかしー。

鉛筆、お父さん、宇宙

すごいだろ。

「なに？」

これだよ、この鉛筆はすごいんだよ。
すごく滑らかに書けるんだ。

削らなくてもいいし。

それに、あとどれだけ書けるかも判るんだ。

ほら、この透明な部分を通して、芯がどれだけ残ってるか判るんだ。

「……」

こんな便利な鉛筆は、宇宙のどこを探しても他にはないよ！

「それで、それ、いくらしたの？」

安かったよ。

僕はお父さんだからね。父の日の割引で、たったの千円だったんだ！

「それ、百円のボールペンよ」

鉛筆、お父さん、宇宙（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。人のいいお父さんが、父の日に妙なものをゲットしてしまいました。まあ、本人が満足してるのなら……。いやいや、でも、やっぱり人を騙すのはいけませんよね？

喜ぶ、低下、日記

日記をつけると色んなことが判って来る。
いや、忘れなくなる。が正解かな？

普段は忘れてしまってる。

そんなことを日記を読んだ瞬間に思い出すんだ。
とても鮮明に。

喜ぶようなことばかりじゃない。

悲しく、辛いこともある。

そんなときは生きる気力が低下してしまう。

けど、そんなことも含めて、その全てが僕なんだ。

そして、大半は妻と共通の記憶だ。

だから忘れるなんて不可能だ。

だって、どんな記憶でも、それは僕たちの絆だから。

喜ぶ、低下、日記（後書き）

三題嚙で10のお題、動詞の7からもらったお題です。あはは。書いておかないと、忘れちゃうことってありますよね？ けどねえ、二人の絆だって言うなら、日記に書いてなくても、覚えていて欲しいなあ。ほらほら、そのあなた、結婚記念日、昨日だった。なんてこと、ありませんか？ え？ わたし？ いやー、どうでしょ。

スイッチ、桜、ロック

桜の季節は過ぎてしまった。

あんなに好きだったロックのビートでさえ、

今ではただうるさいばかりだ。

ロックのビートに詠っていたのは何時だったろう？
想いは真剣だった。

けど、いざ想いを告げようとすると、僕の口はスイッチが切れてしまった。

もう、手遅れだ……。

ふと、彼女の言葉が蘇る。
「後悔はしないと約束して」

今さら、だろう。

けど後悔したくない。それは約束だ。

顔を上げたとき、ロックのビートが聞こえたように感じた。

スイッチ、桜、ロック（後書き）

三題晰お題作成からもらったお題です。雰囲気だけ？ 自分に正直になろう、そう決心した彼。さあ、その後はどうなったんでしょ？
ね？

くつ下、絨毯、月

昨夜、夢を見た。

とても素敵な夢だった。

夢の中では、魔法の絨毯に乗って空を翔んでいた。
好きなところに行けた。

世界中を飛び回った。

最後には、お月様のうさぎさんにあいさつもした。

本当に素敵だった。

でも、本当に行きたい所にはいけなかった。

幼い頃は、クリスマスの朝、欲しい物がくつ下に入っていたりした。

けど、もう私は大人だ。

それに、欲しいのは物なんかじゃない。

あの人のとなりに居たい。

そう言える、私自身の勇気だ。

くつ下、絨毯、月（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。素直になれる勇氣、それさえあれば、きつといつか。望み、望まれる関係になれる。なんてね。ちょーっと夢を見てる感じですね。

陥落、筆圧、ページ

私は氷の女王って呼ばれてる。

美人だけど決定的に冷たい視線。
私が睨めば、誰もが目を逸らす。

そう信じてた。

けど、あいつ。

思いつきり睨んだのに、柔らかに微笑んだ。

心臓が跳ね上がり、私が目を逸らしてしまった。

以来、教科書のページをめくる手は震えるし、
筆圧もコントロールできずに、ノートはびりびりだ。

こんなにあっけなく陥落するなんて、自分でも信じられない。

けど、このままなんて嫌。

きつとあいつを陥落してみせる。

陥落、筆圧、ページ（後書き）

三題嚙で10のお題、ブラックの7からもらったお題です。ギロつて睨んでやったのに、意外な反応。突然の反応に対応できずに、自分の方が目を逸らしてしまった。そんなことは初めて。それは恋の始まり。でも、彼女は基本的に前向きですね。それにしても、ねえ？ 彼はどうして微笑んだんでしょうね？

ドラ息子、人形、高校

高校の頃、僕の学校には人形がいた。

正確には人形じゃない。よく出来た人形のようにきれいな女の子だ。

けど、最初は本当に人形だと思った。

現実とは思えないくらいにきれいな人形だと思った。

けど、近付いていく僕を向くと、いきなりアカンベーをしたんだ。僕がどれだけ驚いたか判るかい？

でも、きっと遺伝なんだと思う。

僕のドラ息子は、とんでもなく突拍子が無い。そして、何かって言うとかアカンベーだ。

絶対に母親からの遺伝だ。

ドラ息子、人形、高校（後書き）

三題噺お題作成からもらったお題です。あはは。いきなりアカンベ
ーをするなんて、きつと、彼女もずっと待ってたんですよ。で、急
に近付いてきたんで、パニックして、アカンベーを……。うーん。
変なの^^;

からあげ、ティッシューパー、月

今日はからあげ振興財団の会合だ。
どんな会合かって？

ま、ありきたりだよ。

みんなで、からあげを食べながら、ビールを飲むんだ。
いいでしょ？

今年はお月見も兼ねてるんだ。

お月様では、うさぎさんが餅をついてる。
いいでしょ？

でも、徹夜になるから、ティッシューパーが必要だね。
夜明けごろは、鼻水が止まらない。

あれ？ 本当に止まらない。 どうして？

なにになに？ 魔法のティッシュだって？
かめばかむほどはながでる。

ヤメテヨ。

からあげ、ティッシュペーパー、月（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。だいぶ苦し紛れですね。でも、からあげにビール。いいですねえ。飲めば飲むほど飲みたくなる。魔法のビール。ん？これは普通？ 飲めば飲むほど腹が出る。魔法のビール。あ、これも普通？ あはは。魔法のティッシュは迷惑なティッシュですね。

茶、未熟、辞書

「全く未熟ね。 そんなんじゃ、黒帯なんて夢のまた夢ね」
えゝ。 難しすぎますよ。

「なに言ってるの。 あなたの辞書にはやる気ってないの？」

でもお、恥ずかしいですよ。

「だめねえ。 じゃあ、私がお手本を見せてあげるわ」

はい。

と、誰かが通った。

「お兄さん！ かつこいいわね。 学食でお茶でもどう？」

す、素早い！

しかも、なんてストレートな。

さすが逆ナンパ黒帯。

って、それ私の彼なんですけど！

あ！ こら！ 鼻の下伸ばすな！ バカあ！

茶、未熟、辞書（後書き）

三題噺で10のお題、色の8からもらったお題です。逆ナンパの黒帯……。もう、意味不明ですね。それにしても、彼女がいるのに、逆ナンパされてホイホイついていったらダメですよねぇ？学食で彼の背後に立って「なーにーしーてるーのー??」って言ってあげましょう！（意味不明）

お米、新天地、沙羅双樹

お米には色んな種類がある。

普段は気が付かないかもしれないけど、本当に色々だ。

でも、さらに新しいお米を作りたい。

その願いは、常にある。

だから、お気に入りのお米を持って新天地を目指す。

何か違うものが実るかもしれない。

そんな期待に胸を膨らませて、種をまいたのは去年のこと。

諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の鐘の音。

世の理とは常に無常なるもの。

まだまだ、色んなことに挑戦したい。

けど、実ったのは、僕の子供だった。

お米、新天地、沙羅双樹（後書き）

三題噺お題作成からもらったお題です。もう！一体、なんのタネを
まいてるんでしょうね！！お米が生まれたりしたらどうするつもり
！？（うーん。意味不明です）ま、まあ、お互いにきちんと向き合
ってるんなら、口でなんと言おうといいんですけどね？

星座、カレーライス、東京タワー

あなたも星を見てるかしら？

今、あなたに見える星座は何かしら？

日本では、ほら、東京タワーのてっぺんから手を伸ばしたら届きそうよ。

すごくきれい。

ね。どこにいるの？

どこかに、いるよね……？

覚えてる？

二人の最後の食事を。

カレーライスだったわ。

私が作った何の変哲も無いカレーだったけど、とても嬉しそうだった。

あれから十年。

あの笑顔を忘れない。

あのとき一緒に見上げた星空。
星に誓ったわよね。

必ず帰るって。

ね……。

星座、カレーライス、東京タワー（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。何だかちょっと物悲しい雰囲気になってしまいました。けど、きっと、このあとすぐに……。ええ、絶対に帰ってきますよ。だって、二人ともそう願ってるんだから。ね。

書く、説教、爪

ねえ、その癖、止めなさいよ。
ねえってば、聞いてる？

ああ！ もう！ だから止めなさいってば！
私だって、好き好んでこんなお説教してる訳じゃないのよ？
分かってくれるかしら？

あなたにはきちんとして欲しいから。

伸び過ぎたら、書くのに邪魔なのは確かよ。
でも、邪魔ならきちんと切ればいいのよ。

だから……。

あ！ こら！ 止めなさいって！

だから！ どうしてもっていうなら自分の爪を噛みなさい。
自分の爪を！

なんで私の爪を噛むのよ！

書く、説教、爪（後書き）

三題噺で10のお題、動詞の8からもらったお題です。あはは。結局は二人でじゃれてるだけだったりして？

あはは。それにしても、このお話で、ちょうど一年経ちましたね。途切れそうで途切れずに、なんとか繋いでくることが出来ました。これからも、なるべく続けて行きたいと思います。だって、結構、この三題噺を元に膨らましてお話を作るってことが出来そうだし、
^ b

スズラン、原子力発電所、ツナ

奴の昼食はツナサンド。

九州産つてことだったけど。

それは水揚げされたのが九州つてだけ。

どこの海で捕れたのかしら。

どこか原子力発電所の近くに居たかもね？

他にもヤマメ、たけのこ。

たくさんある。

すぐには効かない。

ジワリと溜まる。

けど、気が付く頃には手遅れね。

あの取り澄ました顔に恐怖が浮かぶのはいつ？

歪んでるのは分かってる。

けど、決して許さない。

いずれスズランの根でも齧るわ。

もう、生きるのに疲れたから……。

スズラン、原子力発電所、ツナ（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。うーん。時流には乗ってるかも知れませんが、怖いお話ですね。その辺で売ってる食品も、実際にどんな素性が、よく分かりませんよね。彼女は復讐を誓ったんですね。何があったのか、それは考えてません（あはは、いつものことですな）そして、その復讐を果たしたら、彼女は自分自身も……。彼女自身、それがとても歪んだことだとは判ってるけど、それでも、絶対に許せなかった。うーん。何があったんでしょう。

木の机、シルクハット、ジェットコースター

転校直後、不安に震えながら木の机に座ってた。

そんなとき、彼が「大丈夫だから」そう言ってくれた。

彼はローブを着ている訳でも、シルクハットを被っている訳でも、
勿論、魔法の杖なんて持ってなかった。

でも、それは魔法だった。

嘘みたいに落ち着いた。

微笑すら浮かべて、心から安らげた。

けど、そのときの私はまだ知らなかった。

そのうち、私の心臓が。

彼を見かけるたびに、ジェットコースターに乗った様に暴れてしまっ
たことを。

木の机、シルクハット、ジェットコースター（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。初めての出会い、彼は私を安心させてくれた。とても安らぐことが出来た。それなのに、気がつくと、彼と一緒に居ると落ち着かなくなってしまった。勿論、いやじゃない。けど、近くに居る、そう思うだけで気が遠くなりそうになる。もどかしくも、不安で、そしてとても幸せな時間がやってきた。

衝撃、ペア、追加

もう、いい加減うんざりだ。

俺が何をしたっていうんだ？

真面目に、仕事をしてきただけだ。

なぜこんな仕打ちを受けてるんだ？

県庁、ペアクリエート係。

なぜ俺がこんなことを？

『二十八歳、女性。 希望は高収入で優しい人』

相変わらずの要求だ。

だが、俺には関係ない。

全く忌々しい。

もう、衝撃も受けない。

また追加だ。

『二十六歳、女性』

ん？ 見覚えのある顔だな。

あ、隣の幼馴染じゃないか。

『県庁勤めの、真面目な幼馴染希望』

え。

衝撃、ペア、追加（後書き）

三題嚟で10のお題、ブラックの8からもらったお題です。あはは。幼馴染希望！ いやー、なんでこんなお話になったんでしょう？ 最初は双子ネタに逃げようと思ってたんですけどねえ？

慕情、煎茶、トマト

私はトマトが大好きなの。

サラダにしてもいいけど、鶏肉のトマト煮なんてあったかくて最高！

アイスじゃ慕情をくすぐるのは無理だけど、あつたかい料理は人の心を惹きつけるよね。

思わず好きになりそうでしょ？

え？ そうやって彼を落としたのだった？

うふふ。 ちょっと違うわ。

最初は暖かいお茶を飲むつもりだったの。

彼が煎茶を好きなのを知ってたから。

でも私は、ついビールを……。

たまには酔った勢いっていうのも必要でしょ？ ね？

慕情、煎茶、トマト（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。酔った勢い……。それは素直になる勇気を出すためでしょうか、それとも、単なる考えなし?? いえいえ、単なる飲兵衛です。

からあげ、キャンピングカー、ジェットコースター

僕はキャンピングカーのキッチンでからあげを作ってた。
占い師に言われたから。

「キャンピングカーでからあげを食べるのが吉です」

分厚いサングラスに大きなマスク。
お告げも、格好も怪しかった。

でも僕は信じた。
藁にもすがりたかったから。

が、待つ身はつらい。
いっそジェットコースターから放り出された方が楽だ。

そのとき、彼女が来た。

彼女を見て、思わず笑顔になってしまった。
だって、彼女がサングラスを握りしめてたから。

からあげ、キャンピングカー、ジェットコースター（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。お題としてはかなりおざなりで突拍子も無い使い方になってしまった感じです。けど、彼女は妙な変装をして、ずっと彼を待っていたんでしょうかね？ 吉っていうのは、どっちにとっての吉なんでしょうね？ まあ、どっちにとっても吉なら、それが一番ですけどね！

黒、競争、暖房

戦いは勝たなければ意味が無い。

競争じゃない。お互いを高めることが出来ればいい。
そんな腑抜けたことは言わない。

汚い？ 腹の中が真っ黒？
何が悪い？

勝てば官軍。
負け犬の遠吠えは聞こえない。

暖房が良く効いた部屋でくつろぐ。
その為なら、どんな手だって使うさ。

あれ？ 点かないぞ？

灯油が切れてる？

「買ってくればあ？」

俺が？

「勿論」

俺は疲れ切って帰って来たばかり……。

ああ、もう判ったよ。

全く、お前にだけは勝てないな。

黒、競争、暖房（後書き）

三題噺で10のお題、色の9からもらったお題です。暖房は、ちょっと季節はずれですねえ。でも、勝負になんかならないほど頭が上がりないって……。何か弱みでも握られてるんでしょうかね？
それは、惚れた弱み。ナンチャッテー。あはは。使い古されるパターンですねえ^^；

単刀直入、ハンバーガー、ウエスタンリアット

俺様のウエスタンリアットは無敵だった。

向かうところ敵無し。

どんな相手だろうと、木っ端微塵に粉碎してきた。

だが、世界は広がった。

あんな所で昼食をとらなければよかったのかも知れない。

俺は木っ端微塵に粉碎されてしまった。

単刀直入に言おう。

あれには敵わない。

もう。立ち向かおう、そんな気力さえ起きない。
完敗だ。

しかもお得だ。

ハンバーガーでさえ100円なのに、スマイルは0円。

あの笑顔に、俺のハートは粉々だ！

単刀直入、ハンバーガー、ウエスタンリアット（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。あはは。お得って……。それにしても、ハートが粉々ってことは振られちゃったのかなあ？

マラソン、日溜まり、東京タワー

マラソン。それは気力の戦いだ。

そして、自分に勝つことが出来る人間だけが戦いに参加できる。

今、僕はゴールを見据えてひたすら走ってる。

苦しい。練習のときとは、また別格の苦しさがある。

ゴールはずっと見えてる。

そう。

あの東京タワーの真下がゴールだ。

見えるのに中々近付けない、それが焦りを呼ぶ。

焦るとペース配分が狂う。

それは危険だ。

けど僕のゴールは違う。

僕だけのゴール。

それは、あの日溜まりの花のような笑顔だ。

マラソン、日溜まり、東京タワー（後書き）

文学少女風三題嘶作成からもらったお題です。ゴールに待ってる人がいる。だから頑張れる。彼女の笑顔を見たくて、そして、走りきったら、今日こそ！　なんてね。

残す、グラフ、芯

同じ失敗はしたくない。

だから、必ずデータを残すようにしている。

おかげで、仕事で連続の失敗はほばない。

だから、みんなは誤解してる。

「しっかり芯を持ってるんですね」

「強いんですね」

違う。弱いから必死になってるだけ。

が、仕事はまだいい。

きちんとデータが、グラフがあれば、なんとかなる。

けど、未だに取り戻せない失敗がある。

データなんて判らない。

好きな人を疑う。

どうすれば、その失敗を繰り返さずにすむのだろうか？

残す、グラフ、芯（後書き）

三題嚙で10のお題、動詞の9からもらったお題です。うーん。人間関係は難しいですね、信じたい、けど、相手を思う気持ちが強いほど、不安が大きく、信じる強さが失われてしまう。そんなこともあるかなあ？ 多分、お互いの努力が必要なんだろうなあ、なんてね。

カクテル、風呂、明け暮れ

思えば若かった。そう言うことなのかもしれない。
あの人のそばに居たくて、毎日通ったカクテルバー！。

あの人に進められるままに、ただ飲み続けた。
目的はあの人。

あの人が、誰かと親しそうに話すのをみるのは苦痛だった。

でも、そんなことに明け暮れている日々なんてあっけない。

中途半端な関係なんてのは、突然終わる。

銭湯の前で、手をさすりながら呟く。

「湯冷めしちゃうよ」

あの人のアパートにお風呂がないなんて知らなかった。

カクテル、風呂、明け暮れ（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。七夕ですけど、直接の関係はないですねえ。この二人はぼろなアパートか何かで暮らしてるんでしょうね。でも、二人とも仲良くお風呂に行く関係なんですね。いいですよ。お互いに好き。って^^^；（突然、なんでしょね……）

秋刀魚、シルクハット、ストーブ

あなたはストーブに何を期待するのかしら？
おもちを焼くの？

それに秋刀魚も？ 食い意地がはってるのね。

でも、それはストーブじゃ難しいでしょ？
秋刀魚を焼くなら、七輪じゃないかしら。

でも、秋刀魚が好きなのね。 へえ。

けど変ね。

あなたはシルクハットなんて被ってないけど、魔法使いなの？

だって、私は秋刀魚なんか好きじゃないのに。

今は焼こうと思ってる。

え？ 私がストーブに期待すること？
もちろん、あなたとの暖かい関係よ。

秋刀魚、シルクハット、ストープ（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。落ちへのひねりがイマイチな感じですねえ……。それにシルクハットも強引だし……。

圧迫、花束、舵

踏み出すべきなのは判る。

それは今？ それともまだ？

だが、精神的な圧迫は日に日に強くなる。

けど戸惑いも強い。

本当に、僕は踏み出せるのか？

ふと、恐ろしい未来が心をかすめる。

一歩も踏み出せず、一片の花さえ残らない花束を抱えて朽ち果てる自分。

このままじゃ、そうなる。

手に入れてもないものを失うことを恐れて躊躇してもダメだ。

彼女がやって来るのが見えた。

とにかく。

僕の人生の舵取りは、僕がやらなきゃいけないんだ。

圧迫、花束、舵（後書き）

三題噺で10のお題、ブラックの9からもらったお題です。ええ。告白を躊躇う、怖がる彼。踏み出さなければ何も得られない。判ったから出来る、なら誰も悩まない。そして、それでも前に進むことが出来た人が何かを得られる。ってことでー。

ファミコンチャンプ、狐、獅子

この勝負、あいつにとっては不運だった。
あいつは、まるで狐につままれた様だった。

完膚なきまでに叩きのめした。

獅子はうさぎを倒すのにも全力を尽くす。
それが礼儀だ。

「だから言っただろう？ 俺はファミコンチャンプ。俺に勝とうなんて、無理だね」

「判ったわ。じゃ、これで勝負よ！」

「ふ。無駄なことを。って、それは！」

「そう、囲碁ソフトよ？ いざ勝負！」

ファミコンに囲碁？ 何それ！

狐につままれた様な気分ってこんな感じかな。

ファミコンチャンプ、狐、獅子（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。狐につままれた、で落としてしまいました。けど、この二人、どうして勝負してたんでしょね？ その日のご飯当番を決める勝負。最初はそんな設定だったんですけど、どっかにいっちゃいましたねえ……。

石ころ、鈴、バス

私が石ころだったら、何も感じなかっただろうか。

あの人が、私など見ていないと知ったとき。
私の中で何かがずれた。

迫り来るバス。　きっと止まりきれない。
それでいい。　これで私は石ころになれる。

早く楽になりたい。

どこかから鈴の音が聞こえた様な気がした。
酷く悲しい音。

次の瞬間、バスは通り過ぎ、石ころに成り損ねた。

「ばかやろう!」

私の腕を引っ張って泣き叫ぶ、アンタが本当のバカよ。

でも、バカ同士も悪くないかな……。

石ころ、鈴、バス（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。助けてくれたアンタ、誰でしょう？ でも、その顔を見ながら、ふと、この人と一緒になら、生きていくのも悪くないかもしれない。なぜか突然そんなことを感じた彼女。 って意味不明な感じですねえ……。

白、流行、椅子

今年の流行は何かしら？

流行の最先端に行く、それも捨てがたいわね。

けど、十分に納得したい。

うーん。

ピンクは可愛い感じでいいわね。

青は、ちょっと個性的だけど、でもオトナの雰囲気かしら？
それなら、赤にすれば、情熱的で印象に残るかもしれない。

何にしても、椅子に座ってカタログばかり見ても決まらないわね。

え？ 最初？

それは勿論、白よ。

彼の色に染まるため？ ちょっと違うわ。

二人で協力して、未来を描くためよ。

白、流行、椅子（後書き）

三題噺で10のお題、色の10からもらったお題です。あはは。はい、そうです。ウェディングドレスを選んだ最中の彼女の思いです。男の人用って、種類はあんまりないですよー。

渡り鳥、積乱雲、チーズ

積乱雲は嫌い。梅雨が終わった頃。

積乱雲が浮かび始めると、彼は出掛けてしまう。

待ってる、そんな言葉もくれずに、居なくなってしまふ。

渡り鳥じゃないけれど、夏が来ると私の許から飛び立っていく。

けどチーズは好き。

おこたで、チーズにワイン。

なんて始める頃に、彼が帰ってくる。

夏の間、思いっきり飛び回って疲れきって帰ってくる。

待ってる、とは言わないくせに。

私が待ってることを知ってるのね。

ちよつとずるいと思うな。

渡り鳥、積乱雲、チーズ（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。夏になると、どっかに行ってしまう彼。けど、冬になるころには、必ず帰ってくる。約束はなけれど、それはお互いの暗黙の了解。そのうち、きっと約束が生まれる。けど、一方的に待つ、今は、ちょっとあいつがずるいと思う。なーんてね。

緑のカーテン、日溜まり、ゴルフ練習所

今年も暑い。

日溜まりなどに立ってたら、途端に熱中症で倒れてしまいそうだ。

けど、うちは大丈夫だ。

だって、緑のカーテンがあるから。

省エネで、涼しくて、しかも野菜まで採れる。

もう、元気いっぱいだ。

という訳で、今日もゴルフ練習所通いさ。

スパーンと思いつきりボールを飛ばすと、とても気分もいい。

けど、家に帰ったとき。そんな気分は吹き飛んだ。

やられた……。

泥棒だ。

緑のカーテンはエコだけど、防犯的にはダメな様だ。

緑のカーテン、日溜まり、ゴルフ練習所（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。あはは。そうなんですよ。緑のカーテン、窓とかの前をさえぎっちゃうから、そこで泥棒さんが何かをしても見えない。防犯的にはイマイチなことがあるらしいです。

飛ぶ、役員、実際

うちの学校の生徒会は怪しい。

彼らはいったい何をやっているのだろうか？

生徒会とは名ばかりで、実際は何かの秘密組織じゃないのか？

なぜそう思うのかって？

何せ、役員が全員怪しい。

書記が字を書いているのは見たことがない。

会計は数字が苦手だ。

副会長は空を飛ぶ。この間もどこかに飛んでいった。

怪しいだろ？

え？ 会長？

会長には言葉が通じないんだ。

人の話を聞かないとか、そんなことじゃない。

まあ、怪獣だから仕方がないけど。

飛ぶ、役員、実際（後書き）

三題噺で10のお題、動詞の10からもらったお題です。うーん。
怪獣じゃ致し方ない。でも、他の人たちは、本当に人間なのかなあ
？

礼拝堂、国旗、鬼太郎

最近、鬼太郎がおかしいんだ。

信じられるかい？ 毎朝のお祈りは欠かさないんだよ。

日曜日には礼拝堂に通い、聖書を読み上げてる。

そして、肌身離さず十字架を持ってるんだ。

絶対に変だよ。

あれ？ 珍しい車だな。

異国の国旗を掲げた車がゆっくりと走ってくる。

おや？ 鬼太郎がすごい勢いで走っていくぞ？

あれれ？ その後を、猫娘がプリプリ怒りながら付いていく。

なるほどね。

お化けには学校も、試験もないけど。

三角関係はあるのかな？

礼拝堂、国旗、鬼太郎（後書き）

三題嚙お題作成からもらったお題です。鬼太郎は異国のクリスマスチャ
ンに恋しちゃったんでしょうかねえ？ やっぱり、それはお化けな
んでしょうか？ それとも人間？ それにしても、訳のわからない
展開ですね……。

ベランダ、温泉、太陽

僕のうちには素敵なベランダがある。

何が素敵って、あのベランダにいと癒されるんだ。
温泉にでも行けば、体の疲れはとれるかもしれない。
けど、あのベランダはもっと凄いんだ。

優しく茜色に染まる夕焼けを見てみると、とても落ち着くんだ。
そして、心の内側から力が湧いてくる。

そんな時、いつの間にか、一人増えてるんだ。
となりの家のベランダから、彼女がやって来てる。

朝日のような笑顔の彼女が。

そう。僕のもう一つの太陽。

ベランダ、温泉、太陽（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。幼馴染の彼女と、いつの間にかベランダでお互いの欠片を交換し合っていた。そして、一番お互いを理解して、愛しむ様に……。なーんて。ワンパターンです
ねえ^^;

最後、膝、ホッチキス

僕の膝は笑ってた。

とても大事な大会だから。

優勝賞品が欲しいのかって？

そうじゃない。大体、魔法のホッチキス一年分って、何の冗談だ？

優勝したら告白する。

大会は僕自身との戦いの前哨戦だ。

でも思い通りには行かない。

結局、優勝出来なかった。

悔しかった。

告白は、僕の本当の戦いは不戦敗……。

そんな僕の前に彼女が現れた。

彼女の笑顔に導かれ、素直な気持ちを出すしかなかった。

けど、驚いたことに、最後は完全優勝だった。

最後、膝、ホッチキス（後書き）

三題噺で10のお題、ブラックの10からもらったお題です。結局、こんなお話に。自分自身に弾みを付けるため、何かを達成したら、その勢いで！ けど、それが出来なかった。自分で課してしまつた条件に阻まれ行き詰ってしまう。でも、結局は素直な気持ちを出してしまった。一番大事なことは、お互いが素直になることだから。

ロシア、八極拳、かまど馬

かまど馬って害虫ではない。

けど、好きっていう人も居ない。

見かけたら追い払いたくなるよね。

でも、八極拳でも追い払うのは難しい。

まあ、虫だから仕方ないけどね。

なんで嫌われてるのかって？

まあ、ほら、ほにやらコオロギだもんね。

それって、国でも同じかもね。

ロシアって嫌なイメージが強くない？

でも、イメージばかりでしょ？

本当は違うと思う。

きつと、いい国だよ！

だって、ウオツカ美味しいし！

「そこかよ、酔っ払い！」

ロシア、八極拳、かまど馬（後書き）

三題噺お題作成からもらったお題です。うーん。八極拳が相当無理やりですねえ……。転換もむちゃくちゃだし……。はあ、ちよつとスランプかなあ？ とにかく、三題噺さんまい、一応400話を突破したことを契機に、不定期更新に切り替えようと思います。もうちょっと他のお話づくりに時間を作りたいな、と思ひまして……。でも、止める訳じゃないんですよ？ だから、きつと、多分、一週間に一週くらいは更新するんじゃないかなあ？？ あはは。では！。

鉛筆、温泉、五十音

私は今、どこに居るんだろう？

生まれた所は温泉街だった。

そこは閉ざされた場所の様な気がした。

だから、抜け出すために必死になった。

机にかじりつき、鉛筆をなめ、必死に勉強した。

そして、自分で選んだ世界に飛び出した。

その生き方は間違ってなんかいない。

けど、何かが足りない気がした。

学校で習った五十音は完璧に覚えた。

勉強だから、当然だ。

けど、いろは歌の心を感じる余裕があれば。

違う可能性を夢見たのだろうか……。

鉛筆、温泉、五十音（後書き）

文学少女風三題嘶作成からもらったお題です。私の場所はここじゃない、そんな思いで必死に勉強して、前を向いて、前だけを向いて生きてきた。けど、ふと振り返ったとき、それ以外の人生の可能性に関して、つい考えてしまった。って感じてしまうか？ それでも、彼女は、自分の人生を後悔なんかしてはいないんですけど、ね（そんなの、書いた人のつもり、でしかないから、分からないですよねえ……。なんだか、よく分からないお話になってしまいました……）

石原軍団、水茶屋、変質者

石原軍団って凄いよ。

もう、モテモテ。　ずーっとモテキだよ。

だから、街中に出掛けると大変だよ。

周囲の嬌声が凄くて、僕たちの会話が聞こえないんだよ。

ああいうのを、黄色い悲鳴っていうんだよね？

休憩に水茶屋とかに行っても、やけにサービスがいいのも特権だね。

ああ、でもね。

調子に乗って僕の役どころを教えると途端に皆引いちゃうんだ…。

どうしても知りたい？

仕方がない。　じゃ、教えてあげる。

「僕、変質者担当なんだ」

石原軍団、水茶屋、変質者（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。久しぶりです。お題自体は
ずーっと前にもらったものです。ちょっとむちゃくちゃでした。変
質者担当ってなんでしょね？ 本当の変質者じゃないんでしょうけ
ど……。やっぱり、変質者コンテストか何かにすれば良かったかな
あ？

野良犬、絨毯、大学

「なあなあ、あれ何？」

「あれは、犬だよ」

「それは見れば分かるさ、随分とえらそうじゃないか？」

「昔は野良犬だったらしいけど、今は本当に偉いんだよ」

「何がだよ。ご主人様の帰りでも待つのか？」

「それは違うけどさ。あ、ほらほら、今の見た？」

「ああ、絨毯に上がる前に足の泥を払ったな。頭が良いんだな」

「な？ 偉いだろ？」

「いや、だからって……」

「ワンワン！（静粛に！）」

「だからって、何で犬が大学教授なんだよ！」

野良犬、絨毯、大学（後書き）

文学少女風三題嚟作成からもらったお題です。うーん。最初は大学を卒業してるんだよ。くらいを考えたんですけど……。それにしても、野良犬がちょっと弱かったかなあ。

時代小説、笑顔、桐生一馬

俺は桐生一馬。クールで、パワーみなぎる男だ。
え？ 知らない？

まあ、所詮は闇の世界に生きる人間だからな。
一般人には縁が無いかもしれん。

おい、だからって時代小説で探すんじゃない。
さすがにそんなに古い人間じゃない。

にしても、はぐれ者を束ねるには、力だけじゃダメだ。

包容力ってのが大事だ。

俺の笑顔が人を惹きつけるのさ。

そう。貴重な笑顔だぜ？
特別に披露しよう。

むむむ……。

あ、貴様！

俺が苦勞してるのに、なぜ笑う！

時代小説、笑顔、桐生一馬（後書き）

三題噺お題作成からもらったお題です。うーん。よく判らない……。桐生一馬って、『龍が如く』っていうゲームのシリーズの主人公で、まあ、いわゆる極道の人らしいです。いやあ、それはいいんだけど、そんなキャラをどう使えと？　なんだか半端な、苦笑い状態です……。

UFO、ボス、大学

どこの大学にでも変な同好会はあるけど、うちはすごい。

UFO同好会。名前は普通だね。

幾つかのグループがある。

まずはUFOの秘密を研究するグループ。

UFOの呼び出し方を研究するグループ。

そして、宇宙人に関するグループ。

これが一番変なんだ。

地球に来ている宇宙人を探すのが一つ。

でも、色んなバイトをして地球の生活を調査する活動がメインなんだ。

変だろ？

まあ。会長が宇宙人だからね。

名前はジョーンズ。通称、ボス。

UFO、ボス、大学（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うあ、こつ来たか！
なんて……。ボスをどう使おう？ と考えながら書いていたら、途中でこんなラストになってしまいました。うーん、ろくでもない、すばらしき世界！

祭日、ビアサーバー、菊

菊ってきれいだよな。

近くのお寺で、時に開かれる菊の品評会は楽しみだったな。

そうそう。

家内ともその品評会で出会ったんだ。

野菊みたいに可憐で、一目惚れだったよ。

最初は、休日は二人で菊の品評会巡りだったな。
そ。趣味も合ってたのさ。

そのうち映画にも行くようになった。

ま、休日になると出かけてたよ。

今はどうかって？

ほとんど家に居るよ。

必需品は、土日は一升瓶、祭日はビアサーバー！

俺も一緒。今でも趣味は一緒だね！

祭日、ピアサーバー、菊（後書き）

三題嚙お題作成からもったお題です。ほーほほほ。いいですねえ。
おうちにピアサーバー！けど、そんな極楽では、すぐにおなか
がビア樽なんて地獄に堕ちるかも……。たはは。

祭日の使い方がイマイチだったんで、ちょっと捻りなおしました。
落ちの雰囲気もちよっと変わったかも？

物干し竿、キャンピングカー、またたび

今度はどこに行こうか？

海がいいかな、それとも山かな。

キャンピングカーがあるんだから、宿は気にしないでいい。
いつでも、どこでもいいんだ。

食事もあるし、トイレだってある。

それに洗濯機だってあるんだよ。

乾燥機があるから物干し竿も必要ない。

とにかく、どこに行っても、全然困らないさ。

だから、どこに行こうか？

「もう。キャンピングカーって、まるでまたたびね」

ちょっと違うかな。

君と行くことが、僕のまたたびだよ。

物干し竿、キャンピングカー、またたび（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。物干し竿とまたたびを絡ませるはすごく難しいです……。ちゃんとは出来てないですねえ……。

物干し竿、キャンピングカー、またたび その二

各地をキャンピングカーで旅するのが俺の趣味だ。
気ままな旅さ。

またたびの実もある。

食べれば、又、旅が続けられるから。
しゃれじゃないよ。ホントだよ？

ま、気の持ち様かも？

それにしても、今回は変な連れがいて洗濯物が溜まるのが早い。
晴れてる今の内に、干さないかね。

「こら！ 俺の刀をそんなことに使うな！」

「長くて丁度いいんだ、物干し竿に」

「物干し竿って言うな！」

「そう言えば、おまえ誰？」

「俺は佐々木小次郎だ！」

物干し竿、キャンピングカー、またたび その二（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。最初に作ったのが、
どうも納得がいなくて、もう一つ作ってみました。物干し竿、佐
々木小次郎の刀が確か、そう呼ばれてたんだよねえ、と思ってそれ
を軸にしてみましたけど。うーん。まとまりが悪い感じです……。
けど、またたびの語源、そんな説もあるらしいですよ。イヤホント。
けど、やっぱり相変わらずまたたびがうまく絡みません……。

カーニバル、ラケット、菊

今年もカーニバルが始まる。

毎年恒例の優勝のほろびが俺のねらいだ。

それは好きな子に告白できる権利。

因みに今年のお題は卓球だ。

今年こそ、野菊の様に可憐な彼女に告白する！

興奮でラケットを持つ手が震えてる。

だが、奴が居る。 奴は強敵だ。

そして何故か昔から好みが同じだ。

まさか奴も？

負けてたまるか！

と、何とか気迫で優勝をもぎ取った。

けど忘れてた。

カーニバル、ラストの決まり文句を。

それはいつも「ごめんなさい」だ。

カーニバル、ラケット、菊（後書き）

三題嚙お題作成からもらったお題です。カーニバルも辛かったです
が、菊が使いどころが全く思いつかずに、先日と全く同じ使い方に
なってしまうました……。うーん。

緑のカーテン、虫眼鏡、熱湯

緑のカーテンってエコだね。

けど、カーテンは、やっぱり開け閉めしたい。

で、作った電動開閉式の緑のカーテン。

虫眼鏡で隅々まで見ても、どこにモーターが付いてるか判らない。すばらしい出来だ。

けど、節電ブームで却下された。

で、次のプランだ。

自分で電気を作る。但し冷却用に大量の水が必要。海水はダメ。すぐ熱湯になるから。

そう。原子力緑のカーテン。これで完璧。

ガガッ！ 何の音？

あれ？ ガイガーカウンターに反応が……。

緑のカーテン、虫眼鏡、熱湯（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。ちよ。ちよつと危ないです。緑のカーテン、原子力を使って何をするんでしょうねえ？お湯を沸かしてお茶を入れる？ うーん。我ながら危ないお話です。

コーヒー、ノストラダムス、クラリネット

うわ。　なんだこりゃ。

で、僕のクラリネットはどこだ？

けど、すごい惨状だな。

一升瓶、ビール瓶、ワインボトル。あ、これは焼酎？

うわあ、これは幻の大吟醸じゃないか。

これ、本当にお前一人で？

酒くさいぞ？

コーヒーでも飲んで目を覚ませよ。

え？　何だつて？　予想できなかった？

まあ、ノストラダムスだって、外した予言はあるからな。

でも。　何が予想外？

え？

「クラリネットが予想外に高く売れたから、お酒飲み過ぎちゃった」

クロス。

コーヒ―、ノストラダムス、クラリネット（後書き）

三題嚟お題作成からもらったお題です。クラリネット、困りました。結局売り飛ばしました。そして、コーヒ―を使うために深酒を……。うーん。良いお酒は本当においしいですよ！

マラソン、セロハンテープ、緑茶

もう限界。これ以上は無理。

なんでマラソンなんかに挑戦したんだろう。

ああ、咽がカラカラ。

と、突然、煙と共に白いひげのお爺さんが。

あちゃー。また神様だ。

どうせ役に立たない。

「金のセロハンテープ、銀のガムテープ。そして、鉄の緑茶。どれが欲しいかね？」

また訳のわからないことを。

けど、ここはやっぱり。

緑茶ちよーだい！

でも……。あれ？ちつとも飲めない。どうして？

「言ったじゃん。鉄だつて」

やっぱり役に立たない。

マラソン、セロハンテープ、緑茶（後書き）

文学少女風三題嚆作成からもらったお題です。うーん。ちょっとグダグダですね。セロハンテープが何の意味もないですね……。それにしても、現れた瞬間に諦められてる神様っていったい何でしょうね？どうしてか、今回はそんな神様になってしまいました。

公園、雪、笑う

雪はきれいだ。 暖かい部屋から見ればね。
だが、寒空に震える身には、ただ冷たいだけだ。

笑うつて、どんなことだっただろう。
今、それがどういふことか思い出せない。

どうして？

いや、当たり前だ。 俺が悪い。

この公園にも、様々な記憶があるけど。
もう、取り戻せない。

後悔の涙と共に、思いが零れた。

「すまない……」

と、傘が差しかけられた。

「今度だけよ」

彼女の顔は苦笑い。

その顔に本当の笑顔を取り戻したい。

そう決意した。

公園、雪、笑う（後書き）

えー。何かクリスマスっぽいのを……。そう思ってお題を設定してみたのですが、書いてみたら、湿っぽいお話になってしまいました。もっとストレートに公園で雪だるまでも作って笑い転げる、そんなお話でも良かったのかもしれませんが……。ま、まあ、こうして、改めて誓えば、それはとても強くなれる、ってことで！

公園、雪、笑う その二

寒いなあ。布団から出たくないなあ。
けど、パパに起こされた。

「外を見てごらん？」

「あ。 雪！」

「雪だるまでも作るか？」

「うん！」

私は着替えると走り出した。 パパったら、笑うばかりで動くのが遅い！

「早く！」

公園は一面の雪。

「うわあ！ きれい！」

誰の足跡もない。

「一番！」

「こっち見てごらん？」

素直に振り向いた私がバカだった。
直後、私の顔面に雪球が直撃した。

ホント、パパって幼稚なんだから。

でも、私は笑顔だった。

公園、雪、笑う　その二（後書き）

という訳で（？）、無邪気に雪で遊ぶ（じゃれあってる？）パパと娘のお話（にはなっていない？）です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2622m/>

三題嚟さんまい

2011年12月25日15時45分発行